

2023-2024

北海道立帯広美術館年報

令和 5 年 - 6 年度

BIENNIAL REPORT OF
HOKKAIDO OBIHIRO MUSEUM OF ART
2023-24

展覧会事業	
コレクション・ギャラリー一覧	1
ポスターに乾杯!	2
静かに流れる一思索を誘う版表現	3
Home	4
プレイバック平成☆十勝美術の30年	5
世界の版画から	6
帯広美術館コレクション選II みんなの帯広美術館	7
帯広美術館コレクション選IV～はるかなるとき～	9
特別展一覧	10
丘の上のミュージアム、とっておき10選	11
見えない音を描く	12
リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界	15
深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ	22
坂本直行展～直行さんの足あと～	27
写真展 星野道夫 悠久の時を旅する	32
帯広美術館コレクション選I～森と林のあわいに～	38
帯広美術館コレクション選III なにげない瞬間	41
教育普及事業	44
美術講演会／アーティスト・トーク等	44
特別展セミナー	44
ギャラリー・ツアー	45
トーク&レクチャー	45
キッズ・ツアー	45
キッズ・ミュージアム	46
ワークショップ等	47
コンサート	47
芸術週間	47
おびひろ氷まつり協賛事業 「美術館 de 氷まつり」	48
団体オリエンテーション	49
セルフガイド(クイズ)	49
博物館実習	50
教員研修プログラム	51
オンラインアート教室	51
学校教育との連携	52
他団体との連携	53
その他	53
美術作品の収集	54
2023(令和5)年度 作品収集状況	54
2024(令和6)年度 作品収集状況	54
図版目録	55
美術作品の貸出	58
特別観覧	58
貸館事業	58
名簿	59
建築概要	60
設備概要	60
沿革	60
観覧者数一覧	62

コレクション・ギャラリー一覧

2023（令和5）年度

No.	展覧会名	会期	開催日数
1	ポスターに乾杯！	4月22日（土）－6月11日（日）	44
2	静かに流れる－思索を誘う版表現	6月24日（土）－8月20日（日）	50
3	Home	9月9日（土）－11月19日（日）	63
4	プレイバック平成☆十勝美術の30年	12月2日（土）－3月10日（日）	71

2024（令和6）年度

No.	展覧会名	会期	開催日数
1	世界の版画から	4月20日（土）－6月30日（日）	72
2	帯広美術館コレクション選II	11月1日（金）－12月22日（日）	52
3	帯広美術館コレクション選IV	1月11日（土）－3月16日（日）	56

※7月1日－10月31日は改修工事のため休館

ポスターに乾杯！

会期=2023（令和5）年4月22日（土）-6月11日（日） 44日間

主催=北海道立帯広美術館

観覧料=一般260（210）円、高大生150（110）円

中学生以下、65歳以上、高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は毎週土曜日、こどもの日（5月5日）が無料

（ ）内は10名以上の団体割引の料金

ポスターは商品やイベントを宣伝するために制作されるものであり、嗜好品である「お酒」も重要な題材の一つである。本展では、20世紀前半のヨーロッパで制作された酒類ポスターを展示。ボトルを意匠化したものや銘柄名から発想したもの、飲む人々を描いたものなど、多様な表現を紹介した。展示は食前酒からビールやワインに始まり、ブランデー、キナ酒、アニス酒も取り上げ、食後酒へと続く構成とした。



会場風景

○ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
1	レオネット・カピエッロ	食前酒「モーラン・キナ」	1906	リトグラフ、紙	150.3×110.5
2	ロビイ	食前酒「トニ=コーラ」	1935	リトグラフ、紙	200.0×130.0
3	ウジェーヌ・グラッセ	あんず酒「アブリコティーヌ」	1895 頃	リトグラフ、紙	109.5×149.5
4	ジョルジュ・ファーヴル	ビール「ティタン」	1933	リトグラフ、紙	150.0×113.5
5	クロード・ガドゥー	ワイン「ローマ軍」-赤・ロゼ・白	1935	リトグラフ、紙	159.0×119.0
6	フレデリコ・リバス・モンテネグロ	マルケス・デル・メリト、ワインとコニャック	1920	リトグラフ、紙	152.0×109.0
7	ジュール・シエレ	マリアーニ・ワイン	1894	リトグラフ、紙	53.9×37.3
8	カッサンドル（アドルフ・ジャン・ムーロン）	ゲンチアナ=キナ酒「ボナル」	1933	リトグラフ、紙	154.2×114.5
9	ジュール・ドランシー（ジュール・イスナール）（原画）	細い瓶の高級酒「ニコラ」	1935 頃	リトグラフ、紙	231.0×154.0
10	レイモン・サヴィニャック	アルマニャック「リスト」	1943	リトグラフ、紙	151.8×109.3
11	J. スプリング（アンドレ・ラブシェフスキー）	コニャック「ソラン」	1930	リトグラフ、紙	151.4×113.7
12	ロジェ・ド・ヴァレリオ	チェリー・ブランデー「モーリス・シュヴァリエ」	1935	リトグラフ、紙	160.0×120.0
13	レイモン・デュカテ	南仏のアニス酒「フェリ45」	1938 頃	リトグラフ、紙	150.0×111.8

* 寸法は縦×横

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵

静かに流れる一思索を誘う版表現

会期=2023(令和5)年6月24日(土)~8月20日(日) 50日間

主催=北海道立帯広美術館

観覧料=一般260(210)円、高大生150(110)円

中学生以下、65歳以上、高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は毎週土曜日が無料

道みんの日(7月17日)はすべての方が無料

()内は10名以上の団体割引の料金

さまざまな版表現を紹介するにあたり、身近なことわざを手がかりに鑑賞と考察を深めることを試みた。「深い川は静かに流れる」という言葉が示すように、優れたもののほど多くを語らない。作品もまた豊かな情報を内包しつつ静かに佇み、鑑賞者に読み解かれる時を待っている。作品の奥行きに思いを巡らせ、秘められた表現を探る機会とした。



会場風景

○ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	池田 緑	Silent Breath サホロの7ヶ月(1999年8月13日~2000年3月19日)	2002(平成14)	インクジェットプリント、紙	76.3×57.0
2	ジョージ・シーガル	前向きの二人の人物	1975	エッチング、アクアチント、紙	85.0×126.5
3	島 州一	指紋と木目	1976(昭和51)	シルクスクリーン、角材	11.0×11.0×26.0 ほか(24点組)
4	ジェームズ・ローゼンクイスト	《水の惑星によろこそ》頭蓋のスナップ	1989	リトグラフ、コラージュ、エンボス、カラード・プレスト・ペーパー・バルブ(着彩手漉き紙)	径151.1
5	ジェームズ・ローゼンクイスト	《水の惑星によろこそ》頭蓋のスナップ、ステートI	1989	リトグラフ、コラージュ、エンボス、カラード・プレスト・ペーパー・バルブ(着彩手漉き紙)	径151.1
6	ニルス=ウド	マロニエの葉/フランス、オート=ソーヌ県、エクヴィレイ、1985年	1985	イルフォクローム	74.3×74.4
7	ニルス=ウド	氷面、シダの葉/フランス、リムーザン地方、ヴァシヴィエール湖、1987年	1987	イルフォクローム	99.8×99.8
8	ニルス=ウド	ロードデンドロン(オリーブ)の葉/フランス、リムーザン地方、ヴァシヴィエール湖、1987年	1987	イルフォクローム	99.9×99.7
9	池田 良二	The depth of the desert(砂漠の深淵)	2007(平成19)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、紙	70.0×56.8
10	ロイ・リクテンスタイン	睡蓮と雲	1992	シルクスクリーン、ステンレス	167.6×114.3
11	中谷 有逸	碑・古事記(二人)	2008(平成20)	ステンシル版、キャンバス	162.0×130.4
12	井田 照一	Surface is the Beetween-BeetweenVertical and Horizon-Paper Between a Leaf and Shade No.1	1979(昭和54)	リトグラフ、両面刷り、紙	49.0×29.6
13	太田 三郎	Seed Project マメグンバイナズナ 1992年8月6日香川県小豆島寒霞溪	1992(平成4)	和紙、種子	20.4×11.7
14	太田 三郎	Seed Project ヘリクリサム 1995年7月26日山形県山形市霞城公園	1995(平成7)	和紙、種子	20.8×11.8

* 寸法は縦×横

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵

会期＝2023（令和5）年9月9日（土）－11月19日（日） 63日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般 260（210）円、高大生 150（110）円

中学生以下、65歳以上、高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は毎週土曜日が無料

開館記念日（9月22日）、芸術週間（11月1日－7日）は観覧無料

（ ）内は10名以上の団体割引の料金

“Home”は、家や住まい、家庭、故郷を意味する言葉である。そこからは、安心できる居場所や家族の温もり、幼少期の思い出などが想起される一方、不安や孤独を抱える空間という側面もある。本展では、コレクションから住宅や家庭、作者の自宅周辺の風景を主題とした作品を紹介。版画、油彩画、写真で表現された多様な「ホーム」の姿を通して、その意味の広がりを探る機会とした。



会場風景

○ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
1	福井 正治	北方村落 A	1983（昭和 58）	油彩、キャンバス	162.5×162.5
2	岡部 昌生	オビヒロ・マトリックス 1991 の 10 ピース	1991（平成 3）	フロッタージュ、鉛筆、紙	各 50.9×39.4 （10 点組）
3	アシーユ・キネ	自然の習作 家屋	1868 頃	鶏卵紙プリント	24.2×19.7
4	ジェグレール	農家	1870 年代	鶏卵紙プリント	21.3×26.7
5	ポール・ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング、紙	9.5×14.0
6	ジュール・デュブレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ、紙	13.7×20.7
7	小谷 博貞	窓	1954（昭和 29）	謄写版、紙	22.1×19.1
8	長谷川 哲	HOME 1997-2	1997（平成 9）	写真、印画紙	86.3×148.5
9	能勢 眞美	ゴルフを遊ぶ庭	1931（昭和 6）	油彩、キャンバス	130.5×193.5
10	ロイ・リクテンスタイン	青い床の室内が描かれた壁紙	1992	シルクスクリーン、紙	259.0×387.5 （5 点組）
11	神田 日勝	画室 E	1967（昭和 42）	油彩、板	163.0×183.0
12	能勢 眞美	坐婦	1937（昭和 12）	油彩、キャンバス	128.5×79.3
13	多賀 新	不安な室	1973（昭和 48）	エッチング、アクアチント、メゾチント、紙	36.5×48.0
14	ジャン＝フランソワ・ミレー	裁縫する女	1855—56	エッチング、紙	10.5×7.4
15	レイモン・トゥルノン	理想の浴室	1895 頃	リトグラフ、紙	121.0×80.5
16	G.ベルニ	最高級浄水器	1893	リトグラフ、紙	128.5×99.0
17	矢柳 剛	飛んだえんぴつ バレンタインデー	1982（昭和 57）	シルクスクリーン、紙	38.7×38.7

※寸法は縦×横

※No.1、11、14 は帯広市寄託、他は北海道立帯広美術館蔵。

プレイバック平成☆十勝美術の30年

会期=2023(令和5)年12月2日(土) - 3月10日(日) 71日間

主催=北海道立帯広美術館

観覧料=一般260(210)円、高大生150(110)円

中学生以下、65歳以上、高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は毎週土曜日が無料

()内は10名以上の団体割引の料金

「平成」の30年間(1989-2019)、十勝においても時代に連動した多くの作品が生み出された。

また当館は平成3(1991)年に開館し、平成の時代とともに歩んできた美術館でもある。平成10年からは地域ゆかりの作家に着目した個展形式のシリーズ「十勝の新時代」を開始。第10回まで継続して開催するなど、十勝地域の美術動向を紹介してきた。

本展は、「十勝の新時代」シリーズで取り上げられた作家の作品を中心に展示し、平成の十勝美術を振り返った。



会場風景

○ 出品目録

No.	前期/後期	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
1		森 弘志	それ、普通	平成6-7 (1994-95)	油彩、キャンバス	162.4×162.2
2		近藤 みどり	慰する旅人I	平成16(2004)	油彩、キャンバス	182.0×227.5
3	前期	佐藤 克教	土色の午後	平成14(2002)	木版、紙	158.9×158.1
4	後期	佐藤 克教	愚者の船(一)	平成7(1995)	木版、紙	166.0×128.0
5		佐野 まさの	意識の装置	平成7(1995)	ミクストメディア	径35.9×高さ14.0
6		佐野 まさの	作品	不詳	ミクストメディア、板	91.0×61.0×5.3
7		八重柏 冬雷	花鳥風月～寂韻の響き～	平成24(2012)	墨、白抜き剤、和紙	各180.0×90.0 (4点組)
8		伽井 丹彌	人形譚	平成8(1996)	桐塑、アクリル絵具	高さ110.5
9		浅川 茂	静寂する風景	平成12(2000)	油彩、キャンバス	71.4×38.2
10		浅川 茂	流れ一留まる	平成24(2012)	油彩、キャンバス	45.5×37.9
11		池田 緑	My Own Specimen (1943年4月3日に生まれて)	平成11(1999)	プラスチックテープ、アクリルパイプ	205.5×59.9
12		池田 緑	Silent Breath サホロの7ヶ月/12ヶ月/21ヶ月/24ヶ月	平成13-平成14 (2001-02)	コロタイプ、紙	各13.0×10.0
13		梅田 マサノリ	compensation of balance #6	平成7(1995)	アクリル絵具、石膏、キャンバス	90.8×99.8
14	前期	戸張 良彦	143.270480, 42.762508 273°	平成22(2010)	デジタルCプリント	100.0×150.0
15	前期	戸張 良彦	143.618034, 42.699446 107°	平成27(2015)	デジタルCプリント	100.0×150.0
16	後期	戸張 良彦	143.102488, 43.265127 41°	平成20(2008)	デジタルCプリント	100.0×150.0
17	後期	戸張 良彦	143.617869, 42.699296 322°	平成25(2013)	デジタルCプリント	100.0×150.0
18		岡沼 淳一	雨のち晴れ	平成29(2017)	埋もれ木(ニレ)	49.0×22.0×265.0

*寸法は、特記以外は縦×横

*作品はすべて北海道立帯広美術館蔵

世界の版画から

会期=2024 (令和6) 年4月20日 (土) -6月30日 (日) 72日間

主催=北海道立帯広美術館

観覧料=一般260 (210) 円、高大生150 (110) 円

中学生以下、65歳以上、高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は毎週土曜日、こどもの日 (5月5日) が無料

() 内は10名以上の団体割引およびファミリー割引の料金

版画は、複数制作が可能という特性から、同一の図像を大量に生み出す方法として、また情報を広く人々に伝えるメディアとして、世界各地で古くから発展してきた。やがてその表現の奥深さと多様な可能性に注目が集まり、銅版、木版、石版などさまざまな技法や手法が探求されることで、美術作品として独自の領域を築いていった。

本展では、当館所蔵の17世紀前半のエッチングから現代の実験的作品までを展示し、版表現の長い歴史とその変遷、そして豊かな広がりを紹介した。



会場風景

○ 出品目録

No.	作家	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
1	レンブラント・ファン・レイン	羊飼いに現れた天使	1634	エッチング、紙	25.2×21.5
2	レンブラント・ファン・レイン	エマオのキリスト	1654	エッチング、紙	20.9×15.7
3	フランソワ=ルイ・フランセ	沼辺の犬	19世紀中頃	リトグラフ、紙	15.6×24.7
4	オーギュスト・アロンジェ	池の水門	1879	リトグラフ、木炭、紙	55.7×41.6
5	アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	ディヴァン・ジャポネ	1892	リトグラフ、紙	80.4×60.0
6	テオドール・ルソー	ビオーのサクランボの木	1862	クリシェ=ヴェール、紙	22.1×27.7
7	テオドール・ルソー	ビオーの平原	1862	クリシェ=ヴェール、紙	21.8×27.7
8	ジャン=フランソワ・ミレー	落穂ひろい	1855-1856	エッチング、紙	19.2×25.0
9	池田 良二	Deposition of memories 記憶の沈殿	1988 (昭和63)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチント、手漉き雁皮	69.0×58.0
10	渋谷 栄一	5-B	1993 (平成5)	カラーコピー、紙	27.7×135.8
11	渋谷 栄一	5-A	1993 (平成5)	カラーコピー、紙	27.9×142.6
12	百瀬 寿	Square - Vertical Blue to Magenta スパナー	1981 (昭和56)	スクアナグラフ (NECO)、キャンバス	180.0×180.2
13	一原 有徳	SON4 (b)	1980 (昭和55)	熱版、紙	38.2×32.2
14	一原 有徳	SON4 (b)	1983 (昭和58)	モノタイプ (アルミニウム版)、紙	50.1×240.0
15	島 州一	FINGER PRINT	1981 (昭和56)	粘土、フロッタージュ、和紙	73.0×63.5
16	島 州一	FINGER PRINT	1981 (昭和56)	粘土、段ボール、フロッタージュ、和紙	99.0×69.0
17	横尾 忠則	葬列II	1969 (昭和44)、1985 (昭和60) に再制作	シルクスクリーン、アクリルプレート	75.2×114.0×9.5
18	島 州一	新聞紙に新聞紙	1974 (昭和49)	シルクスクリーン、新聞紙	82.0×55.0
19	ジェームズ・ローゼンクイスト	《水の惑星によるこそ》 タイム・ゾーンの日没	1989	リトグラフ、コラージュ、カラード・プレスト・ペーパー・バルブ (着彩手漉き紙)	201.9×147.3
20	北岡 文雄	祖国への旅	1947 (昭和22)	木版、紙	18.0×11.0
21	小林 敬生	蘇生の刻 一緑の星一	1990 (平成2)	木口木版、紙	85.6×80.0
22	中谷 有逸	鳥の碑 (地)	1963 (昭和38)	木版、紙	79.0×54.7

* 寸法は縦×横×厚さ

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵

帯広美術館コレクション選Ⅱ みんなの帯広美術館

会期=2024(令和6)年11月1日(土) - 12月22日(日) 52日間

主催=北海道立帯広美術館

観覧料=一般260(210)円、高大生150(110)円

中学生以下、65歳以上、高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は毎週土曜日が無料

芸術週間(11月1日-7日)は、すべての方のコレクション・ギャラリー観覧が無料

()内は10名以上の団体割引およびファミリー割引の料金

北海道立帯広美術館は、1991(平成3)年、地域の方々の強い後押しを受けこの帯広の地に開館した。この30余年の間にコレクションは拡大し、2023年度末で853点を数える。

本展は、多くの方々に支えられて成長した美術館とコレクションの30余年を振り返ることを主眼に企画された。会場は、代表的作品を収蔵年代順に、壁面を埋める形で展示し、開館から30余年にわたるコレクション形成の軌跡を視覚的にたどり、また体感できるよう構成した。



会場風景

○ 出品目録

No.	作家	作品	制作年	技法材質	寸法(cm)
1	伊藤 隆二	裏門	1933(昭和8)	油彩、キャンバス	66.6×91.0
2	池田 良二	Reaching the cape(岬への到着)	1988(昭和63)	フォトエッチング、エッチング、 アクアチント、ドライポイント、 メゾチント、手漉き雁皮紙	57.0×84.6
3	竹山 義雄	川畔秋草	1979(昭和54)	油彩、キャンバス	145.5×112.2
4	アンリ・ド・トゥールーズ=ロー トレック	エグランティエヌ嬢一座	1896	リトグラフ、紙	59.0×79.0
5	中谷 有逸	三羽の鳥(水辺の形)	1973(昭和48)	シルクスクリーン、紙	33.9×50.4
6	矢柳 剛	箱という文明の中で	1970(昭和45)	シルクスクリーン、紙	65.3×53.5
7	島 州一	新聞紙に泥のプリント	1976(昭和51)	シルクスクリーン、新聞紙	81.5×54.5
8	百瀬 寿	Square—Metallic Yellow and Silver	1984(昭和59)	シルクスクリーン、紙	90.0×90.0
9	増田 誠	セニョリータ	1957(昭和32)	油彩、キャンバス	45.5×37.9
10	多賀 新	装束の文	1987(昭和62)	エッチング、紙	36.5×24.5
11	渋谷 栄一	月明りのピエロ	1980(昭和55)	エッチング、シュガーアクアチン ト、紙	36.4×20.2
12	増田 誠	旧約聖書 十戒	1976(昭和51)	リトグラフ、紙	33.0×24.3
13	能勢 真美	樹庭	1961(昭和36)	油彩、キャンバス	148.0×91.0
14	一原 有徳	SU(SON)	1990(平成2)	熱版、蛍光塗料、インク、ステン レス	80.0×60.0
15	レンブラント・ファン・レイン	羊飼いに現れた天使	1634	エッチング、紙	25.2×21.5
16	レンブラント・ファン・レイン	エマオのキリスト	1654	エッチング、紙	20.9×15.7
17	ピエール・ボナール	「創作版画家展」ヴォアラール画廊	1896	リトグラフ、紙	64.5×47.0
18	檜原 武正	作品「赤」	1984(昭和59)	塗料、釘、針金、トタン板	180.0×180.0
19	神田 日勝	画室D	1967(昭和42)	油彩、板	163.3×183.0
20	寺島 春雄	吃り勲章陳情	1964(昭和39)	油彩、キャンバス	162.0×130.8
21	ジュール・シェレ	安全灯油「サクソレーヌ」	1896	リトグラフ、紙	243.5×85.0
22	ウジェーヌ・グラッセ	あんず酒「アブリコティエヌ」	1895頃	リトグラフ、紙	109.5×149.5
23	カッサンドル(アドルフ・ジャン・ ムーロン)	フランス北部鉄道	1929	リトグラフ、紙	100.0×62.3
24	栗谷川 健一	赤いヘイレーキ	1961(昭和36)	オフセット、紙	102.7×73.0
25	手島 圭三郎	しまふくろう・なく	1990(平成2)	木版、紙	53.0×75.0
26	北岡 文雄	蘇る街	1948(昭和23)頃	木版、紙	18.4×30.6
27	北岡 文雄	祖国への旅-母と子	1947(昭和22)	木版、紙	17.5×13.0
28	中谷 有逸	碑(团长夫人)	1984(昭和59)	凹凸併用版、紙	62.2×40.5
29	菅井 汲	シグナル D	1976(昭和51)	シルクスクリーン、紙	33.4×22.3
30	六郎田 天鈴	アンナブルナ南峰の朝霧はれて	1990(平成2)	紙本彩色	90.0×65.3
31	ジャン=ガブリエル・ドメルグ	「グラン・プリ舞踏会」オペラ座	1922	リトグラフ、紙	60.4×38.6
32	不詳	「ムニエ・チョコレート」	1929	リトグラフ、紙	112.4×72.5
33	ピエール・ルイス	自動車「シトロエン」	1924	リトグラフ、紙	159.0×117.0
34	J.ルーシュ	公共事業省「橋の舞踏会」	1921	リトグラフ、紙	70.2×49.7
35	森 健二	光年のメロディー No.3	1968(昭和43)	油彩、キャンバス	130.5×162.5

36	田中 忠雄	陣地に冬来る 北千島	1943 (昭和 18) 頃	水彩、インク、紙	18.0×26.0
37	居串 佳一	千島スケッチ	1944 (昭和 19) 頃	インク、紙	18.2×25.7
38	フランク・ステラ	スワン・エンブレイヴィング、ブルー、グリーン、グレー	1985	エッチング、レリーフプリント、紙	169.0×133.0
39	ジョージ・シーガル	前向きの二人の人物	1975	エッチング、アクアチント、紙	85.0×126.5
40	デイヴィッド・ホックニー	京都 1993 年 4 月 24 日	1993	カラー・レーザー・プリント、紙	43.2×160.2
41	長谷川 哲	HOME 1997-2	1997 (平成 9)	写真、印画紙	86.3×148.5
42	小林 満枝	春夕焼 II	1991 (平成 3)	紙本彩色	116.7×80.3
43	アルフォンス・マリア・ミュンシャ	タバコ巻紙「ジョブ」	1896	リトグラフ、紙	51.5×39.4
44	長 はるこ	B-cushion	1998 (平成 10)	スキャナグラフ (NECO)、ネパールロクタ紙	153.1×211.2
45	小谷 博貞	樹氷	1996 (平成 8)	シルクスクリーン、紙	42.8×32.9
46	小谷 博貞	風景	1951 (昭和 26)	謄写版、紙	18.0×19.4
47	多賀 新	太古の夢 (ユニコーン)	1993 (平成 5)	エッチング、アクアチント、紙	36.5×23.1
48	矢柳 剛	雑草マンダラ (A)	1989 (平成元)	シルクスクリーン、紙	69.5×47.9
49	渋谷 栄一	7-B	1995 (平成 7)	モノクロコピー、色鉛筆、紙	60.7×60.7
50	ジェームズ・ローゼンクイスト	《水の惑星によろこそ》得たもの、失ったもの—ファースト・スチューデントまたはスター・キャッチャーにとって	1989	リトグラフ、カラージュ、カラード・プレスト・ペーパー・パルプ (着彩手漉き紙)	138.4×96.5
51	ジエグレース	農家	1870 年代	鶏卵紙プリント	21.3×26.7
52	A.・トーパン	沼地	19 世紀後半	鶏卵紙プリント	18.2×25.1
53	奥野 稔和	94D-Museum-N-2	1994 (平成 6)	タイプ C プリント	119.5×137.0
54	ニルス=ウド	マロニエの葉/フランス、オート=ソーヌ県、エクヴィレイ、1985 年	1985	イルフォクローム	74.3×74.4
55	佐藤 克教	囲われた 1 日	1999 (平成 11)	木版、紙	75.0×100.0
56	島 州一	ジーンズ	1974 (昭和 49)	シルクスクリーン、布	94.5×103.3
57	梅津 恒見	P E A C E まあるい地球。平和な地球。	1989 (平成元)	シルクスクリーン、紙	103.0×72.6
58	佐野 まさの	作品	不詳	ミクストメディア、板	91.0×61.0×5.3
59	小林 敬生	蘇生の刻 —緑の星—	1990 (平成 2)	木口木版、紙	85.6×80.0
60	松本 早苗	午後のひざしの中で…	2006 (平成 18)	水彩、水彩紙	91.0×116.7
61	一原 有徳	Mt. Satsumidake	1968 (昭和 43)	金属版、紙	11.0×18.8
62	一原 有徳	Hidaka 1839m	1974 (昭和 49)	金属版、紙	10.8×21.0
63	井田 照一	Romance	1971 (昭和 46)	シルクスクリーン、紙	69.8×54.3
64	戸張 良彦	143. 618034, 42. 699446 107°	2015 (平成 27)	デジタル C プリント	100.0×150.0
65	浅川 茂	沈む地	2010 (平成 22)	油彩、板	46.3×37.2
66	池田 良二	Dialogue with circle (円環との対話)	2005 (平成 17)	フォトエッチング、エッチング、アクアチント、ドライポイント、ペラン、アルシュ紙に雁皮刷り	40.0×27.0
67	郭 徳俊	カーターと郭	1977 (昭和 52)、刷り: 2007 (平成 19)	シルクスクリーン、紙	55.0×38.0
68	池田 緑	Silent Breath サホロの 7 ヶ月 (1999 年 8 月 13 日~2000 年 3 月 19 日)	2002 (平成 14)	インクジェットプリント、紙	76.3×57.0
69	荒井 善則	Traces of the Tape—Summer Time	1988 (昭和 63)	シルクスクリーン、紙	50.0×40.0
70	荒井 善則	Traces of the Tape—Summer Time	1988 (昭和 63)	シルクスクリーン、紙	50.0×40.0
71	富谷 道信	雲は切れて晴れるかも知れない	1973 (昭和 48)	ブロンズ	45.0×13.5×43.0

* 寸法は、平面作品は縦×横 (×奥行)、立体作品は幅×奥行×高さ

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵 (nos. 1, 3 は帯広市寄託)

帯広美術館コレクション選Ⅳ～はるかなるとき～

会期＝2025（令和7）年1月11日（土）－3月16日（日） 56日間

主催＝北海道立帯広美術館

観覧料＝一般260（210）円、高大生150（110）円

中学生以下、65歳以上、高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

高校生は毎週土曜日が無料

（ ）内は10名以上の団体割引およびファミリー割引の料金

無限に続くかのような宇宙空間、いつの時代も変わることのない大いなる自然。限りある人の尺度で計ることができない、永遠にも感じられる悠久の時間に、多くの作家が憧れと畏怖、時に人知を超えた存在を感じ、作品へと表現してきた。それらは、日常の風景の中にみつけた、時が凝縮したような一コマや、年月を経た木や金属による抽象的な形態で表現され、日々の時間とは違った感覚を呼び起こしてくれる。

本展では当館のコレクションから、遙かな時間の流れをテーマに作品を厳選し紹介。それぞれの作家が描き出した「はるかなるとき」を巡る表現をたどった。



会場風景

○ 出品目録

No.	作家	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
1	百瀬 寿	Square-Metallic Green and Violet	1984 (昭和 59)	シルクスクリーン・紙	90.0×90.0
2	百瀬 寿	Square-Metallic Yellow and Silver	1984 (昭和 59)	シルクスクリーン・紙	90.0×90.0
3	佐藤 克教	夜の箱	1993 (平成 5)	木版・紙	182.0×150.0
4	佐藤 克教	冥い海	2001 (平成 13)	木版・紙	75.0×102.6
5	一原 有徳	岩壁	1996 (平成 8)	金属版・紙	15.0×50.0
6	佐野 まさの	意識の装置	1995 (平成 7)	ミクストメディア	35.9×14.5
7	小林 敬生	陽はまた昇る一緑の星・08D—	2008 (平成 20)	木口木版・紙	100.0×257.5
8	岡沼 淳一	雨のち晴れ	2017 (平成 29)	埋もれ木 (ニレ)	49.0×22.0×265.0
9	多賀 新	魚 No.17 (シーラカンス)	1979 (昭和 54)	エッチング、アクアチント・紙	36.5×60.0
10	多賀 新	太古の夢 (ユニコーン)	1993 (平成 5)	エッチング、アクアチント・紙	36.5×23.1
11	六郎田 天鈴	朝霧はるるキリマンジャロ	1992 (平成 4)	紙本彩色	65.3×90.9
12	市成 太煌	鴉の詩 1	1978 (昭和 53)	紙本彩色	160.0×95.0
13	市成 太煌	鴉の詩 2	1978 (昭和 53)	紙本彩色	160.0×95.0
14	市成 太煌	鴉の詩 3	1978 (昭和 53)	紙本彩色	160.0×95.0

* 寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は幅×奥行×高さ

* 作品はすべて北海道立帯広美術館蔵

特別展一覧

2023（令和5）年度

No.	展覧会名	会期	開催日数	主催・後援ほか
1	オンラインアート教室事業 丘の上のミュージアム、とっておき10選	4月22日（土）—6月11日（日）	44	主催／北海道立帯広美術館
2	見えない音を描く	6月24日（土）—8月20日（日）	50	主催／北海道立帯広美術館 協賛／帯広信用金庫
3	リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界 —クラシックな名作とともに	9月9日（土）—11月19日（日）	63	主催／北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、北海道新聞社、リサ・ラーソン展実行委員会 特別協力／リサ・ラーソン・デザイン AB、リアン・デザイン・ミュージアム 後援／スウェーデン大使館 協力／フィンエアー、フィンエアーカーゴ 企画／アートインプレッション、松屋 企画協力／トンカチ
4	深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ	12月2日（土）—1月28日（日）	45	主催／北海道立帯広美術館、北海道新聞社、深堀隆介展実行委員会 共催／帯広美術館振興会 特別協力／十勝毎日新聞社 協力／キュレイターズ
5	坂本直行展～直行さんの足あと～	2月10日（土）—3月10日（日）	26	主催／北海道立帯広美術館 協賛／株式会社ズコーシャ、FLOWMOTION cafe and gallery 助成／公営財団法人ポーラ美術振興財団

2024（令和6）年度

No.	展覧会名	会期	開催日数	主催・後援ほか
1	写真展 星野道夫 悠久の時を旅する	4月20日（土）—6月30日（日）	44	主催／北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会、帯広市、帯広市教育委員会、帯広商工会議所、星野道夫展実行委員会 共催／北海道新聞社帯広支社、十勝毎日新聞社 後援／北海道教育庁十勝教育局、十勝町村会、NHK 帯広放送局、NHK エンタープライズ北海道支社 協力／星野道夫事務所 企画協力／クレヴィス
2	帯広美術館コレクション選Ⅰ	11月1日（金）—12月22日（日）	50	主催／北海道立帯広美術館 協賛／平原社美術協会、帯広信用金庫
3	帯広美術館コレクション選Ⅲ	1月11日（土）—3月16日（日）	63	主催／北海道立帯広美術館 協賛／株式会社ズコーシャ

※7月1日～10月30日は、改修工事のため休館

オンラインアート教室事業 丘の上のミュージアム、とっておき 10 選

会期=2023 (令和 5) 年 4 月 22 日 (土) —6 月 11 日 (日) 44 日間

主催=北海道立帯広美術館

観覧料=無料

当館では令和 4 年度より、オンラインで美術館と学校や社会教育機関とをつなぎ、美術鑑賞や美術館の活動について紹介するオンラインアート教室事業を実施してきました。

本展は、より多くの方にオンラインアート教室事業をご利用いただくため、アートカード(鑑賞学習支援ツール)の題材となった当館コレクション 10 点を展示。期間中は、展示室から学校や社会教育機関に対して随時ライブ配信を行い、アートカードを使った鑑賞授業などさまざまなプログラムによって当館コレクションを紹介した。



事業風景

○ 主要関連記事

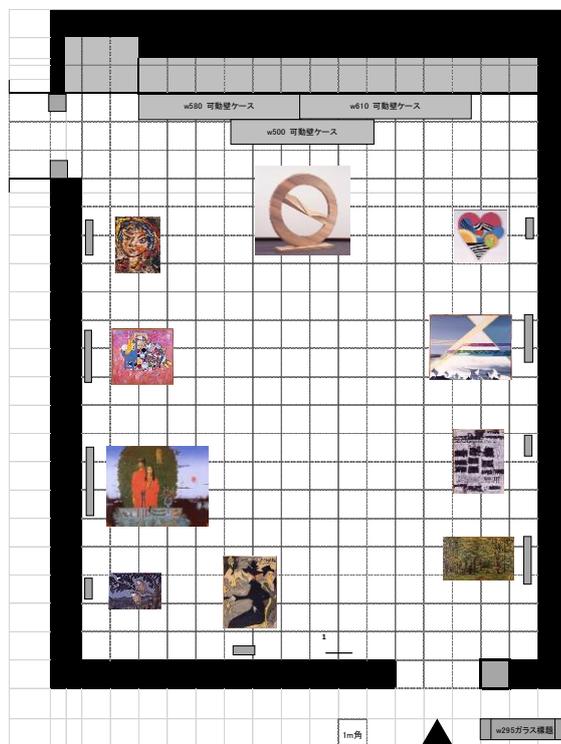
高井翔太「帯広美術館 オンラインアート教室 『とっておき 10 選』紹介」
十勝毎日新聞/4 月 17 日 (月)

高井翔太「とっておき 10 選 特別展スタート」十勝毎日新聞/4 月 22 日
(土)

大河原桜「代表的 10 作品 ネットで鑑賞 帯広美術館・特別展」北海道新聞/4 月 25 日 (火)



事業風景



展示図面

○ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
1	能勢 真美	疎林初秋	1967 (昭和 42)	油彩・キャンバス	97.0×162.0
2	寺島 春雄	凍土	1961 (昭和 36)	油彩・キャンバス	117.0×91.1
3	森 健二	光年のメロディー No.3	1968 (昭和 43)	油彩・キャンバス	130.5×162.5
4	矢柳 剛	あなたのハートがであうとき	1971 (昭和 46)	シルクスクリーン・紙	60.0×53.0
5	岡沼 淳一	MONSOON	1988 (昭和 63)	埋もれ木 (ニレ)	44.3×185.0×190.0
6	檜原 武正	子供	1976 (昭和 51)	油彩・キャンバス	135.0×110.0
7	神田 日勝	画室 D	1967 (昭和 42)	油彩・板	163.3×183.0
8	松樹 路人	コタン・クル・カムイの詩	1988 (昭和 63)	油彩・キャンバス	181.8×227.3
9	手島 圭三郎	しまふくろう・なく	1990 (平成 2)	木版、紙	53.0×75.0
10	アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	ディヴァン・ジャポネ	1892	リトグラフ・紙	80.4×60.0

*寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は幅×奥行×高さ

*作品はすべて北海道立帯広美術館蔵

見えない音を描く

会期＝2023（令和5）年6月24日（土）－8月20日（日） 50日間

主催＝北海道立帯広美術館

協賛＝帯広信用金庫

観覧料＝一般800（640）円、大学生500（400）円、高校生以下無料

（小・中・高校生は帯広美術館「しらかばの会」2023年度無料招待事業）

（ ）内は10名以上の団体、前売り、リピーター、相互割引。障害者手帳をお持ちの方などは無料

人々が作りだすさまざまな音、奏でられる音楽。画家や彫刻家は、目に見えない音を様々な手法で美術作品にあらわしてきた。

本展では、音を美術として表現した絵画や立体作品を展示。華やかに着飾って祝祭を楽しむ人々、音楽を演奏する人々の姿からは、活気あふれる音または美しい音色が聞えてくるようだ。耳で聴いた音を美術作品として視覚的に表現する際、各作家の描法の特徴や音楽に対する思いがあらわれている。楽器をモチーフとして描いた静物画や肖像画を見ると、楽器の造形的な面白さや人物の職業・ステータスを知ることができる。音を感じ取る体験をテーマとした作品も紹介し、音を目に見えるかたちに具象化した作品を通して、目と耳の感覚の関係を考える機会とした。



ポスター

○ 関連事業

ギャラリー・ツアー

日時＝6月24日（土）、7月8日（土） 午後2時－（約40分）

講師＝耳塚里沙（当館学芸員）

会場＝当館主展示室（要観覧券）

ミュージアム・コンサート

日時＝6月25日（日） 午後3時－（約60分）

出演＝田中光俊氏（クラシックギタリスト）

会場＝当館ロビー（参加無料、先着50名）

主催＝北海道立帯広美術館

キッズ・ミュージアム

「ふうりん・リンリン」

日時＝7月22日（土） 午後1時30分－午後3時30分

会場＝当館講堂（託児無料）

主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

○ 関連記事

耳塚里沙「おびひろミュージアム通信 道立帯広美術館 見えない音を描く」釧路新聞／6月6日（火）

高井翔太「見えない音 絵や立体に 帯広美術館 特別展あす開幕」十勝毎日新聞／6月23日（金）

高井翔太「『音』テーマに作品56点 帯広美術館特別展開幕 絵画や立体展示」十勝毎日新聞／6月24日（土）

高井翔太「弦の響き柔らか 田中さん演奏会 美術館に来場55人」十勝毎日新聞／6月27日（火）

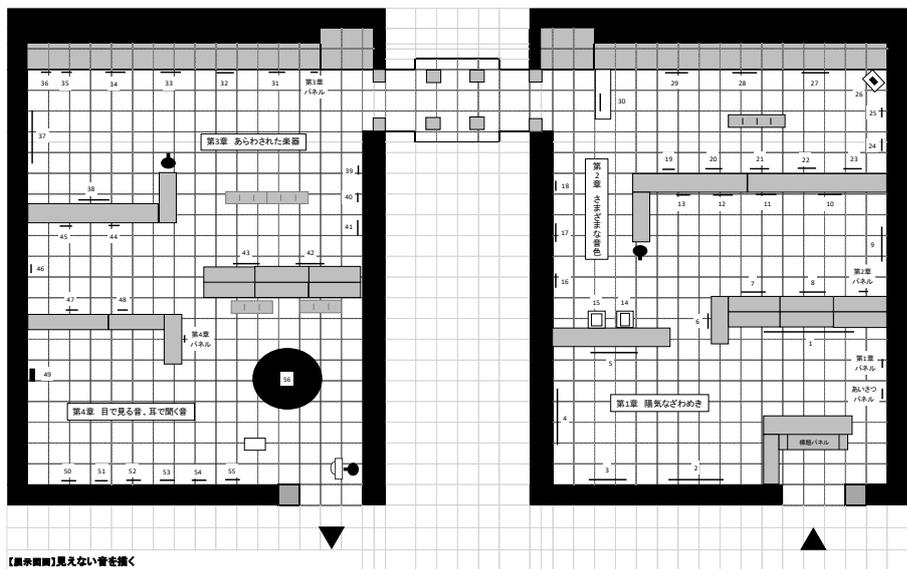
耳塚里沙「照明に注目すると… 光で変わる作品の魅力 美術展示の舞台裏をのぞく」十勝毎日新聞電子版ジャーナル／7月5日（水）

耳塚里沙「音色感じる作品たち①～⑤」十勝毎日新聞／7月20日（木）－22日（土）、24日（月）、25日（火）

「帯広美術館『見えない音を描く』 想像湧き立つ作品世界 視覚と聴覚で鑑賞楽しむ」北海道通信／8月2日（水）



会場風景



【黒枠囲み】見えない音を聞く

展示図面

○ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	所蔵先
第1章 陽気なざわめき						
1	竹岡 羊子	Carnaval le Nice	1974 (昭和 49)	油彩、キャンバス	170.0×400.0	札幌芸術の森美術館
2	竹岡 羊子	昼下り	1990 (平成 2)	油彩、キャンバス	193.0×258.0	札幌芸術の森美術館
3	竹岡 羊子	夜のパレード	1980 (昭和 55)	油彩、キャンバス	162.0×162.0	札幌芸術の森美術館
4	片岡 球子	阿波風景	1963 (昭和 38)	麻布彩色	187.0×251.0	北海道立近代美術館
5	福井 正治	サーカスの祭り	1966 (昭和 41)	油彩、キャンバス	130.3×193.6	北海道立帯広美術館
6	ジュール・シェレ	カフェ=コンセール「19世紀」	1882	リトグラフ、紙	56.3×40.5	北海道立帯広美術館
7	ジュール・シェレ	グレヴァン博物館 (文字刷り前のポスター)	1900	リトグラフ、紙	116.5×84.5	北海道立帯広美術館
8	ジュール・シェレ	カフェ=コンセール「新サーカス」	1889	リトグラフ、紙	117.4×83.2	北海道立帯広美術館
第2章 さまざまな音色						
9	月岡 栄貴	和楽	1957 (昭和 32)	紙本彩色	206.0×161.0	北海道立近代美術館
10	ジュール・シェレ	グレヴァン博物館—ジブシー楽士のコンサート	1885	リトグラフ、紙	120.0×81.1	北海道立帯広美術館
11	松島 蘇順泉	〔楽師〕	不詳	油彩、キャンバス	72.6×60.4	札幌芸術の森美術館
12	渡会 純价	On Stage (E)	1980 (昭和 55)	エッチング、紙	36.4×60.0	札幌芸術の森美術館
13	渡会 純价	6月のコンサート	1994 (平成 6)	エッチング、紙	44.8×36.3	札幌芸術の森美術館
14	玉村 拓也	カーテンコール	1989 (平成元)	木版、紙	51.5×38.0	札幌芸術の森美術館
15	玉村 拓也	舞踏会	1988 (昭和 63)	木版、紙	51.2×36.3	札幌芸術の森美術館
16	渡会 純价	初舞台	1973 (昭和 48)	エッチング、紙	39.9×36.4	札幌芸術の森美術館
17	寺島 春雄	無題	1965 (昭和 40)	油彩、キャンバス	100.0×72.5	北海道立帯広美術館
18	武田 範芳	ピエロの人形	1968 (昭和 43)	油彩、キャンバス	41.0×24.8	札幌芸術の森美術館
19	多賀 新	バイオリニスト I	1992 (平成 4)	エッチング、紙	33.0×36.5	北海道立帯広美術館
20	金子 誠治	笛	1970 (昭和 45)	木版、鳥の子紙	73.0×50.0	北海道立近代美術館
21	栗谷川 健一	ハーモニカ	1957 (昭和 32)	オフセット、紙	103.5×73.3	北海道立近代美術館
22	栗谷川 健一	ムックリを鳴らすアイヌの娘	1953 (昭和 28)	オフセット、紙	103.0×73.0	北海道立帯広美術館
23	栗谷川 健一	緑に歌う	1960 (昭和 35)	オフセット、紙	103.3×73.2	北海道立帯広美術館
24	渋谷 栄一	楽園の調べ C	1981 (昭和 56)	エッチング、シュガーアクアチント、紙	49.8×36.5	北海道立帯広美術館
25	渋谷 栄一	吟遊詩人 A	1975 (昭和 50)	エッチング、シュガーアクアチント、紙	36.5×20.3	北海道立帯広美術館
26	峯田 敏郎	唄う女	1971 (昭和 46)	ブロンズ	111.0×36.0×20.0	北海道立近代美術館
27	熊谷 明宏	トリオ・サウンズ	1968 (昭和 43)	油彩、キャンバス	145.6×112.7	北海道立近代美術館

28	長谷川 昇	麗音	1965 (昭和 40)	油彩、キャンバス	145.5×97.5	北海道立近代美術館
29	一木 万寿三	琴	1938 (昭和 13)	油彩、キャンバス	116.7×90.9	北海道立近代美術館
30	横山 大観	陶靖節「幽篁弹琴」	1919 (大正 8)	絹本彩色	154.2×70.5	北海道立近代美術館
第 3 章 あらわされた楽器						
31	田中 忠雄	婦人像	1923 (大正 12)	油彩、キャンバス	64.5×51.5	北海道立近代美術館
32	三岸 好太郎	黄服少女	1930 (昭和 5)	油彩、キャンバス	91.1×61.1	北海道立三岸好太郎美術館
33	本間 紹夫	室内	1925 (大正 14)	油彩、キャンバス	90.5×72.4	北海道立近代美術館
34	長谷川 昇	婦人像	1953 (昭和 28)	油彩、キャンバス	78.3×63.4	北海道立近代美術館
35	石井 柏亭	『東京十二景』浅草	1910 (明治 43)	木版、紙	38.0×25.5	北海道立近代美術館
36	石井 柏亭	『東京十二景』柳ばし	1910 (明治 43)	木版、紙	38.4×25.5	北海道立近代美術館
37	菊川 多賀	婦図	1974 (昭和 49)	紙本彩色、額	176.0×242.0	北海道立近代美術館
38	久保 守	花模様の椅子など	1962 (昭和 37)	油彩、キャンバス	97.0×130.3	北海道立近代美術館
39	川西 英	室内	1938 (昭和 13)	木版、紙	36.6×26.5	北海道立近代美術館
40	加藤 芳信	奏	1978 (昭和 53)	インク、紙	39.0×32.2	北海道立近代美術館
41	渡会 純价	ヴァイオリンのある風景	1974 (昭和 49)	エッチング、紙	48.2×64.3	札幌芸術の森美術館
42	ジャン・コクトー	オルフェの遺言	1959	リトグラフ、紙	160.0×120.0	北海道立帯広美術館
43	渡会 純价	マリオネットの旅	1981 (昭和 56)	エッチング、紙	36.3×59.5	札幌芸術の森美術館
44	渡会 純价	Colla-on (E)	1997 (平成 9)	ミクストメディア	34.3×43.5	札幌芸術の森美術館
45	渡会 純价	Colla-on (F)	1997 (平成 9)	ミクストメディア	42.1×51.0	札幌芸術の森美術館
46	渡会 純价	Colla-on (J)	1997 (平成 9)	ミクストメディア	34.3×43.5	札幌芸術の森美術館
47	渡会 純价	Colla-on 324	1997 (平成 9)	ミクストメディア	50.2×50.2	札幌芸術の森美術館
48	渡会 純价	Colla-on (A)	1997 (平成 9)	ミクストメディア	50.2×50.2	札幌芸術の森美術館
第 4 章 目で見る音、耳で聞く音						
49	三木 富雄	耳	1965 (昭和 40)	アルミニウム	108.0×63.0×18.0	北海道立近代美術館
50	増田 誠	ギリシャ神話 牧神の夜	1976 (昭和 51)	リトグラフ、紙	24.1×33.5	北海道立帯広美術館
51	増田 誠	ギリシャ神話 パルナッソス山とムーサたち	1976 (昭和 51)	リトグラフ、紙	24.5×33.3	北海道立帯広美術館
52	増田 誠	ギリシャ神話 牧神の午後	1976 (昭和 51)	リトグラフ、紙	24.5×33.2	北海道立帯広美術館
53	増田 誠	Bonjour Messieurs et Mesdames レ・ミュジシャン	1976 (昭和 51)	エッチング、紙	18.4×23.2	北海道立帯広美術館
54	増田 誠	Bonjour Messieurs et Mesdames アコーディオニスト	1976 (昭和 51)	エッチング、紙	17.6×21.3	北海道立帯広美術館
55	増田 誠	Bonjour Messieurs et Mesdames サンジェルマンのバブ	1976 (昭和 51)	エッチング、紙	15.5×19.3	北海道立帯広美術館
56	金沢 健一	音のかけら N5	2000 (平成 12)	鉄、ゴム	300.0×3.2	北海道立近代美術館

※寸法は縦×横、または高さ×幅×奥行。

リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界—クラシックな名作とともに

会期=2023 (令和5) 年9月9日 (土) -11月19日 (日) 63日間

主催=北海道立帯広美術館、帯広市、帯広市教育委員会、北海道新聞社、リサ・ラーソン展実行委員会

特別協力=リサ・ラーソン・デザイン AB、リアン・デザイン・ミュージアム

後援=スウェーデン大使館

協力=フィンエアー、フィンエアーカーゴ

企画=アートインプレッション、松屋

企画協力=トンカチ

観覧料=一般1,300 (1,100) 円、高大生800 (600) 円、中学生500 (400) 円

小学生以下無料

学校の教育活動で利用される方、障害者手帳をお持ちの方などは無料

() 内は10名以上の団体、前売り、リピーター、相互割引料金



ポスター © Lisa Larson / Alvaro Campo

素朴で温かみのある動物や人物をモチーフとした作品で世界中の人々を魅了する、スウェーデンの陶芸家リサ・ラーソンの展覧会。

リサ・ラーソンは1931年にスウェーデンで生まれ、学生時代のデザインコンペをきっかけに、1954年から同国の著名な陶磁器会社グスタフスベリ社のデザイナーに迎えられた。以後26年間にわたり数多くのプロダクトを制作し注目を集め、1980年にフリーのデザイナーとなってからも、国内外を問わず活躍を続けた。

本展覧会は「Seen and Unseen」をテーマとし、これまで知られてこなかった部分にも光を当てて作品が選定された。古典的名作というべきシリーズ作品だけでなく、レアなユニークピース、雑誌記事などの資料類、そして夫で画家・版画家のグンナル・ラーソンの作品も含めた約250点を紹介。彼女の知られざる一面と出会える展覧会となった。来場者数は13,302人。展覧会終了後の2024年3月11日に氏は逝去された。

○ 関連事業

特別展セミナー「リサ・ラーソン：Seen and Unseen」

講師=敷田弘子 (当館学芸員)

日時=9月23日 (土・祝)、10月22日 (日) 午後2時-2時40分

会場=当館講堂 (聴講無料、先着80名)

キッズ・ミュージアム「石ころアート」

日時=10月21日 (土) 午後1時30分-3時30分

会場=当館講堂 (託児無料)

主催=北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

ぬり絵の日

日時=9月10日 (日)、10月8日 (日)、11月3日 (金・祝)、

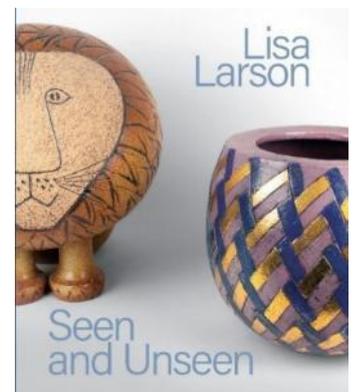
11月5日 (日) 午前9時30分-午後5時

会場=当館講堂 (参加無料、20席)

○ 図録

規格=縦25.0×横21.1cm/総頁数148ページ

構成=ごあいさつ/リサ・ラーソン「展覧会に寄せて」/駐日スウェーデン大使 ペールエリック・ヘーグベリ「メッセージ」/マティアス・ラーソン「考古学の発掘調査に匹敵するもの」/リサ・ラーソン、(聞き手) ルーヴェ・イオンソン「インタビュー“ある意味で必要だと、そう私ができることを続けています。”」/1 リサ・ラーソンの名作たち/2 筆描きの妙/3 スウェーデンの家屋/4 丸形からのインスピレーション/5 マスメディアの中のリサ・ラーソン/初期の作品 (学生時代のリサ・ラーソン) /7 レア&ユニーク 7-1 希少なユニークピースの数々/7-2 動物たちは友達!/7-3 ひとの器/7-4 幼少期/7-5 瞑想/7-6 ストレッチ/7-7 情景/7-8 器の装飾/8 新しい素材への挑戦/9 リサとグンナル—芸術家同士の語らい/リサ・ラーソン年譜



図録 © Lisa Larson / Alvaro Campo

○ 関連記事

沼田駿「素朴 愛らしさ…創造性豊か 陶芸家リサ・ラーソン展 9日から道立帯広美術館」北海道新聞（朝刊（帯広・十勝））／9月5日（火）

沼田駿「北欧の動物や魚 愛らしく 帯広 陶芸家「リサ・ラーソン展」開幕」北海道新聞（朝刊）／9月10日（日）

敷田弘子「リサ・ラーソン 創造の世界 道立帯広美術館特別展から」①～⑤ 北海道新聞（朝刊（帯広・十勝））／9月12日（火）、13日（水）、14日（木）、15日（金）、16日（土）

敷田弘子「丘の上のミュージアムから 日本で大ブレイク、スウェーデンの陶芸家リサ・ラーソン」十勝毎日新聞電子版ジャーナル／9月27日（水）

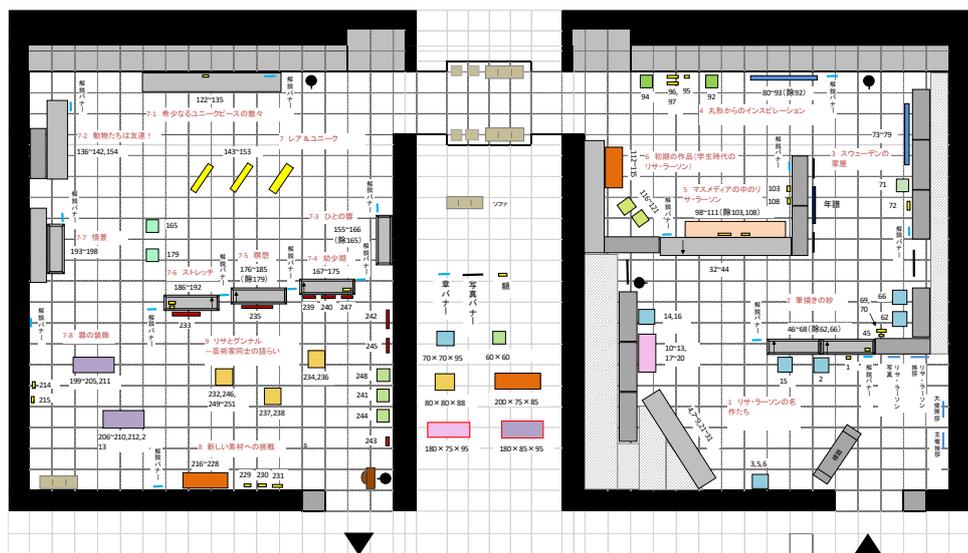
沼田駿「ラーソン展 5千人突破 帯広美術館 節目の来場者に記念品」北海道新聞（朝刊（帯広・十勝））／10月6日（金）

沼田駿「リサ・ラーソン 柔軟な着想 帯広美術館 学芸員が歩みなど解説」北海道新聞（朝刊（帯広・十勝））／10月24日（火）

沼田駿「リサ・ラーソン展 1万人達成 帯広美術館で記念セレモニー」北海道新聞（朝刊（帯広・十勝））／11月2日（木）



会場風景



展示図面

○ 出品目録

No.	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	所蔵先
1	グスタフスベリ磁器工房で《日本女性》の原型作品を制作するリサ・ラーソン	1957	写真	17.2×14.7	リサ・ラーソン蔵
2	ライオン (マキシ) /アフリカシリーズ	本モデルは1968年から製造。本作品は1968-1980年頃に製造	泥漿焼込、柘器	37.2×35.0×39.0	リサ・ラーソン蔵
3	ライオン (ミディアム) /アフリカシリーズ	本モデルは1965年から製造。本作品は1965-1980年頃に製造	泥漿焼込、柘器	14.0×12.0×15.0	リサ・ラーソン蔵
4	シロクマ/大きな動物園シリーズ	製造 1958-1970	泥漿焼込、柘器	15.8×23.5×9.0	リサ・ラーソン蔵
5	カバ/見世物小屋シリーズ	製造 1966-1970	泥漿焼込、柘器	6.3×9.0×5.5	リサ・ラーソン蔵
6	カバ/大きな動物園シリーズ	製造 1966-1970	泥漿焼込、柘器	10.5×17.0×7.0	リサ・ラーソン蔵
7	トラ/アフリカシリーズ	製造 1965-1975	泥漿焼込、柘器	8.8×27.5×8.0	リサ・ラーソン蔵
8	トラ	2000年代	泥漿焼込、柘器	5.7×21.0×4.5	リサ・ラーソン蔵
9	トラのグレッタ	製造 2022年以降	泥漿焼込、柘器	8.5×15.0×5.0	リサ・ラーソン蔵
10	ネコ/小さな動物園シリーズ	製造 1956-1978	泥漿焼込、柘器	5.3×9.0×6.5	リサ・ラーソン蔵
11	ネコ/小さな動物園シリーズ	製造 1956-1978	泥漿焼込、柘器	12.0×7.0×5.0	リサ・ラーソン蔵
12	立っているネコ/小さな動物園シリーズ	製造 1956-1978	泥漿焼込、柘器	9.5×11.5×4.0	リサ・ラーソン蔵

13	小さなネコ	製造 1965	泥漿鑄込、 珐器	10.0×6.5×6.0	個人蔵
14	ネコのマイ	製造 2017 年以降	泥漿鑄込、 珐器	10.0×17.5×9.5	リサ・ラーソン蔵
15	ネコのモーセ	デザイン 1985 年頃	泥漿鑄込、 珐器	15.0×31.5×17.0	リサ・ラーソン蔵
16	ネコのムレ	本モデルは 1975 年から製造。本作品は 1990 年代または 1990 年代以降に製造	泥漿鑄込、 珐器	36.5×25.0×17.0	リサ・ラーソン蔵
17	ネコのマイキーの立体版原型作品	2000 年代	手びねり、 珐器	4.3×11.3×2.5	リサ・ラーソン蔵
18	ネコ/大きな動物園シリーズ	製造 1958-1979	泥漿鑄込、 珐器	11.5×31.5×9.0	リサ・ラーソン蔵
19	ネコのトラップ/トリップ・トラップ・トュルルシリーズ	製造 1972-1974	泥漿鑄込、 珐器	16.0×8.7×8.0	リサ・ラーソン蔵
20	ネコ (マキシ) /大きな動物園シリーズ	本モデルは 1966 年から製造。本作品は 1966-1980 年頃に製造	泥漿鑄込、 珐器	35.0×24.0×22.0	リサ・ラーソン蔵
21	ブルドッグ/大きな動物園シリーズ	製造 1960-1968	泥漿鑄込、 珐器	13.0×13.2×13.5	リサ・ラーソン蔵
22	ブルドッグ/ケンネルシリーズ	製造 1972-1987	泥漿鑄込、 珐器	14.0×13.0×17.0	リサ・ラーソン蔵
23	ダックスフンド/小さな動物園シリーズ	製造 1956-1978	泥漿鑄込、 珐器	4.5×14.5×3.5	個人蔵
24	雄鶏/レグホーンシリーズ	本モデルは 1968 年から製造。本作品は 1984 年に製造	泥漿鑄込、 珐器	38.0×28.0×16.0	リサ・ラーソン蔵
25	雌鳥/レグホーンシリーズ	製造 1968 年以降	泥漿鑄込、 珐器	29.5×26.5×14.0	リサ・ラーソン蔵
26	ひとこぶラクダたち	本モデルは 1979 年から製造。本作品は 1980 年に製造	泥漿鑄込、 珐器	35.5×42.5×17.0	リサ・ラーソン蔵
27	クマ/スカンセン北欧動物園シリーズ	製造 1977 年以降	泥漿鑄込、 珐器	10.0×16.0×8.5	リサ・ラーソン蔵
28	キツネ/スカンセン北欧動物園シリーズ	製造 1977 年以降	泥漿鑄込、 珐器	8.0×15.5×13.5	リサ・ラーソン蔵
29	ハリネズミ/危機に瀕した動物たちシリーズ	製造 1979	泥漿鑄込、 珐器	10.3×16.0×12.0	リサ・ラーソン蔵
30	ハイイロアザラシ/危機に瀕した動物たちシリーズ	製造 1977	泥漿鑄込、 珐器	11.4×18.5×10.8	リサ・ラーソン蔵
31	ヘラジカ/大きな動物園シリーズ	製造 1958-1979	泥漿鑄込、 珐器	25.6×7.3×22.0	リサ・ラーソン蔵
32	はじめの一步	1959	ろくろ成形、手びねり、 珐器	13.0×12.0×13.0	リサ・ラーソン蔵
33	ベアータ/ABC 少女シリーズ	本モデルは 1958-1973 年に製造。本作品は 1962 年に製造	泥漿鑄込、 珐器	9.8×9.4×19.5	リサ・ラーソン蔵
34	アマリア/ABC 少女シリーズ	製造 1958-1973 年	泥漿鑄込、 珐器	18.0×10.2×13.0	リサ・ラーソン蔵
35	ドーラ/ABC 少女シリーズ	製造 1958-1973 年	泥漿鑄込、 珐器	28.0×13.0×8.8	リサ・ラーソン蔵
36	エンマ/ABC 少女シリーズ	本モデルは 1958-1973 年に製造。本作品は 1971 年に製造	泥漿鑄込、クロモプリント、 珐器	17.0×11.0×12.0	リサ・ラーソン蔵
37	シャルロッタ/ABC 少女シリーズ	製造 1958-1973	泥漿鑄込、 珐器	16.5×10.0×10.5	リサ・ラーソン蔵
38	日本女性	製造 1958-1973	泥漿鑄込、 珐器	27.0×12.0×13.0	リサ・ラーソン蔵
39	マリン/ラーソン家の子どもたちシリーズ	製造 1962-1980	泥漿鑄込、 珐器	17.8×12.0×7.0	リサ・ラーソン蔵
40	イブ/アダムとイブシリーズ	製造 1972-1980	泥漿鑄込、 珐器	20.0×8.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
41	アダム/アダムとイブシリーズ	製造 1972-1980	泥漿鑄込、 珐器	20.0×8.0×8.3	リサ・ラーソン蔵
42	ローサ	製造 1970	泥漿鑄込、クロモプリント、 珐器	10.3×11.5×14.0	リサ・ラーソン蔵
43	バッカス	製造 1972 頃	泥漿鑄込、クロモプリント、 珐器	16.7.0×18.0×16.0	個人蔵
44	社会討論 (大)	製造 1969-1971	泥漿鑄込、クロモプリント、 珐器	39.0×26.5×13.0	リサ・ラーソン蔵
45	グスタフスベリ磁器工房で鉢に絵付けをするリサ・ラーソン	1960 年代初頭 (写真は 1962 年の雑誌に掲載)	写真	22.5×17.4	リサ・ラーソン蔵
46	花器	1968 頃	ろくろ成形、 珐器	37.5×15.5×15.5	個人蔵
47	花器	1968	ろくろ成形、 珐器	30.5×14.5×15.5	リサ・ラーソン蔵
48	花器	1968 頃	ろくろ成形、 珐器	27.7×16.1×16.1	リサ・ラーソン蔵
49	花器	1968 頃	ろくろ成形、 珐器	13.3×9.5×9.5	リサ・ラーソン蔵
50	円筒型の花器	1970 年代	ろくろ成形、 珐器	10.5×11.5×11.5	リサ・ラーソン蔵
51	円筒型の花器	1970 年代	ろくろ成形、 珐器	20.0×10.5×10.5	リサ・ラーソン蔵
52	ベアのブードル	製造 1964-1968	泥漿鑄込、 珐器	17.5×10.5×9.0	リサ・ラーソン蔵
53	ベアのブードル	製造 1964-1968	泥漿鑄込、 珐器	17.5×10.5×9.0	リサ・ラーソン蔵
54	グスタフスベリ社 150 周年記念の鉢	製造 1975	泥漿鑄込、 珐器	6.5×φ11.7	リサ・ラーソン蔵
55	グスタフスベリ社 150 周年記念の鉢	製造 1975	泥漿鑄込、 珐器	6.5×φ11.7	リサ・ラーソン蔵
56	グスタフスベリ社 150 周年記念の鉢	製造 1975	泥漿鑄込、 珐器	6.5×φ11.7	リサ・ラーソン蔵
57	グスタフスベリ社 150 周年記念の鉢	製造 1975	泥漿鑄込、 珐器	6.5×φ11.7	リサ・ラーソン蔵
58	カメ	製造 1963-1976	泥漿鑄込、 珐器	4.3×10.3×8.5	リサ・ラーソン蔵

59	ミラーフレーム/マチルダシリーズ	1960年代	泥漿鑄込、炆器、鏡	3.0×27.5×27.5	リサ・ラーソン蔵
60	鉢	1970頃	ろくろ成形、炆器	6.0×φ20.5	リサ・ラーソン蔵
61	鉢	1970頃	ろくろ成形、金彩、炆器	5.1×φ19.0	リサ・ラーソン蔵
62	鉢	1970頃	ろくろ成形、金彩、炆器	8.5×φ26.5	リサ・ラーソン蔵
63	蓋付深鉢	1960年代	泥漿鑄込、炆器	18.7×33.0×25.0	リサ・ラーソン蔵
64	ボトル型の花器	1964頃	ろくろ成形、炆器	21.5×15.0×15.0	リサ・ラーソン蔵
65	ボトル型の花器/カロリンシリーズ	製造1964-1971	泥漿鑄込、炆器	14.3×10.4×10.4	リサ・ラーソン蔵
66	花器	1968頃	ろくろ成形、炆器	28.5×18.0×18.0	リサ・ラーソン蔵
67	皿/カロリンシリーズ	製造1964-1971	炆器	H22.0×φ19.5	リサ・ラーソン蔵
68	皿/カロリンシリーズ	製造1964-1971	炆器	H22.0×φ19.5	リサ・ラーソン蔵
69	文様のためのスケッチ	1960年代	墨、紙	30.7×25.3	リサ・ラーソン蔵
70	文様のためのスケッチ	1960年代	インク、紙	34.7×45.3	リサ・ラーソン蔵
71	旧市街	製造1963-1978	泥漿鑄込、炆器	28.0×28.0×2.5	個人蔵
72	ストックホルム旧市街のスケッチ	1960年代初頭	インク、紙	21.0×30.0	リサ・ラーソン蔵
73	茶色の家屋	製造1987	泥漿鑄込、炆器	15.4×15.0×6.0	リサ・ラーソン蔵
74	黒と白の家屋	製造1985	泥漿鑄込、炆器	15.0×9.5×6.5	リサ・ラーソン蔵
75	薄茶色の家屋	製造1980年代-1990年代初頭	泥漿鑄込、炆器	18.0×7.2×5.0	リサ・ラーソン蔵
76	青の家屋	製造1980年代後期または1990年代初頭	泥漿鑄込、炆器	16.1×11.0×7.5	リサ・ラーソン蔵
77	白の家屋	製造1980年代後期または1990年代初頭	泥漿鑄込、炆器	24.6×18.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
78	木骨造りの家屋	製造1986	泥漿鑄込、炆器	15.0×9.7×5.5	リサ・ラーソン蔵
79	灰色の家屋	製造1984	泥漿鑄込、炆器	20.0×7.0×5.7	リサ・ラーソン蔵
80	丸形	1960年代	ろくろ成形、手びねり、炆器	11.4×11.4×4.0	リサ・ラーソン蔵
81	丸形	1960年代	ろくろ成形、手びねり、炆器	10.4×10.4×3.7	リサ・ラーソン蔵
82	丸形	1960年代	ろくろ成形、手びねり、炆器	9.8×9.5×5.0	リサ・ラーソン蔵
83	丸形	1960年代	ろくろ成形、手びねり、炆器	11.7×12.0×5.5	リサ・ラーソン蔵
84	丸形	1979	ろくろ成形、手びねり、炆器	10.5×10.5×5.0	リサ・ラーソン蔵
85	丸形	1979	ろくろ成形、手びねり、炆器	10.4×10.3×4.3	リサ・ラーソン蔵
86	丸形	1970年代	ろくろ成形、手びねり、炆器	10.7×10.7×4.0	リサ・ラーソン蔵
87	丸形	1980	ろくろ成形、手びねり、炆器	11.5×11.0×3.9	リサ・ラーソン蔵
88	レリーフ(トリのモチーフ)/丸形シリーズ	製造1969-1972	泥漿鑄込、炆器	12.5×12.5×4.0	リサ・ラーソン蔵
89	レリーフ(チョウのモチーフ)/丸形シリーズ	製造1969-1972	泥漿鑄込、炆器	12.5×12.5×4.0	リサ・ラーソン蔵
90	大皿	1993	ろくろ成形、炆器	φ37.4×D5.4	リサ・ラーソン蔵
91	大皿	1993	ろくろ成形、炆器	φ38.0×D5.4	リサ・ラーソン蔵
92	大皿	1993	ろくろ成形、炆器	φ38.0×D5.4	リサ・ラーソン蔵
93	大皿	1993	ろくろ成形、炆器	φ37.5×D5.5	リサ・ラーソン蔵
94	ボードゲーム「ターン・ザ・ウィンド」	1960年代	炆器、木	3.5×32.5×32.5	リサ・ラーソン蔵
95	黄色い紙に貼られたスケッチ	1970頃	墨、紙	28.5×26.8	リサ・ラーソン蔵
96	緑色の紙に貼られたスケッチ	1970頃	墨、紙	28.0×39.3	リサ・ラーソン蔵
97	緑色の紙に貼られたスケッチ	1970頃	墨、紙	28.0×38.8	リサ・ラーソン蔵
98	『フォルケット・イ・ビルド』誌	1960		30.0×45.0	リサ・ラーソン蔵
99	『ヒューズモーダン』誌	1961		30.0×43.0	リサ・ラーソン蔵
100	裏表紙にグスタフスベリ社の広告が掲載された『フォルム』誌	1961		27.4×21.0	個人蔵
101	裏表紙にグスタフスベリ社の広告が掲載された『フォルム』誌	1962		27.4×21.0	個人蔵
102	1962年にストックホルムで開催されたリサ・ラーソンの最初の個展批評が掲載された『フォルム』誌1962年8号	1962		27.4×42.0	個人蔵
103	リサ・ラーソンとレディ・バード・ジョンソン(後の米国大統領リンドン・B.ジョンソン副大統領夫人)	1963年9月5日	写真	18.0×24.0	リサ・ラーソン蔵
104	雑誌	1965		29.0×42.5	リサ・ラーソン蔵
105	裏表紙にグスタフスベリ社の広告が掲載された『フォルム』誌	1967		27.4×21.0	個人蔵
106	『フェーミナ』誌	1970		29.0×21.5	リサ・ラーソン蔵
107	『ヴェッコショナーレン』誌(週刊誌)	1971		29.5×21.0	リサ・ラーソン蔵

108	リサ・ラーソンとスウェーデン皇太子、後の 国王カール 16 世グスタフ	1970 年代	写真	14.2×20.0	リサ・ラーソン蔵
109	グスタフスベリ社のポスター	1970 年代		42.0×29.7	リサ・ラーソン蔵
110	リサ・ラーソンの「世界の子どもたち」シリ ーズを宣伝するグスタフスベリ社の広告	1970 年代	写真	50.0×50.0	リサ・ラーソン蔵
111	『ヴィー』誌	1995	雑誌	28.0×46.6	リサ・ラーソン蔵
112	文様のあるレリーフ状のミラーフレーム	1953	陶器、鏡	54.0×43.5×4.0	リサ・ラーソン蔵
113	ヨーテボリのデザイン工芸学校の年鑑	1953		23.0×35.5	リサ・ラーソン蔵
114	ヨーテボリのデザイン工芸学校の年鑑	1952		22.5×18.0	リサ・ラーソン蔵
115	ヨーテボリのデザイン工芸学校の年鑑	1952		23.0×17.7	リサ・ラーソン蔵
116	初期の人物像	1952	ろくろ成形、手びねり、陶器	18.2×7.9×7.9	リサ・ラーソン蔵
117	立つ女性	1950 年代初頭	手びねり、陶器	19.3×8.5×8.0	個人蔵
118	男性とロバ	1954	手びねり、陶器	15.0×14.5×5.0	リサ・ラーソン蔵
119	トリのレリーフ	1950 年代初頭	陶器	13.6×26.6×1.1	リサ・ラーソン蔵
120	ボートに乗る漁師	1955	手びねり、炆器	10.4×10.7×6.7	リサ・ラーソン蔵
121	鉢	1958	ろくろ成形、炆器	H5.7×φ20.0	リサ・ラーソン蔵
122	枝付燭台	1966	ろくろ成形、手びねり、炆器	17.8×19.0×10.5	リサ・ラーソン蔵
123	ウマに乗るカップルの枝付燭台	1972	ろくろ成形、手びねり、炆器	23.2×24.0×7.5	リサ・ラーソン蔵
124	燭台	1970 年代	ろくろ成形、金彩、炆器	15.5×8.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
125	燭台	1970 年代	ろくろ成形、金彩、炆器	20.9×11.9×11.9	リサ・ラーソン蔵
126	枝付燭台	1965	ろくろ成形、釉薬、炆器	21.8×18.0×11.0	リサ・ラーソン蔵
127	枝付燭台	1970 年代	ろくろ成形、手びねり、炆器	48.0×30.0×30.0	リサ・ラーソン蔵
128	青いトリ	1955	エナメル、金属	35.6×48.0	個人蔵
129	ダブルウォールの正方形の鉢	1984	炆器	10.5×14.4×14.6	リサ・ラーソン蔵
130	ダブルウォールの鉢	1984	炆器	H9.5×φ15.5	リサ・ラーソン蔵
131	ダブルウォールの四角形の台座付鉢	1985	炆器	16.3×13.2×13.2	リサ・ラーソン蔵
132	三角の台座付花器	1989	炆器	16.2×13.0×13.0	リサ・ラーソン蔵
133	乗馬	1950 年代後期	手びねり、炆器	30.0×23.5×5.5	リサ・ラーソン蔵
134	花を持つ子ども	1970	たたら、手びねり、炆器	18.8×8.6×8.1	リサ・ラーソン蔵
135	スケッチ	1970 年代	インク、紙	30.0×22.0	リサ・ラーソン蔵
136	トリの器	1982	ろくろ成形、手びねり、炆器	21.4×18.0×12.0	リサ・ラーソン蔵
137	空想のトリ	1985	手びねり、炆器	18.8×16.5×10.0	リサ・ラーソン蔵
138	フクロウ	1980 年代	炆器	22.5×19.0×11.0	リサ・ラーソン蔵
139	フクロウ	1980 年代か	炆器	11.5×17.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
140	青いウマ	1980 年代	手びねり、炆器	15.0×23.0×5.5	リサ・ラーソン蔵
141	金のヒレを持つサカナ	1990	炆器	9.0×11.5×3.0	リサ・ラーソン蔵
142	大きなサカナ	1990 年代	炆器	23.5×30.0×9.5	リサ・ラーソン蔵
143	吠える未知の動物	1990 年代	手びねり、炆器	7.7×7.5×6.0	リサ・ラーソン蔵
144	首の長い未知の動物	2008	手びねり、炆器	15.0×11.0×4.0	リサ・ラーソン蔵
145	鼻の大きな未知の動物	1970	手びねり、炆器	9.5×15.0×8.5	リサ・ラーソン蔵
146	座る未知の動物	1968	手びねり、炆器	6.3×11.0×6.3	リサ・ラーソン蔵
147	匂いを嗅ぐ未知の動物	1968	手びねり、炆器	7.7×17.0×7.5	リサ・ラーソン蔵
148	角がある未知の動物	1968	ろくろ成形、手びねり、炆器	9.9×15.5×8.5	リサ・ラーソン蔵
149	均整の取れた未知の動物	1968	ろくろ成形、手びねり、炆器	11.7×19.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
150	茶色の未知の動物	1968	手びねり、炆器	10.0×14.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
151	リスに似た未知の動物	1968	手びねり、炆器	10.5×18.0×9.5	リサ・ラーソン蔵
152	微笑む未知の動物	1968	手びねり、炆器	11.0×19.0×10.0	リサ・ラーソン蔵
153	クマに似た未知の動物	1968	手びねり、炆器	9.4×15.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
154	人喰いの大鷲トリコ	2016	泥漿鑄込、炆器	12.7×10.0×5.0	リサ・ラーソン蔵
155	陶芸家	1950 年代	手びねり、炆器	9.8×6.5×5.0	リサ・ラーソン蔵
156	花の帽子をかぶった婦人の蓋付容器	1982	ろくろ成形、手びねり、炆器	9.0×7.2×7.2	リサ・ラーソン蔵
157	鳥の帽子をかぶった男性の蓋付容器	1982	ろくろ成形、手びねり、炆器	10.5×5.5×5.0	リサ・ラーソン蔵
158	紳士の蓋付容器	1982	ろくろ成形、手びねり、炆器	8.2×6.0×6.0	リサ・ラーソン蔵
159	月桂冠をかぶった男性の蓋付容器	1982	ろくろ成形、手びねり、炆器	6.3×6.5×6.5	リサ・ラーソン蔵
160	シェフの蓋付容器	1982	ろくろ成形、手びねり、炆器	10.0×7.0×6.0	リサ・ラーソン蔵

161	「ダイビング中」蓋付容器	1981	ろくろ成形、手びねり、炆器	19.5×8.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
162	「去ろうとする」蓋付容器	1981	ろくろ成形、手びねり、炆器	17.6×9.0×11.5	リサ・ラーソン蔵
163	「現れた」蓋付容器	1970年代	ろくろ成形、手びねり、炆器	20.2×10.0×9.8	リサ・ラーソン蔵
164	「入浴中」蓋付容器	1972	ろくろ成形、手びねり、炆器	16.5×10.0×10.0	リサ・ラーソン蔵
165	ミイラ	1996	たたら、手びねり、炆器	49.7×17.0×13.0	リサ・ラーソン蔵
166	トルソー型の花器	1998	たたら、手びねり、一部釉薬、炆器	36.8×9.5×6.0	リサ・ラーソン蔵
167	スケッチ	1960	インク、紙	34.0×31.0	リサ・ラーソン蔵
168	ハイハイする子ども	1970年代	手びねり、炆器	7.5×4.3×8.3	リサ・ラーソン蔵
169	親指姫	1982	手びねり、炆器	16.8×15×15.5	リサ・ラーソン蔵
170	座る1歳の子ども	1980年代	手びねり、炆器	13.8×7.0×7.0	リサ・ラーソン蔵
171	2歳の子どもと子ネコ	1989	手びねり、炆器	14.0×9.5×10.0	リサ・ラーソン蔵
172	姉と赤ん坊	1980	手びねり、炆器	16.8×13.0×10.0	リサ・ラーソン蔵
173	祖父の膝の上で	1980	手びねり、炆器	19.2×14.0×12.5	リサ・ラーソン蔵
174	10代の頃のヨハンナ・ラーソンの肖像	1977	手びねり、炆器	30.8×19.5×14.5	リサ・ラーソン蔵
175	子どもの頃のマティアス・ラーソンの肖像	1977	手びねり、炆器	32.0×19.0×21.0	リサ・ラーソン蔵
176	思索する	1980年代	手びねり、炆器	14.0×6.5×8.5	リサ・ラーソン蔵
177	思索する	1970年代	手びねり、炆器	16.6×8.0×8.0	リサ・ラーソン蔵
178	腕組み	1974	手びねり、炆器	14.8×6.5×7.5	リサ・ラーソン蔵
179	ベッドの端で	1979	手びねり、炆器	16.7×24.5×15.0	リサ・ラーソン蔵
180	フラミンゴ・マン	1960年代後期	手びねり、クロモプリント(転写紙)、炆器	16.2×11.5×7.5	リサ・ラーソン蔵
181	クジャクの椅子	1970年代	手びねり、炆器	21.0×15.0×9.0	リサ・ラーソン蔵
182	喜び	2002	手びねり、炆器	22.5×9.0×5.5	リサ・ラーソン蔵
183	座る人	1992	手びねり、炆器	13.3×9.5×10.0	リサ・ラーソン蔵
184	特等席	1967	手びねり、炆器	36.5×23.5×8.5	リサ・ラーソン蔵
185	気難しい人	1960年代	手びねり、クロモプリント(転写紙)、炆器	11.0×10.3×8.0	リサ・ラーソン蔵
186	戦士	2001	手びねり、炆器	30.0×46.5×13.0	リサ・ラーソン蔵
187	身体を折り曲げて	1976	手びねり、炆器	9.8×7.5×9.5	リサ・ラーソン蔵
188	回転する	1970-1980年代	手びねり、炆器	17.0×14.5×8.0	リサ・ラーソン蔵
189	逆立ち	2009	手びねり、クロモプリント(転写紙)、炆器	26.0×11.5×9.5	リサ・ラーソン蔵
190	バランス	1981	手びねり、炆器	16.4×13.0×6.0	リサ・ラーソン蔵
191	ダンサーたち	1990年代	インク、紙	18.7×19.8	リサ・ラーソン蔵
192	ダンサーたち	2008	インク、紙	25.0×36.0	リサ・ラーソン蔵
193	家族	1990年代	炆器	27.8×35.5×4.0	リサ・ラーソン蔵
194	アダムとイブ	1980年代	たたら、手びねり、炆器	21.0×21.0×5.5	リサ・ラーソン蔵
195	愛情	1980	手びねり、炆器	19.3×17.0×7.5	リサ・ラーソン蔵
196	親密な二人	1990年代	手びねり、炆器	18.0×16.0×12.0	リサ・ラーソン蔵
197	キス	1996	手びねり、炆器	16.8×12.0×8.5	リサ・ラーソン蔵
198	献身的愛情	1981	ろくろ成形、手びねり、炆器	11.5×11.4×11.4	リサ・ラーソン蔵
199	花器	1950年代後期	ろくろ成形、炆器	9.8×14.0×14.0	リサ・ラーソン蔵
200	花器	1960年代	ろくろ成形、炆器	10.3×14.3×14.3	リサ・ラーソン蔵
201	花器	1960年代	ろくろ成形、炆器	22.3×19.5×19.5	リサ・ラーソン蔵
202	花器	1960年代	ろくろ成形、炆器	26.5×11.0×11.0	リサ・ラーソン蔵
203	蓋付容器	1975	ろくろ成形、炆器	12.3×12.5×12.5	リサ・ラーソン蔵
204	壺	1979	ろくろ成形、炆器	14.0×13.0×13.0	リサ・ラーソン蔵
205	鉢	1980	ろくろ成形、炆器	H16.5×φ22.0	リサ・ラーソン蔵
206	花器	1987	炆器	28.5×13.0×13.0	リサ・ラーソン蔵
207	壺	1992	ろくろ成形、一部金泥、炆器	25.0×28.0×28.0	リサ・ラーソン蔵
208	花器	1995	炆器	36.5×13.5×10.3	リサ・ラーソン蔵
209	花器(ユニークピース)	1997	ろくろ成形、手びねり、炆器	34.4×25.0×27.0	リサ・ラーソン蔵
210	花器	1998	炆器	34.4×10.3×8.0	リサ・ラーソン蔵
211	鉢	1990年代	炆器	H17.5×φ34.5	リサ・ラーソン蔵
212	壺	2001	炆器	19.0×20.0×10.0	リサ・ラーソン蔵
213	花器	2002	ろくろ成形、手びねり、炆器	29.4×26.0×17.0	リサ・ラーソン蔵

214	スケッチ	1960年代	インク、水彩、紙	31.0×21.5	リサ・ラーソン蔵
215	スケッチ	1960年代	インク、水彩、紙	32.0×23.3	リサ・ラーソン蔵
216	親指姫	製造 1978	緑青加工されたブロンズ	16.7×14.7×6.8	リサ・ラーソン蔵
217	ティーンエイジャー	製造 1978	緑青加工されたブロンズ	26.6×9.0×7.0	リサ・ラーソン蔵
218	瞑想/思想家	製造 1978	緑青加工されたブロンズ	13.1×4.5×5.5	リサ・ラーソン蔵
219	子ども	製造 1978	緑青加工されたブロンズ	15.0×6.5×11.0	リサ・ラーソン蔵
220	ボール	製造 1978	緑青加工されたブロンズ	15.0×7.7×12.3	リサ・ラーソン蔵
221	偉大なる舟乗り	製造 1978	緑青加工されたブロンズ	10.5×7.3×11.4	リサ・ラーソン蔵
222	ネコのジャマーレ、リキュールのデカンター	製造 1970年代	型吹きガラス	22.5×11.5×9.0	リサ・ラーソン蔵
223	フィルフン（酔っぱらったイヌ）、リキュールのデカンター	製造 1970年代	型吹きガラス	11.4×24.2×7.5	リサ・ラーソン蔵
224	男性とサカナ	製造 1970年代	鑄込ガラス	9.7×11.0×2.8	リサ・ラーソン蔵
225	聞かザル/見ザル、聞かザル、言わザルシリーズ	製造 1970年代	鑄込ガラス	8.8×9.7×3.5	リサ・ラーソン蔵
226	見ザル/見ザル、聞かザル、言わザルシリーズ	製造 1970年代	鑄込ガラス	8.8×9.7×3.5	リサ・ラーソン蔵
227	言わザル/見ザル、聞かザル、言わザルシリーズ	製造 1970年代	鑄込ガラス	8.8×9.7×3.5	リサ・ラーソン蔵
228	ネコ/自由な動物たちシリーズ	製造 1970年代	鑄込ガラス	20.4×20.6×4.5	リサ・ラーソン蔵
229	リサ・ラーソンのガラス製品のためのロイヤル・クローナ社の 広告	1970年代	プリントされた紙	21.0×29.7	リサ・ラーソン蔵
230	コスタガラス工房のガラス吹き工たち	1954	鉛筆、紙	31.0×24.5	リサ・ラーソン蔵
231	コスタガラス工房のガラス吹き工たち	1954	鉛筆、紙	31.0×24.5	リサ・ラーソン蔵
232	ガラス瓶	1970年代	型吹きガラス	17.5×11.0×6.5	リサ・ラーソン蔵
233	国境を越えて	1950年代	テンペラ、キャンヴァス	136.0×125.0	リサ・ラーソン蔵
234	花器	1960年代初頭	ろくろ成形、炆器	27.0×28.0×28.0	リサ・ラーソン蔵
235	無重力の中で上昇	1950年代	グワッシュ、接着剤、紙	76.0×140.0	リサ・ラーソン蔵
236	大きな花器	1960頃	ろくろ成形、炆器	31.5×26.5×26.5	個人蔵
237	彫刻花器	1966	たたら、手びねり、炆器	35.0×13.0×12.0	リサ・ラーソン蔵
238	彫文風景図花器花器	1970年代	手びねり、炆器	35.0×12.0×12.0	個人蔵
239	電信柱	1980年代	インク、水彩、紙	500.0×585.0	リサ・ラーソン蔵
240	スコネ地方の風景	1980年代	油彩、キャンヴァス	76.0×66.5	リサ・ラーソン蔵
241	風景の中で座っている女性のレリーフ	1980年代	たたら、手びねり、炆器	44.4×30.0×6.0	リサ・ラーソン蔵
242	座る人	1990年代	アクリル、顔料、キャンヴァス	94.0×92.0	リサ・ラーソン蔵
243	平原の少女	2000	水彩、紙	44.5×37.5	リサ・ラーソン蔵
244	女性の顔のレリーフ	1980年代	炆器	22.7×24.3×4	リサ・ラーソン蔵
245	有名人	1980年代	アクリル絵具、キャンヴァス	100.0×71.5	リサ・ラーソン蔵
246	角瓶	1970年代	たたら、炆器	27.8×15.7×10.5	リサ・ラーソン蔵
247	川	1980年代	アクリル絵具、紙	67.5×52.4	リサ・ラーソン蔵
248	トリ	1960年代	手びねり、炆器、木枠	17.5×26.3×10.5	リサ・ラーソン蔵
249	人物像	1967	手びねり、炆器	22.5×27.5×9.0	リサ・ラーソン蔵
250	鉢	1969頃	楽焼	H104.0×φ120.0	リサ・ラーソン蔵
251	母親と子ども	1969	楽焼	13.4×10.5×9.5	リサ・ラーソン蔵

※制作者はすべてリサ・ラーソン。

※寸法は平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行。

深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ

会期＝2023（令和5）年12月2日（土）－2024（令和6）年1月28日（日） 45日間

主催＝北海道立帯広美術館、北海道新聞社、深堀隆介展実行委員会

共催＝帯広美術館振興会

特別協力＝十勝毎日新聞社

協力＝キュレーターズ

観覧料＝一般1,300（1,100）円、高大生800（600）円、中学生500（400）円

小学生以下無料

（ ）内は10名以上の団体、前売り、リピーター、相互割引料金。学校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料。



ポスター

美術作家・深堀隆介は、若き日に飼っていた一匹の金魚の美しさに感動して以来、今日まで金魚をテーマに個性的なスタイルで作品を制作してきた。金魚を立体的にあらわすため、透明樹脂の表面にアクリル絵具で描くことを繰り返して何層にも重ねる「2.5Dペインティング」とも呼ばれる手法を編み出し、その技術を磨き続けている。この技法を用いた作品には、金魚の繊細なヒレや皮膚、水のゆらぎや影が表現され、まるで命ある金魚が水の中で泳いでいるようだ。また、金魚の艶やかな鱗を鮮烈な色彩で表現した作品や、神秘的な金魚の姿を実物以上の大きさに描いた絵画からは、金魚という存在の崇高さを感じることができる。

本展では、初期の立体作品から絵画、映像、大規模なインスタレーションなど新作を含む作品約300点を紹介。子どもから大人まで幅広い年代の方が観覧を鑑賞され、来場者数は18,582人。

○ 関連事業

アーティスト・トーク

講師＝深堀隆介氏（本展出品作家）

日時＝12月2日（土） 午前11時－（約60分）

会場＝当館講堂（参加無料） 定員＝70名

ギャラリー・ツアー

案内＝深堀隆介氏（本展出品作家）

日時＝12月2日（土） 午後3時－（約60分）

会場＝当館主展示室（要観覧券）

ギャラリー・ツアー

案内＝耳塚里沙（当館学芸員）

日時＝12月9日（土）、1月6日（土） 午後2時－（約40分）

会場＝当館主展示室（要観覧券）

折ってつくろう ☆変身!?和紙ランプ☆

講師＝加藤かおり氏（現代美術家）

日時＝12月10日（日） 午前10時－12時

会場＝当館講堂（参加無料） 定員＝30名

キッズ・ツアー

案内＝耳塚里沙（当館学芸員）

日時＝1月13日（土） 午後2時－（約30分）

会場＝当館主展示室（要観覧券、小学生以下無料）

キッズ・ミュージアム「折り紙こま」

日時＝1月20日（土） 午後1時30分－午後3時30分（受付は午後3時まで）

会場＝当館講堂（託児無料）

主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらか

ばの会」

おびひろ氷まつり協賛事業

日時＝1月31日（金）－2月2日（日）

主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会

協力＝帯広美術館ボランティア「しらかばの会」、帯広市児童会館、帯広百年記念館、みどりと花のセンター

・緑ヶ丘公園スタンプラリー

日時＝1月26日（金）－28日（日） 午前9時30分－午後4時30分

会場＝当館ロビー、帯広市児童会館、帯広百年記念館、みどりと花のセンター、氷まつり会場本部横（参加無料）

・ミュージアム・ツアー

案内＝敷田弘子（当館学芸員）

日時＝1月27日（土） 午前11時－（50分程度）

会場＝当館コレクション・ギャラリー、地階ボイラー室など（要観覧券）

・ワークショップ プレイバック「鉄たたけます。☆鉄は熱いうちにたたくのだー！」

講師＝藤沢レオ氏（彫刻家・金属工芸家）

日時＝1月27日（土）、28日（日） 各日午後0時30分－1時、1時－1時30分、1時30分－2時、2時－2時30分、2時30分－3時

会場＝当館前庭・講堂（応募制、参加無料）

対象＝4歳以上（小学3年生以下のお子さまは保護者同伴）、各回定員5名

○ 図録

規格＝縦 23.8×横 16.6cm (B5 判変形) / 総頁数 176 ページ

構成＝ごあいさつ／作家あいさつ／ i 夜明け前―金魚救い以前／ ii 金魚酒―2.5D ペインティングの誕生／ iii 存在と不在―気配がもたらすもの／ iv 金魚繚乱―妖しく、ゆらめく／ v 金魚百態／ vi 我らは、水溜りに発生するコケ／作家略歴／出品作品リスト



図録

○ 主要関連記事

高井翔太「帯広美術館 超絶技巧で金魚描く あすから深堀隆介展」十勝毎日新聞／12月1日(金)

高橋澄恵「水の揺らぎ 漂う金魚 本物のよう 帯広美術館『深堀隆介展』開幕」北海道新聞／12月3日(日)

藤家秀一「本物そっくり 水面の世界 帯広美術館 深堀隆介展が開幕」十勝毎日新聞／12月3日(日)

高井翔太、金野和彦「金魚が泳ぎ 人も生きる 深堀隆介さん特別展 帯広美術館」十勝毎日新聞／12月8日(金)

安達杏奈「深堀隆介展 来館 5000 人」北海道新聞／12月22日(金)

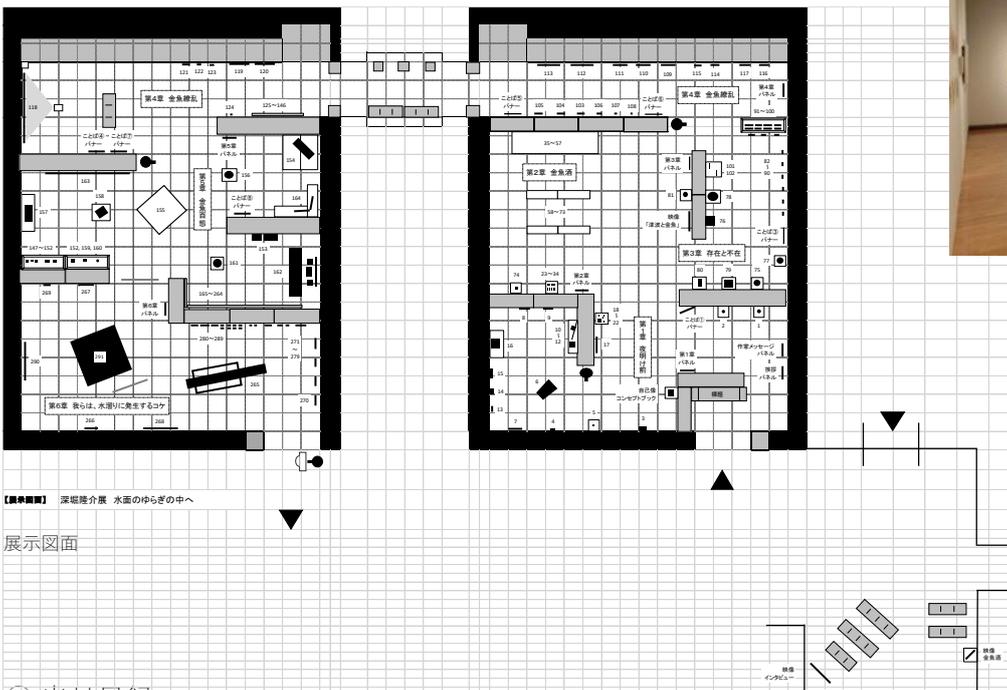
安達杏奈「深堀隆介展 入館 1 万人」北海道新聞／1月12日(金)

高井翔太「来場者 1 万人突破 釧路夫妻に記念品 深堀隆介展」十勝毎日新聞／1月12日(金)

高橋澄恵「フォトかちクラブ 金魚 無限のゆらめき 帯広で深堀隆介展」北海道新聞／1月15日(月)



会場風景



○ 出品目録

No.	作品名	制作年	技法素材	寸法 (cm)	所蔵者
第1章 夜明け前―金魚救い以前					
1	百済	2004	アクリル絵具、風呂桶、エポキシ樹脂	11.0×φ22.0	株式会社 BELEC
2	春ノ桶	2020	アクリル絵具、木桶、超難黄変エポキシ樹脂	13.5×φ17.5	
3	自己像	1993	自然木、英字新聞、酒瓶、吸殻、ホース等	150.0×45.0×21.0	
4	Fishbone のための習作	1995	自然木、竹、紙、針金、コーヒー染め	130.0×24.0×10.0	
5	サンマ	1995	深堀が食べたサンマ、ポリエステル樹脂	33.0×7.5×7.5	
6	Fishbone 頭部	1995	自然木、竹、紙、針金、コーヒー染め	90.0×110.0×85.0	
7	Fishbone「PROTECTOR」 イメージスケッチ	1995	鉛筆、色鉛筆、紙	50.0×80.0	
8	ZEBRA No.1	1999	アクリル塗料、ベニヤ板、角材	73.0×50.0×9.0	
9	ZEBRA No.2	1999	アクリル塗料、ベニヤ板、角材	73.0×50.0×13.0	
10	サバンナ	2000	アクリル絵具、ウレタン塗料、ベニヤ板	25.5×25.5×25.5	
11	サバンナ	2000	アクリル絵具、ウレタン塗料、ベニヤ板、樹脂粘土	50.3×34.7×16.5	
12	サバンナ	2000	アクリル絵具、ウレタン塗料、ベニヤ板、樹脂粘土	6.0×129.5×6.0	

13	チョウツガイるのための習作 スケッチ	2002	墨、スケッチブック	23.0×31.5×4.0	
14	チョウツガイる [井の元]	2002	ウレタン塗料、ラッカー、MDF 合板、蝶番	30.0×46.0×30.0	
15	チョウツガイる [平等院鳳凰 堂 左廊]	2002	ウレタン塗料、ラッカー、MDF 合板、蝶番	65.0×69.0×45.0	
16	チョウツガイる [平等院鳳凰 堂 尾廊]	2002	ウレタン塗料、ラッカー、MDF 合板、蝶番	110.0×60.0×50.0	
17	泳げ! 金魚! (部分)	2000	アクリル絵具、パネル、ゴザ	193.5×92.5	
18	木金	2003-	アクリル絵具、木	6.3×10.5×5.0	
19	木金	2003-	アクリル絵具、木	8.0×10.0×5.3	
20	木金	2003-	アクリル絵具、木	8.0×10.0×5.3	
21	木金	2003-	アクリル絵具、木	10.5×18.0×9.0	
22	木金	2003-	アクリル絵具、木	5.0×10.0×5.5	
第2章	金魚酒 -2.5D ペインティングの誕生				
23-34	金魚ブリック	2002	アクリル絵具、エポキシ樹脂	(小) 1.6×8.2×3.0 [7点] (大) 2.7×8.2×3.0 [5点]	
35	金魚酒 初期	2003	アクリル絵具、一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
36	金魚酒 銘なし	2003	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
37	金魚酒 銘なし	2004	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
38	金魚酒 銘なし	2005	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
39	金魚酒 命名 桜田へ鶴鳴き わたる	2005	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
40	金魚酒 銘なし	2006	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
41	金魚酒 命名 雪月	2006	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
42	金魚酒 銘なし	2007	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
43	金魚酒 命名 うす花	2007	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	湖香六根
44	金魚酒 銘なし	2008	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
45	金魚酒 銘なし	2008	アクリル絵具、木曾檜一合枱、エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
46	金魚酒 銘なし	2009	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
47	金魚酒 命名 呼続	2010	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
48	金魚酒 命名 美津島	2010	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
49	金魚酒 命名 緋背魚	2010	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
50	金魚酒 命名 七葉	2011	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
51	金魚酒 命名 伽琳	2016	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
52	金魚酒 命名 炎丸	2016	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
53	金魚酒 命名 茶傘	2018	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
54	金魚酒 命名 長月	2019	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
55	金魚酒 命名 黒蛾	2020	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
56	金魚酒 命名 花穂	2021	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
57	金魚酒 命名 竹切	2022	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
58	金魚酒 命名 夕舟	2016	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
59	金魚酒 命名 朝霧	2018	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
60	金魚酒 命名 出雲なん	2019	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
61	金魚酒 命名 煌夏	2020	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
62	金魚酒 命名 黒花	2020	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
63	金魚酒 命名 霧松	2021	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
64	金魚酒 命名 穂贊	2021	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
65	金魚酒 命名 宵雪	2021	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
66	金魚酒 命名 鈴夏	2021	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
67	金魚酒 命名 茶空	2021	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
68	金魚酒 命名 氷松	2022	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	個人蔵
69	金魚酒 命名 茶花	2023	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
70	金魚酒 命名 月舟	2023	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
71	金魚酒 命名 桂波ゆ	2023	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
72	金魚酒 命名 双鶴	2023	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
73	金魚酒 命名 雪夜	2023	アクリル絵具、木曾檜一合枱、超難黄変エポキシ樹脂	5.5×8.5×8.5	
74	加羅	2004	アクリル絵具、五合枱、エポキシ樹脂	7.6×14.0×14.0	
第3章	存在と不在 一気配がもたらすもの				
75	雪花	2020	アクリル絵具、岩絵具、木桶、超難黄変エポキシ樹脂、 樹脂、粘土、ガラスビーズ	24.0×35.0×35.0	
76	滯台	2018	アクリル絵具、超難黄変エポキシ樹脂、タイル、蛇口、 パイプ等	90.0×50.0×40.0	
77	初出荷 出目金	2009	アクリル絵具、超難黄変エポキシ樹脂	15.0×37.0×33.0	
78	名作と駄作の欠片	2005-	瓶、今まで描いた絵具の残りカス		
79	緋風	2021	アクリル絵具、コンクリート、超難黄変エポキシ樹脂	5.4×49.0×49.0	
80	真魚	2018	アクリル絵具、まな板、超難黄変エポキシ樹脂	3.0×24.8×47.2	
81	美愛	2011	アクリル絵具、寿司桶、超難黄変エポキシ樹脂	8.5×φ27.5	医療法人社 団博誠会

82	金缶 朝日デメ金	2014	2014年12月15日午後5時51分頃六本木7丁目パーキング向かって左の歩道脇の側溝にて拾いし空缶に超難黄変エポキシ樹脂とアクリル絵具	44.0×22.0×5.5
83	金缶 セブン丹頂	2014	(記憶)2010年頃アトリエに向かう道の途中にて拾いし空缶に超難黄変エポキシ樹脂とアクリル絵具	44.0×22.0×5.5
84	金缶 茶金サイダー	2014	2013年9月半ばアトリエに向かう途中、笹山バス停近くにて拾いし空缶に超難黄変エポキシ樹脂とアクリル絵具	44.0×22.0×5.5
85	金缶 コーヒー金	2014	(記憶)2013年頃夜のウォーキング中に県道109号線の側溝にて拾いし空缶に超難黄変エポキシ樹脂とアクリル絵具	44.0×22.0×5.5
86	金缶 オールフリー金	2014	(記憶)2013年4月頃夜のウォーキング中に県道109号線の側溝にて拾いし空缶に超難黄変エポキシ樹脂とアクリル絵具	44.0×22.0×5.5
87	金缶 レッドブル金	2014	(記憶)2014年頃夜のウォーキング中に国道16号線の妙福寺前信号の近くの歩道にて拾いし空缶に超難黄変エポキシ樹脂とアクリル絵具	44.0×22.0×5.5
88	金缶 ジョージア	2008	アクリル絵具、2008年に拾った空缶、ラッカー	38.0×31.0×5.8
89	金缶 カフェオレ	2008	ジョギング中に拾ったカフェオレの空缶にラッカー、アクリル絵具	41.0×32.0×3.0
90	金缶 炭焼き	2008	ジョギング中に拾いし空缶にラッカーとアクリル絵具	44.0×31.7×3.5
91-100	DEATH NOTE	2006-	水彩絵具、鉛筆、手帳、スケッチブック、ノート等	[10点]
101	作出フィクション命名 白姫梟	2006	アクリル絵具、アクリル、エポキシ樹脂	27.0×27.0×5.0
102	作出フィクション命名 鶏頭オランダ	2006	アクリル絵具、アクリル、エポキシ樹脂	27.0×27.0×5.0
第4章 金魚繚乱 一妖しく、ゆらめく				
103	白雨	2019	アクリル絵具、墨、桐材、超難黄変エポキシ樹脂	90.0×40.0×7.5
104	斑雲	2019	アクリル絵具、墨、桐材、超難黄変エポキシ樹脂	90.0×40.0×7.5
105	夢見川	2022	アクリル絵具、鉛筆、桐材、超難黄変エポキシ樹脂	91.5×49.5
106	紫雨	2021	アクリル絵具、プラチナ箔、木板、超難黄変エポキシ樹脂	92.0×25.5×11.0
107	花露	2019	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	60.0×18.0×6.5
108	REDI	2019	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	50.5×14.2×5.0
109	黄瀬	2021	アクリル絵具、パネル、和紙、アルミ枠	180.0×75.0
110	月窓	2021	アクリル絵具、パネル、和紙、アルミ枠	180.0×75.0
111	緋霧	2021	アクリル絵具、パネル、和紙、アルミ枠	180.0×75.0
112	大渦	2010	アクリル絵具、紙	242.0×121.0
113	大蘇我	2010	アクリル絵具、紙	242.0×121.0
114	水籠	2022	アクリル絵具、パネル、紙	182.0×45.0×3.5
115	紫空	2022	アクリル絵具、パネル、紙	182.0×45.0×3.5
116	麗尾動 をちみづ	2009	アクリル絵具、変形木板	72.5×49.0
117	麗尾動 ありみづ	2010	アクリル絵具、変形木板	60.0×51.5
118	メチレンブルーの海	2013	映像(13分12秒)	
119	Skin - R1	2010	アクリル絵具、キャンバス	91.0×116.6
120	Skin - W1	2010	アクリル絵具、キャンバス	91.0×116.6
121	巴	2021	アクリル絵具、銀箔、古い木桶の蓋、超難黄変エポキシ樹脂	φ39.8×3.5
122	義仲	2021	アクリル絵具、錫箔、古い木桶の蓋、超難黄変エポキシ樹脂	φ39.8×3.5
123	銀河ノ雪	2022	アクリル絵具、古い木桶の蓋、超難黄変エポキシ樹脂	φ30.0×5.5
124	浮橋	2022	アクリル絵具、M3パネル、超難黄変エポキシ樹脂	27.3×16.0
125	鱗象 SNOO	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	12.0×8.8×3.6
126	鱗象 NONA	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	16.0×13.5×4.3
127	鱗象 EA	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	23.0×20.0×4.4
128	鱗象 SACLIS	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	23.3×19.8×4.2
129	鱗象 MUHAL	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	15.2×20.0×4.4
130	鱗象 YWEK	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	13.6×8.0×4.8
131	鱗象 LUI	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	11.7×8.6×2.2
132	鱗象 CUSTONA	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	10.0×8.8×6.0
133	鱗象 AQUI	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	13.5×9.3×5.0
134	鱗象 MACHIKO	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	18.7×20.0×4.2
135	鱗象 VENETOS	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	11.2×9.0×3.2
136	鱗象 VATORUS	2019-2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	10.7×9.0×3.5
137	鱗象 AVISH	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	13.0×11.0×5.2
138	鱗象 BASCELO	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	14.5×8.0×3.7
139	鱗象 PEKTAN	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	15.3×8.3×4.2
140	鱗象 DARKAN	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	12.5×12.5×4.5
141	鱗象 DOSSE	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	14.0×8.0×4.5
142	鱗象 PARADA	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	11.5×5.5×4.5
143	鱗象 TARIL	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	14.3×9.3×5.0
144	鱗象 MIGUELUS	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	7.5×6.3×7.5
145	鱗象 CHROMNUS	2020	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	12.0×6.8×2.7
146	鱗象 IDAS	2019	アクリル絵具、木板、超難黄変エポキシ樹脂	60.5×13.0×4.5

第5章	金魚百態				
147	しめじ丹頂	2005	アクリル絵具、エポキシ樹脂、ベルベット、綿	3.0×11.0×8.0	
148	納豆東錦	2005	アクリル絵具、エポキシ樹脂、ベルベット、綿	3.0×8.0×8.0	
149	カレールー和金	2005	アクリル絵具、エポキシ樹脂、ベルベット、綿	2.2×8.0×8.2	
150	ココナッツ出目サブレ	2005	深堀が食べたココナッツサブレの器を型に使用、エポキシ樹脂、アクリル絵具、木板	2.8×21.2×7.0	
151	尾須志勲	2022	日本橋 江戸前鮨「蛇の市本店」で使用している寿司下駄、超難黄変エポキシ樹脂、アクリル絵具	4.0×24.0×14.5	個人蔵
152	日光	2010	日光のお土産、超難黄変エポキシ樹脂、アクリル絵具、タイル台	11.5×6.0×5.0	
153	ボンボンズ デメボン スキャボン	2006	コットン、ベルベット、綿、アクリル絵具	180.0×60.0×35.0 114.0×83.0×40.0	
154	花嫁さえも	2016	義母の嫁入り道具だった桐単筒、ミクストメディア	200.0×115.0×40.0	
155	雨花	2022	アクリル絵具、番傘、超難黄変エポキシ樹脂	69.0×90.0×90.0	
156	秋敷	2020	アクリル絵具、木桶、超難黄変エポキシ樹脂	10.5×φ41.5	個人蔵
157	晴天の鶴	2018	アクリル絵具、深堀が使用していた青いプラスチックのたらい、タモ、超難黄変エポキシ樹脂	36.0×117.0×45.0	
158	方舟	2009	アクリル絵具、骨董机、超難黄変エポキシ樹脂	29.0×60.0×38.0	
159	玄	2006	アクリル絵具、漆器、エポキシ樹脂、染料	10.8×φ21.2	
160	ハーフ・ユニバース	2018	アクリル絵具、超難黄変エポキシ樹脂、木（台座）	21.0×24.1×17.0	
161	ララ金魚	2020	アクリル絵具、古桶、超難黄変エポキシ樹脂	28.0×φ47.5	
162	ママ	2021	アクリル絵具、難黄変エポキシ樹脂、角材、板、お椀	13.0×124.8×64.7 [2点]	
163	泉深花	2007	アクリル絵具、パネル、綿布	120.0×400.0	
164	露草	2019	アクリル絵具、屏風	173.0×171.0	
165- 264	金魚書	2004-	墨、水彩絵具、半紙	33.3×24.3 [100枚組]	
第6章	我らは、水溜りに発生するコケ				
265	天樑ノ緋魚	2009	コーヒー染め、金箔、自然木、竹、紙、針金	全長約 500.0	
266	白澄 命名 空密	2011	アクリル絵具、パネル、紙、角材、石粉粘土、水金箔等	256.0×85.5	
267	韓雪	2009	アクリル絵具、パネル、紙、角材、石粉粘土、金箔等	195.5×106.0	
268	雪守	2009	アクリル絵具、パネル、紙、角材、石粉粘土、金箔等	131.5×192.5	
269	鏡	2021	アクリル絵具、鏡、超難黄変エポキシ樹脂	65.0×35.0×7.5	
270	お桃乳	2009	アクリル絵具、パネル、和紙	70.0×56.5	
271	ドローイング	c.2005	アクリル絵具、パネル、和紙	79.0×20.5	
272	ドローイング	c.2005	アクリル絵具、パネル、和紙	79.0×20.5	
273	ドローイング	2015	アクリル絵具、キャンバス、綿布	73.0×53.0	
274	ドローイング	2015	アクリル絵具、キャンバス	60.5×60.7	
275	ドローイング	2015	アクリル絵具、パネル	53.0×41.0	
276	ドローイング	c.2018	アクリル絵具、キャンバス、超難黄変エポキシ樹脂	21.2×15.0	
277	ドローイング	c.2018	アクリル絵具、キャンバス、超難黄変エポキシ樹脂	21.2×15.0	
278	ドローイング	2023	アクリル絵具、キャンバス	73.0×53.0	
279	ドローイング	2023	アクリル絵具、キャンバス	73.0×53.0	
280	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
281	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
282	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
283	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
284	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
285	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
286	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
287	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
288	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
289	ドローイング	2023	水彩絵具、水彩紙		
290	死せる君影	2023	アクリル絵具、水彩絵具、色鉛筆、パネル、和紙、角材、石粉粘土、ジェスモナイト、純金箔、香料等	338.0×195.0×22.0	
291	方丈ノ夢	2023	畳、超難黄変エポキシ樹脂、アクリル絵具、角材、キャスター、電話機、蚊やり器、円卓、座布団、陶器、桶、団扇、灰皿等	65.0×255.0×255.0	

※作者はすべて深堀隆介。

※寸法は平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行。

※所蔵者の記載のないものについてはすべて作家蔵。

坂本直行展～直行さんの足あと～

会期＝令和6（2024）年2月10日（土）－3月10日（日） 26日間

主催＝北海道立帯広美術館

協賛＝株式会社ズコーシャ、FLOWMOTION cafe and gallery

助成＝公益財団法人ポーラ美術振興財団

観覧料＝一般800（640）円、大学生500（400）円、高校生以下無料

（高校生は帯広美術館「しらかばの会」2023年度無料招待事業）

（ ）内は10名以上の団体、前売り、リピーター、相互割引料金。学校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料



ポスター

坂本直行は、開拓農民としての骨太の人生と、少年期から親しんでいた植物や山の絵で、現在にいたるまで人々を惹き付けてやまない画家である。1906（明治39）年に釧路で生まれ、幼少期に札幌に移った。小学校時代から山に登り、山や草花の絵を描き始めた。北海道帝国大学（現・北海道大学）農学部を経て、1930（昭和5）年24歳の時に北海道十勝地方広尾村（現・広尾町）に入植。以後、30年にわたり十勝の過酷な自然の中で、非常な苦闘を重ねながら農業を営んだ。広尾の原野で多忙な日々を送る間も、山と絵は精力的に続け、また文章も数多く残している。54歳で農業に終止符を打った後は、画家としてネパールやカナダなどへスケッチ旅行も果たした。

本展は、旺盛な活動を続けた「直行さん」の人生を、植物や山を描いた油彩、水彩、スケッチブックのほか、書簡、直筆原稿、著書、画材などの資料を含む約120点で振り返った。来場者数は4,739人。

○ 関連事業

美術講演会「北の山、原野、直行さんのこと」

講師＝伊藤健次氏（写真家）

日時＝2月10日（土） 午後2時－（90分）

会場＝当館講堂（聴講無料、60席）

ギャラリー・ツアー

案内＝齊藤千鶴子（当館学芸課長）

日時＝2月12日（月・祝）、2月24日（土） 午後2時－（30分）

会場＝当館主展示室（要観覧券）

特別展セミナー「直行さんの筆あと」

講師＝齊藤千鶴子（当館学芸課長）

日時＝2月11日（日）、2月23日（金・祝） 午後2時－（60分）

会場＝当館講堂（聴講無料、60席）

○ 図録

規格＝縦29.7×横21.0cm（A4判）／総頁数48ページ

構成＝ごあいさつ／直行さんの筆あと 齊藤千鶴子／主要文献／直行さんのアルバムから／原野の開墾／楽古岳を仰ぐ／再録「南日高と楽古岳」／美しい日高の山波／大雪山系の山々／山の仲間と家族／ヒマラヤ、ロッキー山脈へ／八雲町の彫刻家 柴崎重行との交友／北海道の草花／再録「いも談義」／北海道の山水／原稿「寺田屋、お登勢の写真」と直行の筆跡／略年譜／作品リスト

○ 主要関連記事

高井翔太「坂本直行と日高山脈たどる 帯広美術館で初、作品展」十勝毎日新聞／1月31日（水）

高井翔太「坂本直行 山とともに 帯広美術館、初の特別展開催」十勝毎日新聞／2月10日（土）

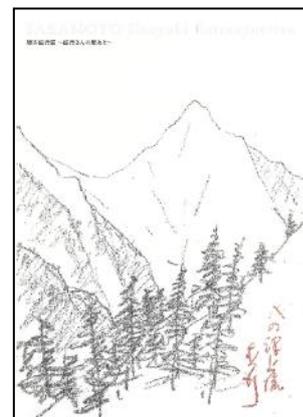
関山大樹「直行さん 山への愛 帯広美術館 特別展に160点」北海道新聞／2月11日（日）

沼田駿「直行さんの魅力 解説聞いて納得 ギャラリーツアー」北海道新聞／2月14日（水）

安達杏奈「坂本直行の足跡たどる 道新政経懇 美術館学芸員が講演」北海道新聞／2月16日（金）

齊藤千鶴子「一番美しい日高山脈 直行さん 忠類丸山から描く」十勝毎日新聞／2月19日（月）

「23、24日坂本直行関連講演やツアー」十勝毎日新聞／2月22日（木）



図録

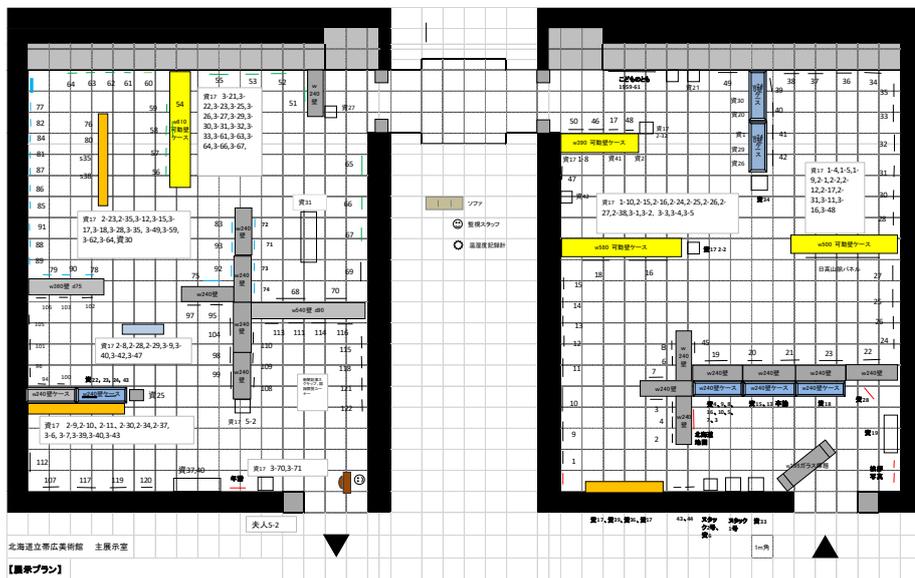
石原健治「坂本直行が描く日高山脈」読売新聞／2月24日（土）

山田夏帆「直行、変わる山々描いた 特別展セミナー」十勝毎日新聞／2月25日（日）

時田則雄「編集余録 坂本直行」十勝毎日新聞／3月2日（土）

安田義教「編集余録 あの日の直行さん」十勝毎日新聞／3月9日（土）

齊藤千鶴子・構成 安達杏奈「直行さん 農耕風景から山へ、個性ありのまま」北海道新聞／3月24日（日）



展示図面



会場風景

○ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	所蔵
1	坂本 直行	ブラウイング	1954 (昭和 29)	水彩・紙	24.5×34.0	広尾町海洋博物館
2	坂本 直行	荷馬車	1954 (昭和 29)	水彩・紙	25.5×35.5	広尾町海洋博物館
3	坂本 直行	放牧風景		水彩・紙	24.5×34.5	広尾町海洋博物館
4	坂本 直行	冬の原野	1965 (昭和 40)	水彩・紙	24.0×33.0	広尾町海洋博物館
5	坂本 直行	上豊似風景		水彩・紙	22.5×28.5	山田忠一郎氏
6	坂本 直行	豊似川河口	1954 (昭和 29)	水彩・紙	26.0×35.0	広尾町海洋博物館
7	坂本 直行	早春の野塚岳 (南日高)	1958 (昭和 33)	水彩・紙	37.0×45.5	広尾町海洋博物館
8	坂本 直行	冬の原野と海	1962 (昭和 37)	水彩・紙	31.0×41.0	広尾町海洋博物館
9	坂本 直行	冬の楽古岳		水彩・紙	23.0×26.5	広尾町海洋博物館
10	坂本 直行	楽古岳	1960 (昭和 35)	油彩・キャンバス	22.0×27.3	山田忠一郎氏
11	坂本 直行	浜トヨニより初夏の楽古連山	1962 (昭和 37)	油彩・キャンバス	49.5×72.0	広尾町農業協同組合
12	坂本 直行	大丸山からみた楽古岳	1964 (昭和 39)	油彩・キャンバス	60.6×90.9	広尾町海洋博物館
13	坂本 直行	大丸山よりオソウシの展望 (楽古岳)	1964 (昭和 39)	油彩・キャンバス	50.0×72.7	広尾町海洋博物館
14	坂本 直行	初冬の楽古岳	1965 (昭和 40)	水彩・紙	29.5×39.5	八雲総合病院
15	坂本 直行	残雪の楽古岳	1978 (昭和 53)	水彩・紙	24.3×33.0	末廣美智代氏
16	坂本 直行	十勝大平原と日高連峰	1960 (昭和 35)	油彩・キャンバス	78.0×154.2	帯広百年記念館
17	坂本 直行	初冬のヤオロマップ (更別原野より)	1959 (昭和 34)	水彩・紙	29.5×39.5	八雲総合病院
18	坂本 直行	南十勝原野から見た初冬の日高山脈	1958 (昭和 33)	油彩・キャンバス	65.2×90.9	雪印メグミルク (株) 大樹工場
19	坂本 直行	秋の日高連峰	1961 (昭和 36)	油彩・キャンバス	33.3×45.5	北海道新聞帯広支社
20	坂本 直行	晩秋の原野と日高山脈	1962 (昭和 37)	油彩・キャンバス	50.0×72.7	北海道大樹高等学校
21	坂本 直行	初冬の南日高	1964 (昭和 39)	油彩・キャンバス	60.6×90.9	広尾町海洋博物館
22	坂本 直行	初冬の日高連峰 (南十勝より)	1969 (昭和 44)	油彩・キャンバス	40.9×53.0	国立大学法人北海道 国立大学機構
23	坂本 直行	晩秋の原野と日高山脈	1965 (昭和 40)	油彩・キャンバス	31.8×40.9	広尾町立豊似小学校
24	坂本 直行	初冬の日高連峰	1975 (昭和 50)	油彩・キャンバス	45.5×33.3	杉山徳治氏
25	坂本 直行	初冬の日高連峰	1977 (昭和 52)	油彩・キャンバス	50.0×65.2	北海道十勝総合振興局
26	坂本 直行	初冬の日高連峰	1977 (昭和 52)	油彩・キャンバス	50.0×65.2	川田章博氏

27	坂本 直行	初冬の南日高	1980 (昭和 55)	油彩・キャンバス	33.3×45.5	小林公子氏
28	坂本 直行	山脈 1839 米峰		水彩・紙	24.5×34.0	広尾町海洋博物館
29	坂本 直行	元浦河より日高	1962 (昭和 37)	水彩・紙	30.5×40.0	八雲総合病院
30	坂本 直行	豊似岳よりピリカヌブリ	1963 (昭和 38)	水彩・紙	20.0×26.5	八雲総合病院
31	坂本 直行	夏のエサオマントツタベツ岳(札内岳より)	1970 (昭和 45)	水彩・紙	32.5×41.5	杉山徳治氏
32	坂本 直行	トツタベツから見た日高ポロシリ		水彩・紙	30.0×39.0	八雲総合病院
33	坂本 直行	初冬のペテガリとルベツネ	1972 (昭和 47)	水彩・紙	24.0×32.0	八雲総合病院
34	坂本 直行	沼の原山よりトムラウシ	1958 (昭和 33)	水彩・紙	31.0×41.0	広尾町海洋博物館
35	坂本 直行	石狩岳		水彩・紙	25.0×36.0	広尾町海洋博物館
36	坂本 直行	初冬の黒岳	1959 (昭和 34)	水彩・紙	35.0×43.5	八雲総合病院
37	坂本 直行	五月の大雪山(清川より)	1964 (昭和 39)	油彩・キャンバス	45.5×53.0	北海道広尾高等学校
38	坂本 直行	五月のニベツツ	1962 (昭和 37)	水彩・紙	30.0×40.0	八雲総合病院
39	坂本 直行	冬のフラノ岳	1967 (昭和 42)	水彩・紙	22.5×32.0	八雲総合病院
40	坂本 直行	十勝岳	1970 (昭和 45)	水彩・紙	22.0×32.0	八雲総合病院
41	坂本 直行	冬の然別湖とウベサンケ	1979 (昭和 54)	水彩・紙	31.5×40.5	杉山徳治氏
42	坂本 直行	残雪の旭岳	1980 (昭和 55)	水彩・紙	30.0×39.5	八雲総合病院
43	坂本 直行	十勝岳中茶屋	1929 (昭和 4)	ペン・紙	11.0×16.0	北大山岳館
44	坂本 直行	原野の立枯れ	1931 (昭和 6)	パステル・紙	20.5×25.5	北大山岳館
45	坂本 直行	友の死せる谷	1940 (昭和 15)	水彩・紙	26.0×21.0 (2枚)	北大山岳館
46	坂本 直行	ヤオロマップ岳	1955 (昭和 30) 頃	油彩・キャンバス	23.5×32.0	北大山岳館
47	坂本 直行	七つ沼カール	1959 (昭和 34)	水彩・紙	27.0×35.5	北大山岳館
48	坂本 直行	ヘルベチアヒュッテ		水彩・紙	17.5×21.4	北大山岳館
49	坂本 直行	デザイン画 伊藤秀五郎『北の山』表紙、挿画	『北の山』出版: 1935 (昭和 10)			北大山岳館
50	坂本 直行	絵葉書「坂本直行画大雪山」(北大山岳部出版冬山資金募集)、絵葉書「坂本直行画日高の山々」(北大山岳部出版日高山脈全山縦走資金募集)	1954 (昭和 29)、1956 (昭和 31)			北大山岳館
51	坂本 直行	ガネッシュヒマールの夕やけ	1968 (昭和 43)	油彩・キャンバス	31.8×40.9	帯広百年記念館
52	坂本 直行	アマダブラム (タンポチエ附近より)	1968 (昭和 43)	油彩・キャンバス	50.0×65.2	杉山徳治氏
53	坂本 直行	ダウラギリ (バグルンより)	1968 (昭和 43)	油彩・キャンバス	44.0×32.0	八雲総合病院
54	坂本 直行	チューレンヒマールとダウラギリIV ジャルジャラバスより (1967 年の旅より)	1979 (昭和 54)	油彩・キャンバス	60.6×80.3	広尾町海洋博物館
55	坂本 直行	ドルヂェラクパとプルビチャチュウの遠望 (ウレリより)		油彩・キャンバス	45.5×65.2	杉山徳治氏
56	坂本 直行	カンテガ	1968 (昭和 43)	水彩・紙	31.0×41.0	広尾町海洋博物館
57	坂本 直行	(秀峰カンテガ)	1968 (昭和 43)	水彩・紙	41.0×31.0	広尾町海洋博物館
58	坂本 直行	アマダブラム (デンポチエ附近より)	1968 (昭和 43)	水彩・紙	35.2×44.2	山田忠一郎氏
59	坂本 直行	ツオロッセ (チヨラコーラより)	1968 (昭和 43)	水彩・紙	21.0×25.5	八雲総合病院
60	坂本 直行	プモリ	1968 (昭和 43)	水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
61	坂本 直行	ポカラ附近よりマチャブチャリ	1968 (昭和 43)	水彩・紙	30.0×39.0	八雲総合病院
62	坂本 直行	ヒマラヤ	1969 (昭和 44)	水彩・紙	22.0×15.5	八雲総合病院
63	坂本 直行	タポチエ	1969 (昭和 44)	水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
64	坂本 直行	カンテガ		水彩・紙	31.0×41.0	広尾町海洋博物館
65	坂本 直行	チャングマのチョルテン	1968 (昭和 43)	油彩・キャンバス	31.8×40.9	坂本直行記念館
66	坂本 直行	バドガオンの寺	1969 (昭和 44)	油彩・キャンバス	45.5×27.3	坂本直行記念館
67	坂本 直行	カンテガ (タンポチエより)	1978 (昭和 53)	油彩・キャンバス	60.6×80.3	坂本直行記念館
68	坂本 直行	日高連峰	1958 (昭和 33)	油彩・キャンバス	65.2×90.9	坂本直行記念館
69	坂本 直行	五月の十勝岳とハツ手岩	1967 (昭和 42)	油彩・キャンバス	22号P	坂本直行記念館
70	坂本 直行	残雪の硫黄岳 (知床五湖より)	1976 (昭和 51)	油彩・キャンバス	65.2×90.9	坂本直行記念館
71	坂本 直行	おおばなのえんれいそう	1961 (昭和 36)	油彩・キャンバス	22.0×27.3	坂本直行記念館
72	坂本 直行	みずばしょう	1965 (昭和 40)	油彩・キャンバス	24.3×33.4	坂本直行記念館
73	坂本 直行	冬の樹	1970 (昭和 45)	油彩・キャンバス	27.3×22.0	坂本直行記念館
74	坂本 直行	晩秋の柏林	1980 (昭和 55)	油彩・キャンバス	27.3×40.9	坂本直行記念館
75	坂本 直行	ふきのとう	1951 (昭和 26)	油彩・色紙	24.0×27.0	広尾町海洋博物館
76	坂本 直行	いもの花	1961 (昭和 36)	水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院

77	坂本 直行	ざぜん草	1962 (昭和 37)	水彩・紙	16.0×22.0	八雲総合病院
78	坂本 直行	さんかよう	1962 (昭和 37)	水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
79	坂本 直行	栓の木の若葉	1962 (昭和 37)	水彩・紙	16.0×23.0	八雲総合病院
80	坂本 直行	カトレア	1964 (昭和 39)	水彩・紙	41.0×31.5	広尾町海洋博物館
81	坂本 直行	しらねあおい A	1964 (昭和 39)	水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
82	坂本 直行	山あじさい	1964 (昭和 39)	水彩・紙	22.0×16.0	八雲総合病院
83	坂本 直行	(福寿草)	1965 (昭和 40)	水彩・紙	22.7×16.1	山田忠一郎氏
84	坂本 直行	おおばみぞそば	1967 (昭和 42)	水彩・紙	22.5×16.0	八雲総合病院
85	坂本 直行	かたくり 1 輪	1967 (昭和 42)	水彩・紙	22.5×16.0	八雲総合病院
86	坂本 直行	くずの花	1967 (昭和 42)	水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
87	坂本 直行	さびた B	1967 (昭和 42)	水彩・紙	22.0×15.5	八雲総合病院
88	坂本 直行	しゃくなげ	1970 (昭和 45)	水彩・紙	22.0×15.0	八雲総合病院
89	坂本 直行	はまなし		水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
90	坂本 直行	やちぜんまい		水彩・紙	22.5×16.0	八雲総合病院
91	坂本 直行	えぞえんごさく		水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
92	坂本 直行	またたびの図		水彩・紙	29.5×25.0	広尾町海洋博物館
93	坂本 直行	りんどう		水彩・紙	35.5×25.0	広尾町海洋博物館
94	坂本 直行	恵庭岳		水彩・色紙	24.0×27.0	広尾町海洋博物館
95	坂本 直行	五月の天狗岳	1958 (昭和 33)	水彩・紙	31.5×40.5	杉山徳治氏
96	坂本 直行	五月の暑寒別山山上にて	1961 (昭和 36)	水彩・紙	23.0×33.0	八雲総合病院
97	坂本 直行	定山溪天狗	1963 (昭和 38)	水彩・紙	26.5×20.0	八雲総合病院
98	坂本 直行	五月の芦別岳	1965 (昭和 40)	水彩・紙	30.0×39.0	八雲総合病院
99	坂本 直行	春の夫婦岩	1966 (昭和 41)	水彩・紙	23.0×32.0	八雲総合病院
100	坂本 直行	(晩秋の樽前山)	1968 (昭和 43)	水彩・紙	31.0×41.0	広尾町海洋博物館
101	坂本 直行	春の暑寒別岳と滝川	1969 (昭和 44)	油彩・キャンバス	45.5×60.6	杉山徳治氏
102	坂本 直行	五月のニトヌブリ	1970 (昭和 45)	水彩・紙	16.0×22.5	八雲総合病院
103	坂本 直行	春の羊蹄山	1972 (昭和 47)	水彩・紙	24.0×32.0	八雲総合病院
104	坂本 直行	迷沢山付近から見た手稲山		水彩・紙	32.5×41.0	杉山徳治氏
105	坂本 直行	南暑寒より郡別岳		水彩・紙	26.5×20.0	八雲総合病院
106	坂本 直行	五月のニセコアヌブリ		水彩・紙	23.5×32.0	八雲総合病院
107	坂本 直行	氷原に働らく人達 (野付湾にて)	1961 (昭和 36)	油彩・キャンバス	33.3×45.5	橘伸氏
108	坂本 直行	はまなし咲く野付半島	1963 (昭和 38)	水彩・紙	31.0×41.0	広尾町海洋博物館
109	坂本 直行	(オホーツクと流水)	1964 (昭和 39)	水彩・紙	31.0×41.0	広尾町海洋博物館
110	坂本 直行	風蓮湖のコマイ漁	1964 (昭和 39)	水彩・紙	31.0×39.5	八雲総合病院
111	坂本 直行	峰浜より海別岳	1964 (昭和 39)	水彩・紙	22.0×32.0	八雲総合病院
112	坂本 直行	初冬の知床連峰	1965 (昭和 40)	油彩・キャンバス	39.5×52.0	池田町郷土資料館
113	坂本 直行	晩秋のトウロ湖よりめあかん	1966 (昭和 41)	水彩・紙	22.0×32.0	八雲総合病院
114	坂本 直行	冬の摩周湖	1970 (昭和 45)	水彩・紙	37.0×44.0	八雲総合病院
115	坂本 直行	残雪の硫黄山 (知床五湖より)	1970 (昭和 45)	水彩・紙	29.5×39.5	八雲総合病院
116	坂本 直行	五月の硫黄山	1971 (昭和 46)	水彩・紙	31.0×40.0	八雲総合病院
117	坂本 直行	初冬の釧路湿原	1973 (昭和 48)	油彩・キャンバス	45.3×64.5	杉山徳治氏
118	坂本 直行	初冬の別当賀川 (根室原野)	1975 (昭和 50)	水彩・紙	37.5×45.0	八雲総合病院
119	坂本 直行	流氷と国後		油彩・キャンバス	31.8×40.9	広尾町海洋博物館
120	坂本 直行	斜里岳頂上より知床半島の連山を望む		油彩・キャンバス	37.9×45.5	稲上明美氏
121	坂本 直行	ラウス連峰		水彩・紙	37.0×43.0	八雲総合病院
122	坂本 直行	雌阿寒遠望		水彩・紙	22.0×32.0	八雲総合病院
資料						
資料 1		ピッケル門田 1932 年製	1932 (昭和 7) 頃	1 本	32.0×6.0×87.0	北大山岳館
資料 2		お宿帳 4 冊 (1936~1960 年)	1936-1960 (昭和 11-35) 年	4 冊		北大山岳館
資料 3		詩誌「さとぼろ」創刊号~6 号	1925-1929 (大正 14-昭和 4)	6 冊		北大山岳館
資料 4	坂本 直行	机上静物木版画			180.0×220.0	北大山岳館
資料 5	坂本 直行	風景	1925 (大正 14) 頃	木版画	165.0×215.0	北大山岳館
資料 6	坂本 直行	植物	1930 (昭和 5) 頃	木版画	160.0×210.0	北大山岳館

資料 7	坂本 直行	静物	1925 (大正 14) 頃	木版画	155.0×220.0	北大山岳館
資料 8	坂本 直行	風景	1930 (昭和 5) 頃	木版画	80.0×120.0	北大山岳館
資料 9	坂本 直行	風景	1930 (昭和 5) 頃	木版画	11.0.0×16.0	北大山岳館
資料 10	坂本 直行	花	1928 (昭和 3) 頃	木版画	150.0×100.0	北大山岳館
資料 11	坂本 直行	植物	1930 (昭和 5) 頃	木版画	240.0×160.0	北大山岳館
資料 12	坂本 直行	風景	1933 (昭和 8) 頃	木版画	50.0×80.0	北大山岳館
資料 13	坂本 直行	風景	1930 (昭和 5) 頃	木版画	105.0×140.0	北大山岳館
資料 14	坂本 直行	静物	1933 (昭和 8) 頃	木版画	120.0×90.0	北大山岳館
資料 15	坂本 直行	風景		木版画	130.0×220.0	北大山岳館
資料 16	坂本 直行	牧場風景、農耕馬		木版画	85.0×170.0	北大山岳館
資料 17	坂本 直行	スケッチブック		スケッチブック 78 冊		北大山岳館
資料 18	坂本 直行	写真		写真		北大山岳館
資料 19		画材、絵葉書				北大山岳館
資料 20		携帯用折りたたみ三脚椅子				北大山岳館
資料 21	坂本 直行	「北の山」表紙原板、「続編」原板				北大山岳館
資料 22	坂本 直行	「初冬の日高連峰」	1969 (昭和 44)	油彩・キャンパス	23.5×32.5	井上知隆氏
資料 23	柴崎 重行	這い熊正面向き	1968 (昭和 43)	木彫熊 (イチイ (オンコ))	24.0 × 17.0 × 28.0	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
資料 24	柴崎 重行	座熊上向き	1985 (昭和 60)	木彫熊 (エンジュ)	14.0 × 16.5 × 18.0	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
資料 25	峯 孝	坂本直行肖像彫刻	1958 (昭和 33)	ブロンズ	幅 11.5×奥行 12.5×高さ 15.0	八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館
資料 26		スキー、ぼうし				広尾町海洋博物館
資料 27		絵具セット (絵筆、筆洗、絵の具)				広尾町海洋博物館
資料 28		イーゼル				広尾町海洋博物館
資料 29		門田製アイゼン、秀岳荘のアイゼンケース、スキー用シール				広尾町海洋博物館
資料 30		書籍 (「日本の山岳名著」「酪農の話」「山の木と草」「私の草木漫筆」「わたしの草と木の絵本」)				広尾町海洋博物館
資料 31		雑誌 (サイロ、豆本 (六花亭))				広尾町海洋博物館
資料 32		日高連峰の写真パネル			230.0×40.0 (3 枚)	広尾町海洋博物館
資料 33	佐々保雄宛	坂本直行書簡	1928 (昭和 3) 5 月 12 日	封書	1 通 3 枚、封筒	北海道立文学館
資料 34	藤澤健夫宛	坂本直行		書簡	書簡 1 通 1 枚封筒なし	北海道立文学館
資料 35		「いも談義」『北方風物』1 巻 1 号	1946 (昭和 21) 1 月 1 日発行	原稿	B5 200 字 10 枚	北海道立文学館
資料 36		「南日高と楽古岳」『北方風物』1 巻 7 号	1946 (昭和 21) 7 月 10 日発行	原稿	B5 400 字 6 枚	北海道立文学館
資料 37		「寺田屋、お登勢の写真」『北方文芸』4 巻 3 号	1971 (昭和 46) 3 月 1 日発行	原稿	A4 5 枚	北海道立文学館
資料 38		『北方風物』1 巻 1 号				北海道立文学館
資料 39		『北方風物』1 巻 7 号				北海道立文学館
資料 40		『北方文芸』4 巻 3 号				北海道立文学館
資料 41		秀岳荘カタログ	1958-1975 (昭和 33-50)	冊子	16 冊	(株) 秀岳荘
資料 42		「幌尻の歌声」	1959 (昭和 34) 7 月 15 日-22 日撮影	動画データ	30 分	(株) 秀岳荘
資料 43		手斧、叩きノミ、彫刻刀 (柴崎重行旧蔵)				井上知隆氏

※寸法は平面作品が縦×横、立体作品が高さ×幅×奥行。

写真展 星野道夫 悠久の時を旅する

会期=2024(令和6)年4月20日(土)―6月30日(日) 62日間

主催=北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会、帯広市、帯広市教育委員会、帯広商工会議所、星野道夫展実行委員会

共催=北海道新聞帯広支社、十勝毎日新聞社

後援=北海道教育庁十勝教育局、十勝町村会、NHK帯広放送局、NHKエンタープライズ北海道支社

協力=星野道夫事務所

企画協力=クレヴィス

観覧料=一般、大学生1,200(1,000)円、中高生600(500)円、小学生100(80)円

未就学児無料

()内は10名以上の団体、前売り、リピーター、相互、ファミリー割引料金。学校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料



ポスター

極北の地アラスカに暮らしながら、厳しくも美しい自然やそこに生きる人々を撮影し、目の前に現れ消えゆく物語を誠実な文章とともに残した写真家・星野道夫。早くから北の自然に興味を抱き、20歳の時初めてアラスカを訪問。その後、写真家としての道を歩み始めた。

本展では、「出会い」をテーマに、若き日に訪れたアラスカの村の記録から亡くなる直前まで撮影していたカムチャツカ半島での写真を、星野氏の文章や貴重な資料も交えて紹介。展覧会開幕前を含め、星野直子氏等が講演・出演した関連事業を4回開催した。展覧会会期中には、NHK帯広放送局の協力により、星野道夫氏に関連した内容の8K映像を当館ロビーで上映。十勝管内の全小学生に本展の子供向けチラシを配付し、このチラシを当館に持参した小学生は入場料免除とした。小さな子どもを含む家族から大人まで、幅広い年齢層が鑑賞した。来場者数は20,226人。

○ 関連事業

講演会「星野道夫、北海道への思い」

講師=星野直子氏(星野道夫事務所代表)

日時=3月9日(土) 午後2時―(約60分)

会場=当館講堂(聴講無料、事前申込制) 定員=60名

対談「アラスカとの出会いを通して」

出演=星野直子氏(星野道夫事務所代表)、大竹英洋氏(写真家)

日時=3月19日(火) 午後6時―(約120分)

会場=とちプラザ レインボーホール(聴講無料、事前申込制) 定員=330名

講演会+サイン会「悠久の時を旅する 星野道夫が見続けた風景をたどって」

講師=星野直子氏(星野道夫事務所代表)

日時=4月20日(土) 午後2時―(約90分)

会場=当館講堂(聴講無料、事前申込制) 定員=60名

音楽+写真+朗読「旅をする音楽―星野道夫×haruka nakamura」

ピアノ=haruka nakamura氏(音楽家) 朗読=星野直子氏(星野道夫事務所代表)

日時=4月21日(日) 午後5時30分―6時30分頃

会場=とちプラザ レインボーホール(チケット制1,000円) 定員=330名

ギャラリー・ツアー

案内=耳塚里沙(当館学芸員)

日時=5月18日(土)、6月1日(土) 午後2時―(約40分)

会場=当館主展示室(要観覧券)

キッズ・ミュージアム「絵あわせパズル」

日時=5月25日(土) 午後1時30分―午後3時30分(受付は午後3時まで)

会場=当館講堂(託児無料)

主催=北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

オビビ・キッズ・アートフェスタ

日時=6月15日(土) 午後1時―2時30分

会場=当館講堂、主展示室(小学生参加無料、応募制)

主催=北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

定員=15名(対象年齢:5-10歳程度)

キッズ・ツアー

案内=耳塚里沙(当館学芸員)

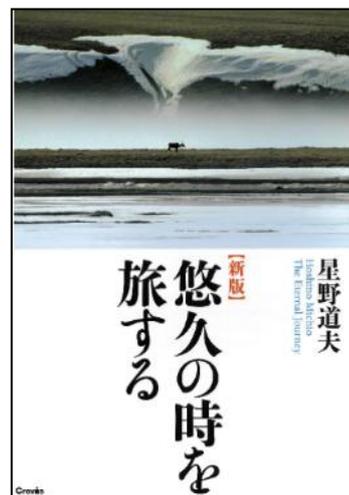
日時=6月16日(土) 午後2時―(約30分)

会場=当館主展示室(要観覧券)

○ 写真集『新版 悠久の時を旅する』

規格＝縦 26.3×横 18.6cm (B5 判) / 総頁数 248 ページ

構成＝プロローグ：1973 年、シシュマレフヘーアラスカとの出会い／第 1 章：生命の不思議－極北の動物たちとの出会い／第 2 章：アラスカに生きる一人々との出会い／第 3 章：季節の色－自然との出会い／第 4 章：森の声を聴く－神話との出会い／第 5 章：新しい旅－自然と人との関わりを求めて／今森光彦「生命を撮るといふこと」／村田真一「五感の記憶に留めよ」／松家仁之「低い空」／星野八千代「夢を応援して」／星野直子「新たなる旅」／星野翔馬「流れゆく時の中で」／星野道夫年譜



写真集

○ 主要関連記事

日浦統「悠久の時をめぐる写真の旅 故星野道夫さん 道内 11 年ぶり展覧会」朝日新聞／3 月 8 日 (金)

「星野道夫さんの思い語る 道立帯広美術館 妻・直子さんが講演」読売新聞／3 月 10 日 (日)

安達杏奈「北の自然に憧れ 星野道夫さんの思い 妻・直子さん 人生振り返る」北海道新聞／3 月 11 日 (月)

高井翔太「星野さんとアラスカ 語る 帯広美術館 来月写真展へ妻ら」十勝毎日新聞／3 月 25 日 (月)

高井翔太「アラスカ 生命の記録 写真家星野道夫展、20 日開幕 帯広美術館」十勝毎日新聞／4 月 11 日 (木)

北村里沙「アラスカの自然と人 147 点 星野道夫写真展が開幕 帯広美術館」十勝毎日新聞／4 月 20 日 (土)

伊藤駿「動物や自然 温かいまなざし 帯広で故星野さん写真展」北海道新聞／4 月 21 日 (日)

津田恭平「『悠久の時を感じて』星野道夫写真展 妻直子さん講演」十勝毎日新聞／4 月 21 日 (日)

耳塚里沙「おびひろミュージアム通信 108 道立帯広美術館 アラスカの自然や生き物紹介」釧路新聞／4 月 22 日 (月)

菊地青葉「極北の魅力 朗読と演奏で 星野道夫写真展 関連イベント 妻直子さん haruka さんコラボ」十勝毎日新聞／4 月 23 日 (火)

高井翔太「星野道夫展 アラスカ的美 厳しさと共存」十勝毎日新聞／4 月 23 日 (火)

耳塚里沙「丘の上のミュージアム 展覧会の関連イベントのつくりかた～おびひろ動物園×帯広美術館スタンプラリーの場合～」十勝毎日新聞電子版ジャーナル／4 月 28 日 (日)

菊地青葉「星野道夫展 1 万人突破 帯広美術館 古河さん家族に記念品」十勝毎日新聞／5 月 31 日 (金)

杉崎萌「故星野さん写真展 来場者 1 万人達成 帯広美術館」北海道新聞／6 月 1 日 (土)

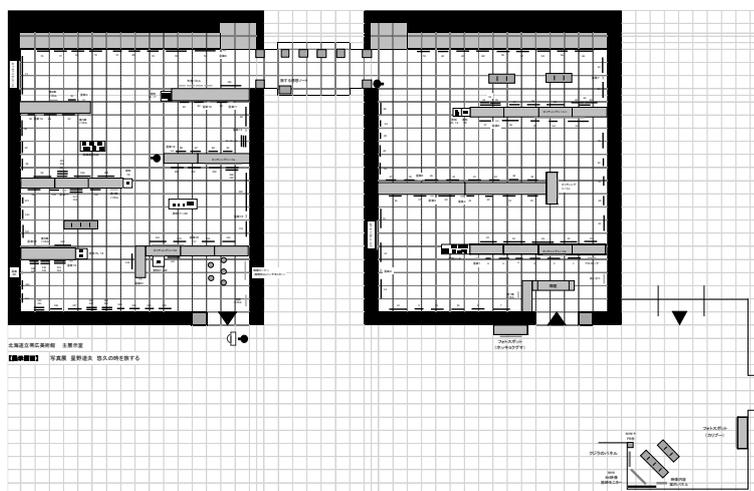
菊地青葉「星野道夫展 来場者 1 万 5000 人 芽室の吉崎さんに記念品」十勝毎日新聞／6 月 20 日 (木)

杉崎萌「星野さん写真展 1 万 5 千人突破 帯広美術館 芽室の吉崎さん夫妻に記念品」北海道新聞／6 月 21 日 (金)

菊地青葉「星野道夫展 あす閉幕 帯広美術館 ファンら詰め掛ける」十勝毎日新聞／6 月 29 日 (土)



会場風景



展示図面

○ 出品目録

No.	作品名	寸法 (cm)
プロローグ 1973年、シシュマレフヘーアラスカとの出会い		
1	空から見たシシュマレフ村。ベーリング海と北極海がぶつかる海域に浮かぶ小さな島。	60.0×90.0
2	シシュマレフ村の子どもたちとともに。夕方の浜辺を歩いていると、子どもたちがみんな集まってきた。	60.0×90.0
3	干されたアザラシの肉。アザラシは食料としてだけでなく、皮も衣類のほか多様な用途で使われる。	48.0×72.0
4	アザラシの脂肪を切り取り、エスキモーの生活に欠かせない「シールオイル」をつくる。	72.0×48.0
5	浜辺で女たちがアザラシの解体作業をし、肉を干してドライシールにする。	48.0×72.0
6	シシュマレフ村で滞在したウェイオワナ家の娘ティナ、3歳。	60.0×40.0
第1章 生命の不思議—極北の動物たちとの出会い		
7	4月、次々に移動を始めたカリブーの群れが、凍結した雪土を進む。軽快な足音が、遅い春の訪れを告げる。	100.0×120.0
8	雪解け水の濁流を渡る。群れ全体がおぼれ死ぬこともある。10.00キロ近くも北へ移動しながら北極圏の出産地へ向かう。	60.0×90.0
9	りっぱな角をもつ雄のカリブー。	90.0×60.0
10	カリブーの出産は6月初旬。母親が胎盤を食べる。生まれたばかりの子どもを、オオカミやグリズリーが狙っている。コンガクツ川流域。	60.0×90.0
11	一刻も早く走れるようになることが生存のカギだ。親にはぐれた子どもは餌食になるなどして、成長することがない。コンガクツ川流域。	60.0×90.0
12	夏は大切な採食の季節だ。デナリ国立公園	100.0×120.0
13	春のアラスカ北極圏、群れにはぐれてさまようカリブー。	80.0×120.0
14	何万頭というカリブーの大群をセスナから空撮する。この土地が内包する生命という潮の流れを感じた。	100.0×150.0
15	見わたす限りのカリブーの海。それはアラスカの夏の自然が内包する生の営みの爆発だった。遠景に見えるのはブルックス山脈。	100.0×150.0
16	秋の夕暮れ、カリブーが極北の河を何かに急がされているように渡っていった。	100.0×150.0
17	カリブーの角の大きさが雄たちの順位を決める。デナリ国立公園。	60.0×90.0
18	白夜のツンドラはワタスゲの海だった。カリブーの群れが次々に現れる。	60.0×90.0
19	真冬に穴の中で生まれた子グマが、初めて地上の光を受ける。暖かい春の光を浴びながら歩くグリズリーの親子をアラスカ山脈に見た。	90.0×60.0
20	生きものたちは、どんな思いで初雪を迎えるのだろうか。	72.0×48.0
21	グリズリーの親子。冬ごもりの巣穴で生まれた子グマが初めての夏を迎える。	60.0×90.0
22	グリズリーは鋭い爪のある前足と口を使い、数キログラムにも及ぶサケを巧みにつかまえる。サケの数がピークに達すると、もっとも栄養のある頭と卵しか食べない。	48.0×72.0
23	滝を越え遡上してきたサケとグリズリー。カトマイ国立公園。	80.0×120.0
24	グリズリーの食べ残しのサケを狙ってハクトウワシやカモメが飛び込んできた。	100.0×150.0
25	3年目に親離れしたグリズリーの兄弟は、その後もしばらく共に行動する場合が多い。	100.0×120.0
26	草むらに潜むグリズリーが、黄金色に輝いていた。	100.0×150.0
27	山の初雪と麓の紅葉は同時にやってくる。大気の中に冬の匂いを感じる。カトマイ国立公園。	60.0×90.0
28	秋、交尾のテリトリーをつくったムース（ヘラジカ）の雄は、侵入する雄ジカと戦う。闘争のシンボルである角が互角であるほど、戦いは長く、激しくなる。	80.0×120.0
29	ムースは普通、5月に2頭の子を出産する。この時期、餌のないグリズリーに狙われるため、雌ジカはあたりの物音に気を配りながら、森の中で子どもを育てる。	90.0×60.0
30	毎年落ちてしまう角が急速に伸びる。	48.0×72.0
31	湖を泳ぎ渡る雄ジカ。夏、水草はムースの大事な食物となる。	48.0×72.0
32	赤や黄色に色を変えた原野でムースが静かに水草を食べている。遠くにデナリにつながる山々が見える。デナリ国立公園。	100.0×150.0
33	夕暮れの湖で水草を食べるムース。デナリ（マッキンレー山）が夕陽を浴びていた。デナリ国立公園 ワンダーレイク。	80.0×120.0
34	8月の終わり、ムースはビロード状の袋角の表皮をはぎ落とし、それが幾条にもなって垂れ下がっている。	90.0×60.0
35	成熟した雄のムースの身体は8.0.0kgにも達する。	90.0×60.0
36	雪原に残されたカリブーの足跡とオオカミ。オオカミは、アラスカでもっとも見ることが困難な動物である。用心深く、人のいるところにはほとんど現れない。	80.0×120.0
37	7月、デナリで撮影した1頭のオオカミ。	60.0×90.0
38	岩場に棲むナキウサギ。鳴き声がキューンと響く。	48.0×72.0
39	ホッキョクギツネの子ども。夏の間は灰褐色の夏毛で、冬には真っ白の冬毛になる。	48.0×72.0
40	オコジョ。ホッキョクギツネと同様、冬には全身が真っ白になる。	48.0×72.0
41	ホッキョクジリスは数少ない完全な冬眠をする動物だ。体温を氷点近くまで下げ、半年の間、死んだように眠っている。	60.0×90.0
42	ホッキョクジリスは、ほとんどアラスカ全域に生息し、多くの肉食動物の獲物になっている。	60.0×90.0
43	ジャコウウシの雄同士の頭突きは繁殖期に見られる。	60.0×90.0
44	ジャコウウシは、北極圏に群れて生息している。オオカミから子どもを守るため、円陣を組んで移動する。	60.0×90.0
45	オオカミやクマを避けながら、山上で夏を過ごすドールシープの親子。	48.0×72.0

46	高山に棲むドールシープ。子どもがいたら、空からはイヌワシに狙われ、陸ではオオカミが天敵。だから、いつも親子やグループで行動する。	80.0×96.0
47	ドールシープの雄は大きくカーブした角を生やしている。	48.0×72.0
48	アメリカの国鳥ハクトウワシ。かつてアメリカ本土では激減したが、保護活動により個体数は回復している。	60.0×90.0
49	ハクトウワシは、南東インディアンにとって宗教的な意味をもった鳥。	72.0×48.0
50	初冬のチルクット川へ産卵を終えたサケを求めて集まるハクトウワシ。	72.0×48.0
51	南風に乗って、ハマシギがアラスカに渡ってきた。	60.0×90.0
52	地の果てのような北極海の崖で営巣する数百万という海鳥は、ぼくにこの海の豊かさを教えてくれた。 ケープトンブソン。	120.0×80.0
53	翼を広げると約1.5mもある巨大なシロフクロウの営巣。4つの卵がかえっていた。コルビル川流域。	100.0×150.0
54	親鳥がレミング（ネズミの仲間）をくわえて巣に戻ってくる。コルビル川流域。	48.0×72.0
55	シロフクロウのヒナ。荒涼とした世界でも、生命は確実に息づいている。コルビル川流域。	48.0×72.0
56	南アラスカの無人島、ラウンド島で昼寝をするセイウチ。セイウチはその風貌に似合わず臆病である。	90.0×72.0
57	ゼニガタアザラシ。海洋エスキモーにとってもホッキョクグマにとっても重要な食料となる。	60.0×90.0
58	象牙と同じように、その高価な牙をとるため、一時乱獲されたセイウチ。	60.0×90.0
59	豊かな南東アラスカの海に群れるトド。	60.0×90.0
60	氷河から崩れ落ちた氷塊の上で羽を休めるカモメ。	80.0×120.0
61	静まりかえった朝、霧の中からザトウクジラの呼吸音だけが聞こえていた。	100.0×120.0
62	ザトウクジラは、泡を出しながらニシンの群れを取り巻くように回り、ニシンを輪の中に閉じ込める。	60.0×90.0
63	ザトウクジラは口を開けながら一気に海中から飛び出し、ニシンを口に入れる。	60.0×90.0
64	泡の檻に閉じ込めたニシンの群れを下から口を開けたまみと呑みする。	60.0×90.0
65	ハワイで冬を過ごしたザトウクジラは、40.00 キロの旅を経てアラスカの海にやってくる。潮を吹き上げながら進む。	80.0×120.0
66	40～50 トンの巨体が宙に舞う「ブリーチング」。	80.0×120.0
67	春は生命の誕生の季節。タテゴトアザラシの親子。カナダ、セントローレンス湾。	60.0×90.0
68	カナダ南東部、セントローレンス湾の氷上で生まれたタテゴトアザラシの子ども。	60.0×90.0
69	生まれたばかりのタテゴトアザラシ。生後2週間で、毎日少しずつ毛が変わり、親離れる。その間、泳ぎや魚の獲り方を学ぶ。カナダ、セントローレンス湾。	120.0×80.0
70	ブリザードの中でたえずむホッキョクグマ。カナダ、ハドソン湾。	100.0×150.0
71	ブリザード（地吹雪）のあと。一年中アザラシを探し続けるホッキョクグマは、数キロも離れたところからも、においを嗅ぎつけられる。カナダ、ハドソン湾。	100.0×295.0
72	ホッキョクグマの親子は、ぴったりかたままって、吹雪の中で眠る。カナダ、ハドソン湾。	90.0×60.0
73	母子と一緒に暮らすのはわずか2、3年である。授乳の風景は、厳しい北極の自然を一瞬なごませた。カナダ、ハドソン湾。	60.0×90.0
74	エスキモーの伝説には、多くの人格化されたホッキョクグマの話が出てくる。カナダ、ハドソン湾。	120.0×80.0
75	ブリザードの氷原をゆくホッキョクグマ（ナヌーク）の親子。子育ては雌だけがする。カナダ、ハドソン湾。	100.0×150.0
76	若いホッキョクグマがじゃれ合っている。寒い日によく見られるのは、身体を温める目的もあるのだろうか。カナダ、ハドソン湾。	60.0×90.0
77	じゃれ合う若いホッキョクグマ。カナダ、ハドソン湾。	60.0×90.0
78	真っ白な毛で、雪や氷に溶け込むホッキョクギツネ。夏にはツンドラの岩場で目立たないグレーや褐色に変わる。	60.0×90.0
79	ホッキョクグマは、アザラシの脂肪だけを食べて、肉は残す。余り物を狙ってホッキョクギツネがあとをつける。カナダ、ハドソン湾。	60.0×90.0
80	氷の世界に生きるクマがいる…それはどう考えても、非現実的な、物語の世界だった。カナダ、ハドソン湾。	120.0×80.0
第2章 アラスカに生きる一人々との出会い		
81	生涯を森の狩猟生活に生きてきたウォルター・ノースウェイ。	90.0×60.0
82	米空軍のパイロットだったシリア・ハンター。1947年の元旦、ジニーとともに小型飛行機を操縦し、アメリカからアラスカへ27日間かけて飛んできた。	48.0×72.0
83	シリアの親友ジニー・ウッド。ともに空軍パイロットからブッシュパイロットの道をたどり、アラスカのパイオニア時代を生き抜いた。	48.0×72.0
84	ブッシュパイロットのドン・ロス。アラスカ北極圏を飛び続けるドンは、この土地の自然をもっとも知るパイロットの一人。	48.0×72.0
85	北極圏でカリブーを狙う。	48.0×72.0
86	カリブーの狩猟を終え、ポーキュバイン川を舟で村へ帰るアサバスカンインディアン。	48.0×72.0
87	エスキモーの猟師、クリアランス・ウッド。カリブーを解体するこの男の技は素晴らしかった。ハントリバー流域。	48.0×72.0
88	残されたわずかな肉のおこぼれにあずかるカケス。ハントリバー流域。	48.0×72.0
89	満月の夜、伝統的なクジラ漁のボート、ウミアックに乗り、氷海にクジラを追う。ボートはアゴヒゲアザラシの皮でつくられる。ポイントホープ村。	100.0×150.0
90	掛け声とともに氷の上に曳き上げられたクジラ。ポイントホープ村。	60.0×90.0
91	クジラの解体は、クジラを仕留めたクルーによって行われる。ポイントホープ村。	60.0×90.0
92	解体の最後にクジラのおごの骨を「来年もまた戻ってこいよ」と海に還す。エスキモーはおご骨にクジラの霊魂を託している。ポイントホープ村。	60.0×90.0
第3章 季節の色—自然との出会い		
93	ワイルドストロベリーの葉に初霜がおりる。	60.0×90.0

94	わが家の森に住むアカリス。アカリスはトウヒの森の番人だ。森を歩けば、あちこちから警戒音が聞こえてくる。	80.0×120.0
95	冬至を境に日照時間が延びはじめる。北極圏の大地に生きるすべての生きものは、一日一日春をたぐり寄せる実感をもつ。春一番の花、ワイルドクロッカス。	72.0×48.0
96	ある日、半年の間凍結していたユーコン川が大音響とともに割れ、一気に氷が流れ出してゆく。その日がアラスカの春の始まりだ。	72.0×90.0
97	北極圏のツンドラの夏。今はもう白夜の季節。太陽が一日中頭の上をぐるぐる回る不思議な季節だ。	72.0×90.0
98	風に揺れるワタスゲ。ついこの前、雪に埋まっていた谷はもう花が咲き乱れ、夏草の匂いがいっぱいだ。	72.0×90.0
99	森の中に咲くスカンクキャベッジ（ミズバショウ）と、苔むしたムースの角。角は厳しい極北の冬に菌類（げっしるい）の貴重なカルシウム源となる。	100.0×120.0
100	岩陰にはいつくばるように咲くワスレナグサをなかなか見つけられなかった。セントポール島（プリピロフ諸島）。	48.0×72.0
101	見過ごしてしまうほど、小さな可愛い花をつけるブルーベリー。	48.0×72.0
102	可憐なチョウノスケソウの花に舞うアサヒヒョウモン的一种。	48.0×72.0
103	フェアウェザー山脈から太平洋へと流れ込む氷河。アラスカの本当の大きさは、鳥の目になってみて、空から見ないとわからない。	100.0×120.0
104	南東アラスカのハーバード氷河。引き潮とともに、たくさんの氷塊が打ち上げられる。	72.0×90.0
105	その昔、山に降り積もった雪が、長い時間をかけて氷河となり、流れ出し、やがて海に還ってゆく。気の遠くなるような水の輪廻。南東アラスカ、グレイシャーベイのアイスケープ。	72.0×90.0
106	藓類（せんるい）に覆われたレインフォレスト。オリンピック国立公園。	100.0×120.0
107	秋のツンドラ。カリブーは、ゆっくりとアラスカの大地に還っていく。ハントリバー流域。	100.0×295.0
108	ブルーベリーの実寒さとともに甘くなる。	60.0×90.0
109	8月も終わりにになると、アラスカの原野はゆっくりとツンドラの赤い絨毯に敷き詰められてゆく。デナリに近いポリクローム峠。デナリ国立公園。	72.0×90.0
110	紅葉のころ、地衣類のモザイクは、えも言われぬ美しさだ。	60.0×90.0
111	アルベングロウ（山頂光）に染まる夕暮れのデナリ（マッキンレー山）。北米の最高峰で、標高 6190m。手前はワンダーレイク。デナリ国立公園。	100.0×120.0
112	新雪に覆われた、ブルックス山脈のアリゲッチ針峰群。ヨーロッパアルプスをアラスカ北極圏に見つけたような気がした。	72.0×90.0
113	1年の半分を占めるアラスカの冬。それは雪の世界である。	72.0×90.0
114	アラスカの冬は長く、生きもののように揺れ動くオーロラのカーテンが、極地に生きる人々の心をなぐさめる。	80.0×120.0
115	マイナス 50 度の世界に冷たい炎が舞い上がる厳冬のキャンプ。	60.0×90.0
第 4 章 森の声を聴く—神話との出会い		
116	無数の鳥々を抱き込む無数の入り江。南東アラスカは、地球に残された最後のスピリチュアルな自然である。	48.0×72.0
117	かつて人々が神話の時代に生きてきた場所を、今は森の中から現れた鹿がさまよっている。カナダ、ハイダ・グワイ（クイーン シャーロット諸島）。	72.0×90.0
118	人々の日々の営みの気配が静かに伝わってくる住居跡。カナダ、ハイダ・グワイ。	72.0×90.0
119	南東アラスカ、サクスマン村のトーテムポール。朽ち果てたワタリガラスが印象的だった。	60.0×72.0
120	3つの箱を解き放ち、太陽、月、星を空にちりばめたと伝えるワタリガラスのトーテムポール。	60.0×90.0
121	南東アラスカ、サクスマン村に住むクリンギットインディアンの古老、エスター・シェイ（左から 2 番目、8.0 歳）と子どもたち。古い伝統を体の中に受け継いできた。	72.0×48.0
122	北極海に臨むポイントホープ村の南からベーリング海に延びる半島、ケープクルセンスターン。	80.0×100.0
123	クジラの骨が立ち並ぶポイントホープ村の墓。	48.0×72.0
第 5 章 新しい旅—自然と人との関わりを求めて		
124	クジラの肋骨が立つ浜。ロシア、チュコト半島に近いイティグラン島。人がかつてここに暮らしていたことが手にとるように想像できる。	80.0×120.0
125	アラスカとカナダの国境沿いの原野に生きるグッチンインディアンの古老ハメル・フランクにカリブー猟について尋ねる。彼らほど、カリブーと深い結びつきを持った人々はいない。	64.0×80.0
126	アラスカの原野に生きる狩猟民族、タナナ族。96 歳になった古老ピーター・ジョンに、ワタリガラスの神話について聞く。	64.0×80.0
127	グッチンインディアンの教会の牧師。	52.8×63.0
128	アラスカ北極圏とカナダの北極圏の国境沿いの村に生きるグッチンインディアンの数は 50.00 人にも満たない。	52.8×63.0
129	グッチンインディアンのこの 3 人は幼いころからの友達だという。	52.8×63.0
130	グッチンインディアンの老婆。	52.8×63.0
131	隠れる場所がなく、撮影が難しかったマジック島のツノメドリ。ロシア、チュコト半島。	48.0×72.0
132	マジック島で見つけた鳥の巣。ロシア、チュコト半島。	48.0×72.0
133	等間隔に置かれたクジラの頭蓋骨。ベーリング海を望むロシア、イティグラン島の北岸。先住民族、ユピックの古代遺跡。	60.0×72.0
134	半月とクジラの骨が不思議な雰囲気。これでもかこれでもかというくらいフィルムを費やしてしまった。ロシア、チュコト半島。	100.0×120.0
135	チュクチ（チュコト地方の民族名）のハンターが浜辺でセイウチを解体していた。	48.0×72.0
136	ロシア、チュコト半島のワタリガラスの話をしてくれたテルピーナ。1915 年生まれ。たたずまいや顔が 1 世紀も前のようで、入れ墨をしている。ロシア、チュコト半島。	60.0×90.0
137	日没直前にドレスアップして来てくれたミシャの一家。すばらしい家族の写真が撮れた。ロシア、チュコト半島。	80.0×96.0
138	ピーター夫妻。時代が逆行して、少なくとも 50 年前のアラスカのエスキモーの村にいる錯覚におそわれる。ロシア、チュコト半島。	48.0×72.0
139	野の花に埋もれるレインディア（トナカイ）の角。ロシア、チュコト半島。	48.0×72.0
140	山を越え、谷を越え、15 時間もかかって、レインディア（トナカイ）のキャンプにたどりついた。ロシア、チュコト半島。	48.0×72.0

141	レインディアの遊牧民の少年。ロシア、チュコト半島。	72.0×48.0
142	トーリヤが私たちのために1頭のレインディアを殺してくれた。皆で解体したばかりのレインディアで食事をした。ロシア、チュコト半島。	48.0×72.0
143	カムチャツカ半島のクリル湖。この時期サケが遡上してくる。	48.0×72.0
144	夕陽に照らされたグリズリー。カムチャツカ半島、クリル湖畔。	90.0×60.0
145	夢のような時間。チュコト半島。	60.0×90.0
146	ロシア、チュコト半島にて。1996年。	100.0×150.0
147	2022年5月に発見されたパノラマカメラに残されていたフィルム。 経年劣化のため変色している。1995年11月にカナダのハドソン湾で撮影されたホッキョクグマの親子。	60.0×90.0

資料

1	写真集『ALASKA』 ナショナルジオグラフィック・ソサエティ 1969年刊
2	シシュマレフ村長へ宛てた手紙
3	シシュマレフ村長へ宛てた手紙（中面）
4	シシュマレフ村長へ宛てた手紙（中面・日本語訳）
5	シシュマレフ村長からの返事の手紙
6	シシュマレフ村長からの返事の手紙（日本語訳）
7	シシュマレフ村滞在時のアルバム
8	カリブー調査報告書 1987年
9	直筆原稿①「シーンジェック」
10	直筆原稿②「カメラを盗んだオオカミ」
11	愛用の万年筆（CROSS）
12	愛用のカメラ① ニコン F3（「カメラを盗んだオオカミ」のカメラ） レンズ：NIKKOR105mm F1.8
13	愛用のカメラ② ペンタックス 6×7 レンズ：タクマー105mm F2.4
14	「カメラを盗んだオオカミ」の時に撮影した写真
15	取材ノート① 表紙（1978年）
16	取材ノート② 中面（1996年） カムチャツカの取材
17	星野さんの愛読書① 『デルスウ・ウザーラ』
18	星野さんの愛読書② 『すばらしいとき』
19	星野さんの愛読書③ 『Animal of the North』
20	星野さんの愛読書④ 『エンデュアランス号漂流』
21	2022年5月、25年以上の時を経てアラスカの自宅から発見されたパノラマカメラ（フジ パノラマ G617 プロフェッショナル）
22	パノラマカメラに装填されていたフィルムのスプールと遮光紙

※作者はすべて星野道夫。

※寸法は縦×横。

帯広美術館コレクション選 | ～森と林のあわいに～

会期＝2024（令和6）年11月1日（金）－12月22日（日） 45日間

主催＝北海道立帯広美術館

協賛＝平原社美術協会、帯広信用金庫

観覧料＝一般510円（410円）、大学生300円（230円）、65歳以上の方および高校生以下無料

（高校生は当館ボランティア「しらかばの会」2024年度無料招待事業）

（ ）内は10名以上の団体、前売、リピーター、相互、ファミリー割引料金

高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料

道東における道立美術館の建設に際し、帯広では1984（昭和59）年「北海道帯広美術館誘致促進期成会」が設立され経済界、婦人・青年・文化団体などの約100団体が参加、署名運動や陳情などの誘致活動を行った。

1988（昭和63）年に美術館建設が決定され、使命を終えた期成会は解散。同年、「北海道立帯広美術館建設協力会」が発足し、美術作品を寄贈するための募金活動等を始める。1991（平成3）年に美術館開館の後、解散。翌1992（平成4）年に「帯広美術館振興会」として新たなスタートを切った。「帯広美術館の充実、発展」を目的とし、美術作品の寄贈のほか、当館で行われる展覧会や教育普及事業の共催、作家研究事業への支援など、さまざまな形で美術館の活動を支えている。

本展では40年に渡り美術館支援を続けてきた会の軌跡をたどりながら、その寄贈作品を軸に、西洋の美術・バルビゾン派、道東の美術から、緑豊かな自然を舞台に描かれた作品を紹介。地域住民の熱意と願いで育まれた美術館のコレクションの成り立ちと、作品に込められた美の源泉を辿った。来場者数は2,491人。

○ 関連事業

特別展セミナー「地域が育むコレクション」

日時＝11月10日（日） 午後2時－3時

講師＝瀬戸厚志（当館学芸課長）

会場＝当館講堂（聴講無料、先着80名）

ギャラリー・ツアー

案内＝瀬戸厚志（当館学芸課長）

日時＝11月23日（土・祝）、11月24日（日） 午後2時－
（約30分）

会場＝当館主展示室（要観覧券）

キッズ・ミュージアム「カップでジャンプ！」

日時＝11月16日（土） 午後1時30分－午後3時30分（受付は午後3時まで）

会場＝当館講堂（託児無料）

主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

キッズ・ツアー

案内＝瀬戸厚志（当館学芸課長）

日時＝12月8日（日） 午後2時－（約30分）

会場＝当館主展示室（要観覧券）

○ 図録

規格＝縦25.2×横18.7cm（B5判）／総頁数64ページ

構成＝ごあいさつ／帯広美術館 誘致運動の軌跡 瀬戸厚志／Corner1 おびひろに美術館を！／Corner2-1 伝説のミレー展／Corner2-2 バルビゾンってどんどこ／Corner3 風景を写し取る／Corner4 バルビゾン派って／Corner5 十勝とバルビゾン／出品リスト

○ 関連記事

菊池青葉「森と林の特別展 再開館に合わせ」十勝毎日新聞社／11月1日（金）

内形勝也「仏バルビゾン派 道東の美術に影響」十勝毎日新聞社／11月17日（日）



ポスター



会場風景



図録

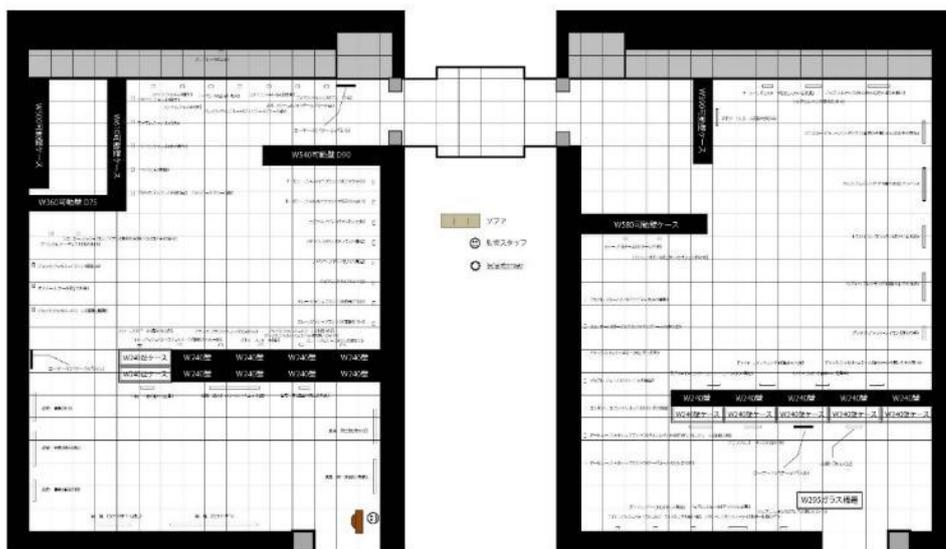
○ 出品目録

No.	作家	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
1	レオンス・シャブリ	アレスの道 (ジロンド)	1870 年代	エッチング・紙	14.3×20.8
2	ポール・ユエ	オージュ谷のノルマンディー人の家の庭	1866	エッチング・紙	9.5×14.0
3	ヨハン・バルトルト・ヨンキント	オランダの風車	1867	エッチング・紙	13.7×18.8
4	シャルル＝エミール・ジャック	オランダ牛	19 世紀後半	エッチング・紙	11.0×17.9
5	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロ	イタリアの思い出	1863	エッチング・紙	29.5×22.0
6	シャルル＝フランソワ・ドービニー	オーヴェールのりんごの木	1877	エッチング・紙	14.0×23.9
7	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ヴィレルヴィル海岸	19 世紀後半	エッチング・紙	9.2×19.8
8	ジュール・デュプレ	ソローニュの風車	1835	リトグラフ・紙	19.6×14.0
9	ジュール・デュプレ	アランソン風景	1839	リトグラフ・紙	13.3×19.0
10	ジュール・デュプレ	イギリス風景	1836	リトグラフ・紙	12.9×20.7
11	ジュール・デュプレ	ノルマンディー地方の風景	1835	リトグラフ・紙	13.7×20.7
12	テオドール・ルソー	ピオーの平原	1862	クリシェ＝ヴェール・紙	21.8×27.7
13	テオドール・ルソー	ピオーのサクランボの木	1862	クリシェ＝ヴェール・紙	22.1×27.7
14	ジュール・デュプレ	水飲み場	19 世紀後半	パステル・紙	80.0×98.8
15	オーギュスト・アロンジェ	森の中	19 世紀後半	水彩・紙	53.5×75.7
16	ウジェーヌ＝アントワーン・ラヴィエイユ	村の眺め	19 世紀後半	油彩・板	32.8×56.0
17	アレクサンドル・ドゥフォー	農家の中庭	19 世紀後半	油彩・キャンバス	40.0×68.0
18	レオン・リッシュ	農婦のいる風景	19 世紀後半	油彩・キャンバス	43.8×59.7
19	フランソワ＝ルイ・フランセ	風景－丘陵の牛	1859	パステル・紙	54.7×82.6
20	アレクサンドル・ドゥフォー	森の中の休息	1871	油彩・キャンバス	98.0×131.0
21	アルフレッド・ド・クニフ	春の水辺、ケンペン	1875 頃	油彩・キャンバス	75.0×150.4
22	ジャン＝フェルディナン・シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	油彩・キャンバス	65.4×100.4
23	コンスタン・トロワイヨン	牛のいる風景	19 世紀後半	油彩・キャンバス	80.6×99.7
24	レオンス・シャブリ	羊の群れを連れ帰る羊飼	1872	油彩・キャンバス	69.1×99.8
25	ギュスターヴ・クールベ	釣り人のいる風景	1870	油彩・キャンバス	60.0×73.0
26	シャルル＝エミール・ジャック	森の中の羊飼いと羊の群れ	1865-70 頃	油彩・キャンバス	81.2×65.0
27	カール・ボドメール	鹿の呼び声	19 世紀後半	油彩・キャンバス	101.0×81.0
28	レオンス・シャブリ	牧場と木々	1873	油彩・キャンバス	32.0×47.5
29	ジャック＝レイモン・ブラカサ	海辺の羊	19 世紀中頃	油彩・キャンバス	49.0×65.0
30	A.トーバン	岩場と樹木	19 世紀後半	鶏卵紙プリント	11.8×16.8
31	シャルル・ファマン	ダニョーの沼	1874	鶏卵紙プリント	19.3×25.0
32	ウィリアム＝H.ハリソン	フォンテヌブローの森	1870 頃	鶏卵紙プリント	17.4×19.5
33	アシーユ・キネ	フォンテヌブローの森	1868 頃	鶏卵紙プリント	24.9×19.3
34	シャルル・ファマン	荷馬車	1874 頃	鶏卵紙プリント	12.0×17.4
35	シャルル・ファマン	雌牛	1874 頃	鶏卵紙プリント	10.4×17.2
36	シャルル・ファマン	牛	1874 頃	鶏卵紙プリント	11.7×16.7
37	シャルル・ファマン	樹木	1874 頃	鶏卵紙プリント	25.9×19.5
38	シャルル・ファマン	沼地	1874 頃	鶏卵紙プリント	20.3×25.9
39	シャルル・ファマン	羊の群れ	1874 頃	鶏卵紙プリント	11.4×16.4
40	A.トーバン	廃屋	19 世紀後半	鶏卵紙プリント	18.0×23.9
41	アルフレッド・ブリッケ	狼溪谷 フォンテヌブローの森	1863/1865	鶏卵紙プリント	17.7×24.0
42	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ヒマラヤ杉	1842	エッチング・紙	17.5×11.3
43	アドルフ・アピアン	リックスの周辺	1864	エッチング・紙	7.0×15.1
44	シャルル＝フランソワ・ドービニー	羊の柵囲い	1860	エッチング・紙	18.4×34.3
45	アドルフ・アピアン	マントン近郊	1879	エッチング・紙	12.2×20.1
46	アドルフ・アピアン	リヨン周辺	1879	エッチング・紙	14.1×23.3
47	ジャン＝フランソワ・ミレー	耕す人	1855 頃	エッチング・紙	24.0×34.0
48	ジャン＝フランソワ・ミレー	落穂ひろい	1855-56	エッチング・紙	19.2×25.0
49	ジャン＝フランソワ・ミレー	裁縫する女	1855-56	エッチング・紙	10.5×7.4
50	アドルフ・アピアン	ロメ谷	1868	エッチング・紙	10.1×19.1
51	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロ	植林された平野	1866	エッチング・紙	10.0×13.0
52	カール・ボドメール	鹿	19 世紀後半	エッチング・手彩色・紙	8.7×13.5
53	シャルル＝エミール・ジャック	水飲み場	19 世紀後半	エッチング・紙	14.5×21.0
54	シャルル＝エミール・ジャック	豚飼いの少年	19 世紀後半	エッチング・紙	11.5×17.7
55	フランソワ＝ルイ・フランセ	沼辺の犬	19 世紀中頃	リトグラフ・紙	15.6×24.7
56	オーギュスト・アロンジェ	池の水門	1879	リトグラフ・木炭・紙	55.7×41.6
57	ポール・ユエ	フォンテヌブロー付近	1866	エッチング・紙	19.3×28.0
58	ジャン＝フェルディナン・シェニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ	1863	エッチング・紙	19.8×30.7
59	テオドール・ルソー	樫の木と岩	1861	エッチング・紙	12.7×17.2
60	カール・ボドメール	鳥の水場	19 世紀後半	リトグラフ・紙	48.8×34.4
61	シャルル＝エミール・ジャック	蹄鉄場	1865	エッチング・紙	12.8×19.3
62	シャルル＝エミール・ジャック	雄鶏と雌鶏	19 世紀後半	エッチング・紙	12.1×17.0
63	菅野 要	温室の見える風景	1941 (昭和 16)	油彩・キャンバス	38.2×45.6

64	八楸 一郎	糠平の風景	1956 (昭和 31)	油彩・キャンバス	50.0×60.6
65	能勢 眞美	春近き日	1960 (昭和 35)	油彩・キャンバス	65.0×100.0
66	能勢 眞美	木々	1958 (昭和 33)	油彩・キャンバス	162.1×130.3
67	能勢 眞美	疎林初秋	1967 (昭和 42)	油彩・キャンバス	97.0×162.0
68	森 健二	光年の導べ「心象」	2012 (平成 24)	油彩・キャンバス	112.0×145.6
69	森 健二	光年の導べ	2002 (平成 14)	油彩・キャンバス	194.5×391.5
70	長尾 栄三	樹苑の秋	1966 (昭和 41)	油彩・キャンバス	130.3×162.2
71	長尾 栄三	晩秋の高原	1979 (昭和 54)	油彩・キャンバス	130.3×161.8
72	松樹 路人	コタン・クル・カムイの詩	1988 (昭和 63)	油彩・キャンバス	181.8×227.3

※寸法は縦×横。

※No.18、23、26、27、49、65 は帯広市寄託、他は北海道立帯広美術館蔵。



展示図面

帯広美術館コレクション選Ⅲ なにげない瞬間

会期=2025（令和7）年1月11日（土）-3月16日（日） 56日間

*大雪のため2月4日（火）-5日（水）臨時休館

主催=北海道立帯広美術館

協賛=株式会社ズコーシャ

観覧料=一般510円（410円）、大学生300円（230円）、65歳以上のお方および高校生以下無料

（高校生は当館ボランティア「しらかばの会」2024年度無料招待事業）

（ ）内は10名以上の団体、前売、リピーター、相互、ファミリー割引料金

高校の教育活動としての観覧、障害者手帳をお持ちの方などは無料



ポスター

当館の所蔵品を紹介する展覧会の第三弾。「なにげない瞬間」を展覧会のテーマとし、日常の一幕や作者にとって親しみのある対象を表現したポスター、絵画、版画、写真を展示。「第1章 決定的、じゃない瞬間」では、作者にとって親しみのある光景をユーモラスに、あるいは穏やかに表現したポスター、版画、スケッチ。「第2章 ちいさくてうつくしいもの」では、花が表現された油彩画、日本画、水彩画、版画、ポスター、写真。「第3章 静かな風景」では、静かに見える風景を描いた油彩画、日本画、水彩画、写真、版画。「第4章 動き出す時間」では、出会いや別れ（の予感）をきっかけに制作された作品。抽象的な現代美術まで、時代やジャンルを超えて幅広く当館所蔵品を紹介した。会期中に小学生対象のワークショップや氷まつり協賛事業を開催したこともあり、若年層の来場者が目立った。入場者数は2,368人。



会場風景

○ 関連事業

鑑賞型ワークショップ「じかんのたからばこをつくろう」

日時=1月11日（土） 午後1時30分-3時30分

会場=当館主展示室および講堂（応募制、参加無料）

対象=小学1年生-6年生、定員15名

ギャラリー・ツアー

案内=耳塚里沙（当館学芸員）

日時=1月18日（土）、2月1日（土） 午後2時-（約40分）

会場=当館主展示室（要観覧券）

おびひろ氷まつり協賛事業

日時=1月31日（金）-2月2日（日）

主催=北海道立帯広美術館、帯広美術館振興会

協力=帯広美術館ボランティア「しらかばの会」、帯広市児童会館、帯広百年記念館、みどりと花のセンター

・緑ヶ丘公園スタンプラリー

日時=1月31日（金）-2月2日（日） 午前9時30分-午後4時30分

会場=当館ロビー、帯広市児童会館、帯広百年記念館、みどりと花のセンター、氷まつり会場本部横（参加無料）

・ミッション in てらんかい☆

日時=1月31日（金）-2月2日（日） 午前9時30分-午

後4時30分

会場=当館主展示室（要観覧券）

・ミュージアム・ツアー

案内=敷田弘子（当館学芸員）

日時=2月1日（土） 午前11時-（約50分）

会場=当館コレクション・ギャラリー、地階ボイラー室など（要観覧券）

・ワークショップ「今年もやります！☆鉄たたけます。」

講師=藤沢レオ氏（彫刻家・金属工芸家）

日時=2月1日（土）、2日（日）

各日午後0時30分-1時、1時-1時30分、1時30分-2時、2時-2時30分、2時30分-3時

会場=当館前庭・講堂（応募制、参加無料）

対象=4歳以上（小学3年生以下のお子さまは保護者同伴）、各回定員5名

キッズ・ミュージアム「おひなさまタペストリー」

日時=2月15日（土） 午後1時30分-午後3時30分（受付は午後3時まで）

会場=当館講堂（託児無料）

主催=北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

キッズ・ツアー

案内=耳塚里沙（当館学芸員）

日時=3月1日（土） 午後2時-（約30分）

会場=当館主展示室（要観覧券）

図録



○ 図録

規格=縦 25.2×横 18.7cm（B5判）／総頁数 64 ページ

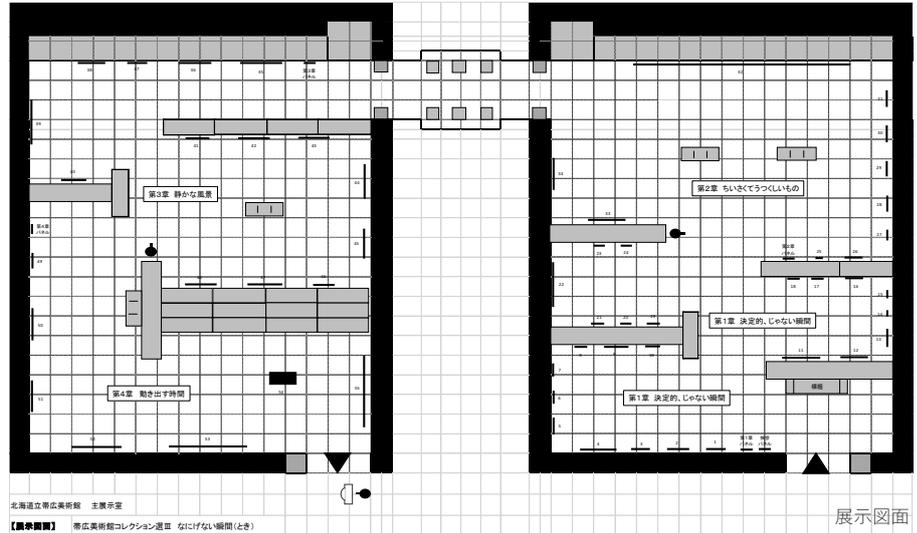
構成=ごあいさつ／第1章 決定的、じゃない瞬間／第2章 ちいさくてうつくしいもの／第3章 静かな風景／第4章 動き出す時間／作家解説／出品リスト／耳塚里沙『『コロナ禍』の帯広美術館—非日常的な日々とその後』

○ 関連記事

瀬戸厚志「おびひろミュージアム通信 『なにげない瞬間』『はるかなるとき』展」釧路新聞／1月13日（月）

芳賀万葉「絵や版画に作家の背景 道立帯広美術館で所蔵品展」北海道新聞／2月1日（土）

耳塚里沙「おびひろミュージアム通信 帯広美術館コレクション選III なにげない瞬間」釧路新聞／3月3日（月）



○ 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)
第1章 決定的、じゃない瞬間					
1	アンリ・ド・トゥールーズ *ロートレック	ディヴァン・ジャポネ	1892	リトグラフ、紙	80.4×60.0
2	アンリ・ド・トゥールーズ *ロートレック	エグランティース嬢一座	1896	リトグラフ、紙	59.5×79.0
3	不詳	脱毛防止剤「ベルテュイジヌ」	1899	リトグラフ、紙	86.5×66.0
4	テオフィル・アレクサン ドル・スタンラン	演劇「居酒屋」 ポルト*サン*マルタン 劇場	1900	リトグラフ、紙	192.0×139.0
5	カッサンドル	ノルマンディー号—トランザトランテ イク総合会社	1935	リトグラフ、紙	96.7×58.4
6	ルネ・グリユオー	くつろぎ	1950	リトグラフ、紙	80.0×60.0
7	不詳	ポーツマスとサウス・シー	1950頃	リトグラフ、紙	99.7×62.8
8	ジュゼップ・モレイ	レバンテの海岸	1940頃	リトグラフ、紙	95.9×61.4
9	クレマンティース*エレ ーナ・デュフォー	児童画展「時を超える子ども」 プティ・ パレ	1901	リトグラフ、紙	139.0×100.0
10	ドナルド・ブラン	青少年のために	1939	リトグラフ、紙	97.8×61.8
11	ジョブ	雑誌「ル・ボンボン」	1901	リトグラフ、紙	114.0×158.0
12	レオネット・カビエッロ	熟成の酒「マリー・ブリザール&ロジ エ」	1912	リトグラフ、紙	191.8×119.5
13	ジュール・デュブレ	ベリー地方の農家	1830年代	油彩、キャンバス	45.7×67.3
14	レンブラント・ファン・レ イン	戸口の女	1641	エッチング、紙	9.2×6.0
15	シャルル*エミール・ジャ ック	夏	19世紀後半	エッチング、紙	12.8×9.7
16	増田 誠	公園	1967-68 (昭和42-43)	油彩、キャンバス	50.4×61.0
17	増田 誠	Bonjour Messieurs et Mesdames リュウ・ムフタール	1976 (昭和51)	エッチング、紙	18.5×24.3
18	増田 誠	Bonjour Messieurs et Mesdames モンバルナス	1976 (昭和51)	エッチング、紙	18.5×23.3
19	田辺 三重松	千島スケッチ	1943 (昭和18) 頃	水彩、インク、紙	18.2×25.8

20	能勢 眞美	千島スケッチ	1943-45 (昭和18-20)頃	インク、紙	18.0×25.7
21	田中 忠雄	寒風ふきさらす監視所	1943 (昭和18)頃	水彩、インク、紙	18.2×26.0
22	秋岡 美帆	ゆれるかげ	1992 (平成4)	スクアナグラフ (NECO)、麻紙	153.5×212.5
23	居串 佳一	千島スケッチ	1944 (昭和19)頃	水彩、インク、紙	18.1×25.6
24	繁野 三郎	千島風物	1944 (昭和19)頃	水彩、インク、紙	18.7×26.9
第2章 ちいさくてうつくしいもの					
25	寺島 春雄	一輪のバラ	1965 (昭和40)	油彩、キャンバス	40.7×31.7
26	能勢 眞美	はまなす	1953 (昭和28)	水彩、紙	51.8×51.4
27	小谷 博貞	薔薇園の夢	1986 (昭和61)	シルクスクリーン、紙	29.4×36.1
28	井田 照一	Sazare - A - 2	1993 (平成5)	ソフトグラウンドエッチング、スポットホワイト、シーヌ [®] コレ、アクアチント、ドライポイント、紙	50.0×50.1
29	栗谷川 健一	麦わら帽子	1968 (昭和43)	オフセット、紙	103.1×73.1
30	栗津 潔	CONTEMPORARY PRINT EXHIBITION: KIYOSHI AWAZU IN LONDON	1981 (昭和56) *『BEST 100 JAPANESE POSTERS, 1945-89』(1991)復刻版		103.0×73.0
31	亀倉 雄策	日本古典芸能団招聘記念	1981 (昭和56) *『BEST 100 JAPANESE POSTERS, 1945-89』(1991)復刻版		103.0×73.0
32	岡本 和行	Flower Garden	2009 (平成21)	インクジェットプリント、紙	各 42.9×29.7 (99点組)
33	小林 満枝	叢原	1985 (昭和60)	紙本彩色	112.0×145.4
34	高坂 和子	晩夏のレクイエム	1980 (昭和55)	油彩、キャンバス	130.7×162.1
第3章 静かな風景					
35	竹山 義雄	早春山野	1978 (昭和53)	油彩、キャンバス	130.6×162.0
36	熊代 弘法	ウベベサンケ山	1969 (昭和44)	油彩、キャンバス	130.7×145.7
37	小林 守材	風景	1948 (昭和23)	油彩、板	58.0×79.0
38	伊藤 隆二	初秋	1935 (昭和10)	油彩、キャンバス	80.7×116.8
39	羽生 輝	晩照 (悠々釧路湿原)	2014 (平成26)	岩絵具、板	181.5×227.1
40	松本 早苗	風	2003 (平成15)	水彩、水彩紙	91.0×116.7
41	能勢 眞美	秋日	1970 (昭和45)	油彩、キャンバス	61.5×92.5
42	田中 良	そよぐ	1997 (平成9)	油彩、キャンバス	162.1×130.5
43	長尾 栄三	山脈の見える風景	1977 (昭和52)	油彩、キャンバス	145.4×112.4
44	中西 堯昭	凍林	1988 (昭和63)	油彩、キャンバス	130.3×162.1
45	戸張 良彦	143.102488,43.265127 41°	2008 (平成20)	デジタルCプリント	100.0×150.0
46	手島 圭三郎	しまふくろう・冬	1985 (昭和60)	木版、紙	53.0×75.0
47	望月 正男	暮雪	1956 (昭和31)	油彩、キャンバス	97.2×145.7
48	野田 哲也	日記 1987年9月22日 柏市亀甲台	1987 (昭和62)	木版、シルクスクリーン、紙	57.0×110.0
第4章 動き出す時間					
49	李 禹煥	カフェにて (銅版画文集『東の扉』より)	1998	アクアチント、紙	36.0×30.0
50	森 健二	光年の導「道」	1983 (昭和58)	油彩、キャンバス	130.0×162.0
51	小笠原 洋子	漂う船	2003 (平成15)	油彩、石粉、パーライト、板	194.0×162.0
52	近藤 みどり	慰する旅人 I	2004 (平成16)	油彩、キャンバス	182.0×227.5
53	太田 三郎	Stamp map of Hokkaido "December 29, 1993"	1993 (平成5)	切手、消印	290.0×360.0
54	富谷 道信	アデラの記憶	1980 (昭和55)	木 (イチイ)	115.0×30.0×50.0
55	池田 緑	船が一艘 大海を進んでいる	2020 (令和2)	プラスチックテープ、紙	各 91.2×182.3 (2点組)

※寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は幅×奥行×高さ。

※No.16は増田毅氏寄託、Nos.26、35、38、41は帯広市寄託、No.45は作者寄託、他は北海道立帯広美術館蔵。

教育普及事業

美術講演会／アーティスト・トーク等

各分野の専門家を招いての講演会や、展覧会出品作家等を迎えてのトーク等を開催した。

2023（令和5）年度

開催日時	内容・演題	講師	関連展覧会	会場	聴講者数
12月2日（土） 午前11時～	アーティスト・トーク	深堀隆介氏 （本展出品作家）	深堀隆介展	当館講堂	99名
2月10日（土） 午後2時～	美術講演会「北の山、原野、直行さんのこと」	伊藤健次氏 （写真家）	坂本直行展	当館講堂	74名
3月9日（土） 午後2時～	イベント 講演会「星野道夫、北海道への思い」	星野直子氏 （星野道夫事務所代表）	星野道夫展	当館講堂	72名
3月19日（火） 午後6時～	対談「アラスカとの出会いを通して」	星野直子氏（星野道夫事務所代表）、大竹英洋氏（写真家）	星野道夫展	とかちプラザ レインボーホール	247名

2024（令和6）年度

開催日時	内容・演題	講師	関連展覧会	会場	聴講者数
4月20日（土） 午後2時～	講演会「悠久の時を旅する 星野道夫が見続けた風景をたどって」	星野直子氏 （星野道夫事務所代表）	星野道夫展	当館講堂	79名
2月23日（日） 午後2時～	美術講演会「小林敬生氏講演会 彫って摺る、ただそれだけの50年」	小林敬生氏（版画家）	帯広美術館コレク ション選IV	当館講堂	56名



美術講演会「北の山、原野、直行さんのこと」

特別展セミナー

当館学芸員が、展覧会に関連したテーマを設け、出品作品を取り上げながら展覧会の見どころを紹介した。

時間＝午後2時～

会場＝当館講堂（聴講無料）

2023（令和5）年度

開催日	内容・演題	講師	関連展覧会	聴講者数
9月23日（土・祝）、 10月22日（日）	リサ・ラーソン：Seen and Unseen	敷田弘子（当館学芸員）	リサ・ラーソン展	80名
2月11日（日）、 2月23日（金・祝）	直行さんの筆あと	齊藤千鶴子 （当館学芸課長）	坂本直行展	103名

2024（令和6）年度

開催日	内容・演題	講師	関連展覧会	聴講者数
11月10日（日）	地域が育むコレクション	瀬戸厚志（当館学芸課長）	帯広美術館コレクション選 I	6名

ギャラリー・ツアー

当館学芸員や関連講師が、展示室をめぐりながら出品作品を解説し、展覧会の見どころを案内した。

会場＝当館主展示室（要観覧券）

2023（令和5）年度

開催日時	内容	講師	関連展覧会	参加者数
6月24日（土）、7月8日（土） 午後2時～	ギャラリー・ツアー	耳塚里沙（当館学芸員）	見えない音を描く	18名
12月2日（土） 午後3時～	ギャラリー・ツアー	深堀隆介氏（本展出品作家）	深堀隆介展	35名
12月9日（土）、1月6日（土） 午後2時～	ギャラリー・ツアー	耳塚里沙（当館学芸員）	深堀隆介展	31名
2月12日（月・祝）、24日（土） 午後2時～	ギャラリー・ツアー	齊藤千鶴子（当館学芸課長）	坂本直行展	47名

2024（令和6）年度

開催日時	内容	講師	関連展覧会	参加者数
5月18日（土）、6月1日（土） 午後2時～	ギャラリー・ツアー	耳塚里沙（当館学芸員）	星野道夫展	42名
11月23日（土・祝）、11月24日（日） 午後2時～	ギャラリー・ツアー	瀬戸厚志（当館学芸課長）	帯広美術館コレクション選Ⅰ	15名
1月18日（土）、2月1日（土） 午後2時～	ギャラリー・ツアー	耳塚里沙（当館学芸員）	帯広美術館コレクション選Ⅲ	20名



トーク&レクチャー「十勝の書」

トーク&レクチャー

当館学芸員や外部講師による2日間連続制の講座。展覧会関係者のトークと学芸員のレクチャーを組み合わせ、開催中の展覧会について多角的かつ体系的に知識を深める機会とした。なお、本事業は北海道教育委員会、北海道立生涯学習推進センターが主催する道民カレッジの連携講座としても実施した。

会場＝当館講堂

2023（令和5）年度

開催日時	演題	講師	関連展覧会	参加者数
2月17日（土） 午後2時～3時15分	十勝の風景を撮る —写真家との対談から—	戸張良彦氏（本展出品作家）、敷田弘子（当館学芸員）	プレイバック平成☆十勝美術の30年	22名
2月28日（水） 午後2時～2時30分	プチ・トーク「プレイバック☆平成の展覧会」	耳塚里沙（当館学芸員）	プレイバック平成☆十勝美術の30年	11名
2月28日（水） 午後2時40分～3時40分	十勝の書	齊藤千鶴子（当館学芸課長）	プレイバック平成☆十勝美術の30年	11名

キッズ・ツアー

各特別展の会期中に1回、小学生を主な対象としたギャラリー・ツアーを実施した。対話しながら、子どもたちの自発的な鑑賞

を促すよう工夫した。

時間＝午後2時－（約30分）

会場＝当館主展示室（要観覧券）

2023（令和5）年度

開催日	講師	関連展覧会	参加者数
8月5日（土）	耳塚里沙（当館学芸員）	見えない音を描く	－
1月13日（土）	耳塚里沙（当館学芸員）	深堀隆介展	6名

2024（令和6）年度

開催日	講師	関連展覧会	参加者数
6月16日（日）	耳塚里沙（当館学芸員）	星野道夫展	17名
12月8日（日）	瀬戸厚志（当館学芸課長）	帯広美術館コレクション選Ⅰ	－
3月1日（土）	耳塚里沙（当館学芸員）	帯広美術館コレクション選Ⅲ	－



キッズ・ツアー「星野道夫展」



キッズ・ミュージアム「絵あわせパズル」

キッズ・ミュージアム

親子、家族連れの来館者を対象とした事業。各展覧会の会期中に1回、託児の日を設け、日常ゆっくりと展覧会を鑑賞する機会の少ない幼児を連れた保護者に、寛いだ鑑賞の機会を提供した。託児の間、子どもたちは工作遊びを楽しんでもらった。なお本事業は、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」との共催で実施。工作遊びの内容検討から準備作業、当日の受付業務、託児、工作補助まで「しらかばの会」ワークショップ部が中心となって運営した。

時間＝午後1時30分－3時30分（受付は3時まで）

会場＝当館講堂（託児無料）

主催＝北海道立帯広美術館、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」

2023（令和5）年度

開催日	工作内容	関連展覧会	参加者数
7月22日（土）	ふうりん・リンリン	見えない音を描く	15名
10月21日（土）	石ころアート	リサ・ラーソン展	33名
1月20日（土）	折り紙こま	深堀隆介展	6名

2024（令和6）年度

開催日	工作内容	関連展覧会	参加者数
5月25日（土）	絵あわせパズル	星野道夫展	12名
11月16日（土）	カップでジャンプ！	帯広美術館コレクション選Ⅰ	11名
2月15日（土）	おひなさまタペストリー	帯広美術館コレクション選Ⅲ	9名

ワークショップ等

開催中の展覧会に関連し、美術家や当館学芸員によるワークショップを実施した。

2023（令和5）年度

開催日時	内容	講師	関連展覧会・会場	参加者数
9月10日（日）、10月8日（日）、 11月3日（金・祝）、11月5日（日）	ぬり絵の日	—	リサ・ラーソン展 当館講堂	1508名
12月10日（日） 午前10時～12時	折ってつくろう☆変身!?和紙ラン プ☆	加藤かおり氏 （現代美術家）	深堀隆介展 当館講堂	31名

2024（令和6）年度

開催日時	内容	講師	関連展覧会・事業	参加者数
1月11日（土） 午後1時30分～3時30分	鑑賞型ワークショップ「じかんのた からばこをつくろう」	耳塚里沙（当館学芸員）	帯広美術館コレクション選Ⅲ 当館講堂・主展示室	15名



ワークショップ「じかんのたからばこをつくろう」



「ミュージアム・コンサート」左藤優氏

コンサート

より幅広い層の市民に美術館に親んでもらうため、展覧会の内容等にあわせて他団体と連携してコンサートを開催した。

2023（令和5）年度

開催日時	内容	出演者	会場	主催	参加者数
6月25日（日） 午後3時～4時	ミュージアム・コンサート	田中光俊氏（クラシックギタリスト）	当館ロビー	当館	55名

2024（令和6）年度

開催日時	内容	出演者	会場	主催	参加者数
4月21日（日） 午後5時30分～6 時30分	音楽+写真+朗読「旅をする音楽— 星野道夫×haruka nakamura」	haruka nakamura氏（音楽家）、 星野直子氏（朗読、星野道夫事務 所代表）	とかちプラザ レインボーホール	星野道夫展実行 委員会	283名
11月3日（日） 午後2時～3時	ミュージアム・コンサート	左藤優氏（マリンバ奏者）	当館ロビー	帯広美術館振興 会、当館	93名

芸術週間

道立の文化施設では、道民が芸術に親しむ機運を醸成すべく、1999（平成11）年度より文化の日をはさむ7日間を芸術週間として設定した。期間中は幅広い広報活動を行うことで、施設や事業の案内、周知に努めるとともに、一週間を通じて開館日とし、各種の教育普及事業を開催。また、コレクション・ギャラリー観覧料を無料とすることで道民の関心を喚起し、利用の促進を図った。

2023（令和5）年度

該当なし

2024（令和6）年度

月 日	実施内容	期間中の開催展覧会
11月3日（日）	ミュージアム・コンサート	特別展「帯広美術館コレクション選Ⅰ」、 コレクション・ギャラリー「帯広美術館コレクション選Ⅱ」

おびひろ氷まつり協賛事業 「美術館 de 氷まつり」

例年1月末あるいは2月初めの週末に、帯広美術館が立地する帯広市緑ヶ丘公園を主会場のひとつに、「おびひろ氷まつり」が開催されてきた。本事業は、祭りの来場者に美術館に親んでもらうべく、帯広美術館振興会、帯広美術館ボランティア「しらかばの会」と共同して企画・実施した。

2023（令和5）年度

日時	事業名	内容	講師	会場	参加者数
1月26日（金）-28日（日） 午前9時30分-午後4時30分	緑ヶ丘公園スタンプラリー	緑ヶ丘公園にある施設（5ヶ所）をめぐるスタンプラリー	—	当館ロビー、帯広市児童会館、帯広百年記念館、みどりと花のセンター、氷まつり会場本部	236名
1月27日（土） 午前11時-11時50分	ミュージアム・ツアー	コレクション・ギャラリーとバックヤードを案内	敷田弘子 （当館学芸員）	当館コレクション・ギャラリーほか	11名
1月27日（土）、28日（日） 午後0時30分-、1時-、1時30分-、2時-、2時30分-（各回30分）	ワークショップ プレイバック「鉄たたけます。」 ☆鉄は熱いうちにたたくのだから！	熱した鉄を叩き、磨いてキーホルダーを制作。	藤沢レオ氏 （彫刻家、金属工芸家）	当館前広場、講堂	58名

2024（令和6）年度

日時	事業名	内容	講師	会場	参加者数
1月31日（金）-2月2日（日） 午前9時30分-午後4時30分	緑ヶ丘公園スタンプラリー	緑ヶ丘公園にある施設（5ヶ所）をめぐるスタンプラリー	—	当館ロビー、帯広市児童会館、帯広百年記念館、みどりと花のセンター、氷まつり会場本部	211名
1月31日（金）-2月2日（日） 午前9時30分-午後4時30分	ミッション in てんらんかい☆	特別展に関連したクイズを体験。	—	当館主展示室	159名
2月1日（土） 午前11時-11時50分	ミュージアム・ツアー	コレクション・ギャラリーとバックヤードを案内	敷田弘子 （当館学芸員）	当館コレクション・ギャラリーほか	9名
2月1日（土）、2月2日（日） 午後0時30分-、1時-、1時30分-、2時-、2時30分-（各回30分）	ワークショップ「今年もやります！☆鉄たたけます。」	熱した鉄を叩き、磨いてキーホルダーを制作。	藤沢レオ氏（彫刻家、金属工芸家）	当館前広場、講堂	58名



美術館 de 氷まつり 2025「ミュージアム・ツアー」



美術館 de 氷まつり 2025「緑ヶ丘公園スタンプラリー」

団体オリエンテーション

団体観覧者のうち希望するグループに対し、講堂にて映像を使用しながら当館の概要と開催中の特別展及びコレクション・ギャラリーの内容を紹介するオリエンテーションを実施した。

実施日＝随時

会場＝当館講堂（無料、事前申込制）

講師＝当館学芸員

2023（令和5）年度

内容	備考
丘の上のミュージアム、とっておき10選	参加人数 77名（2回実施）
見えない音を描く	参加人数 22名（2回実施）
リサ・ラーソン展	参加人数 794名（25回実施）
深堀隆介展	参加人数 468名（11回実施）
坂本直行展	参加人数 98名（4回実施）

2024（令和6）年度

内容	備考
星野道夫展	参加人数 784名（16回実施）
帯広美術館コレクション選Ⅰ	参加人数 171名（5回実施）
帯広美術館コレクション選Ⅲ	参加人数 86名（3回実施）

セルフガイド（クイズ）

コレクション・ギャラリーおよび主展示室で開催中の展覧会について、出品作品数点に関するクイズを作成し、希望する観覧者に配布した。それぞれの設問は、主として小学校中学年を対象とし、作品の主題や技法、造形要素等に注意を喚起することで、作品鑑賞の一助となるように努めた。

2023（令和5）年度

関連展覧会	展覧会会期	会場	利用者数
丘の上のミュージアム、とっておき10選	4月22日（土）－6月11日（日）	主展示室	参加者数 112名
見えない音を描く	6月24日（土）－8月20日（日）	主展示室	参加者数 193名
リサ・ラーソン展	9月9日（土）－11月19日（日）	主展示室	参加者数 1,694名
深堀隆介展	12月2日（土）－1月28日（日）	主展示室	参加者数 1,194名
坂本直行展	2月10日（土）－3月10日（日）	主展示室	参加者数 350名
コレクション・ギャラリー 「ポスターに乾杯！」	4月22日（土）－6月11日（日）	コレクション・ギャラリー	参加者数 165名
コレクション・ギャラリー 「静かに流れる一思索を誘う版表現」	6月24日（土）－8月20日（日）	コレクション・ギャラリー	参加者数 155名
コレクション・ギャラリー「Home」	9月9日（土）－11月19日（日）	コレクション・ギャラリー	参加者数 1,026名
コレクション・ギャラリー 「プレイバック平成☆十勝美術の30年」	12月2日（土）－3月10日（日）	コレクション・ギャラリー	参加者数 808名

2024（令和6）年度

関連展覧会	展覧会会期	会場	利用者数
星野道夫展	4月20日（土）－6月30日（日）	主展示室	参加者数 1,833名
帯広美術館コレクション選Ⅰ	11月1日（金）－12月22日（日）	主展示室	参加者数 299名
帯広美術館コレクション選Ⅲ	1月11日（土）－3月16日（日）	主展示室	参加者数 190名
コレクション・ギャラリー 「世界の版画から」	4月20日（土）－6月30日（日）	コレクション・ギャラリー	参加者数 1,128名
コレクション・ギャラリー 「帯広美術館コレクション選Ⅱ」	11月1日（金）－12月22日（日）	コレクション・ギャラリー	参加者数 260名
コレクション・ギャラリー 「帯広美術館コレクション選Ⅳ」	1月11日（土）－3月16日（日）	コレクション・ギャラリー	参加者数 200名

博物館実習

2023（令和5）年度 該当なし

2024（令和6）年度

受入期間＝8月1日（木）－8月9日（金）

受入人数＝4名

月 日	10:00-10:30	10:30-12:00	13:00-14:50	15:10-15:45	15:50-16:25	16:30-17:00		
8/1（木）	実習オリエンテーション	施設見学	学芸課実務実習 【博物館施設見学実習】 （帯広百年記念館、児童会館）	講義 【帯広美術館の役割】	講義 【帯広美術館の概要】	日誌記入		
8/2（金）	朝礼・準備	講義 【展覧会活動】	講義 【教育普及活動】	講義 【作品の収集と保存】	講義 【二次資料の収集】	講義 【広報活動】	実習 【広報活動】 （SNS投稿原稿作成）	日誌記入
8/5（月）	朝礼・準備	講義 【美術館の予算】	総務課実務実習 【展覧会実務実習】 （来館者案内、監視）	総務課実務実習 【展覧会実務実習】 （座談会）	総務課実務実習 【展覧会事務補助】	日誌記入		
8/6（火）	朝礼・準備	学芸実務実習 【作品取り扱い】 （日本画、工芸）	学芸実務実習 【作品取り扱い】 （油彩画、版画）	学芸課実務実習 【オリエンテーション等作成】		日誌記入		
8/7（水）	朝礼・準備	実習 【ボランティア実務】	学芸課実務実習 【オリエンテーション等作成】			日誌記入		
8/8（木）	朝礼・準備	学芸課実務実習 【温湿度計記録用紙交換、オリエンテーション等作成】	学芸課実務実習 【オリエンテーション等作成】 ※学芸職員がパワーポイントと原稿確認			日誌記入		
8/9（金）	朝礼・準備	学芸課実務実習 【オリエンテーション等作成】発表準備	学芸課実務実習 【オリエンテーション等作成】 発表＋フィードバック		16:00-16:30	16:30-17:00	実習振り返り 日誌記入	

教員研修プログラム

小学校・中学校・高等学校等の教員に長期休業期間中の自己研修の機会を提供するとともに、美術館施設を活用した学習や美術の鑑賞事業についての実践的なヒントを提供するため、教員研修プログラムを実施した。

研修内容は、美術館の概要やコレクションについての説明、バックヤード・ツアー、鑑賞学習支援ツールの紹介などとした。

2023（令和5）年度

受入期間=1月5日（金）

受入人数=1名

月 日	13:00-	13:30	13:35	14:30	15:50	16:00
1/5（金）	受付	開会	講義 ・美術館の活動について ・オンラインアート教室について	施設見学 ・展覧会解説 ・収蔵庫等	アンケート まとめ	閉会

2024（令和6）年度

受入期間=7月30日（火）／12月27日（金）

受入人数=3名／5名

月 日	10:15-	10:30	10:30	11:15	11:50	12:00
7/30（火）	受付	開会	講義 ・美術館の活動について ・教育普及事業について ・学校と美術館の連携について	施設見学 ・ロビー、展示室、バックヤード等 ・質疑応答	まとめ	閉会

月 日	10:15-	10:30	10:30-11:00	11:00-11:30	11:30-11:50	11:50	12:00
12/27（金）	受付	開会	講義 ・美術館の活動について ・学校と連携する教育普及事業について	・十勝の美術、北海道の美術について	施設見学 ・ロビー、展示室、バックヤード等 ・質疑応答	まとめ	閉会

オンラインアート教室

道立美術館と学校をオンラインでつなぎ、遠隔地の児童・生徒に対する鑑賞機会の拡充や美術作品への理解促進をはかる（ア）「道立美術館オンラインアート教室」を実施した。帯広美術館では、これと並行して、学校以外の社会教育機関なども対象に含めた独自の（イ）「帯広美術館オンラインアート教室」も実施。幅広い層への普及に努めた。

2023（令和5）年度

（ア） 道立美術館オンラインアート教室

月 日	対象	内容	備考
11月15日（水）	北海道紋別高等養護学校1学年	アートカードの使用	参加者数22名
12月7日（木）	北海道小平高等養護学校1-3学年	アートカードの使用	参加者数30名
12月12日（木）	北海道手稲養護学校三角山分校1-3学年	特別展「深堀隆介展」の鑑賞	参加者数10名
12月20日（水）	北海道拓北養護学校全校生徒	特別展「深堀隆介展」の鑑賞	参加者数120名

（イ） 帯広美術館オンラインアート教室

月 日	対象	内容	備考
4月19日（水）	北海道中札内高等養護学校幕別分校2学年	「丘の上のミュージアム、とっておき10選」の鑑賞、アートカードの使用	参加者数5名
5月25日（木）	北海道中標津高等学校美術部1-3学年	「丘の上のミュージアム、とっておき10選」の鑑賞、アートカードの使用	参加者数14名
6月1日（木）	北海道釧路鶴野支援学校中学部1-3学年	「丘の上のミュージアム、とっておき10選」の鑑賞、アートカードの使用	参加者数7名
6月8日（木）	浦幌町放課後子ども居場所事業「オーラポロひろば」2-6学年	「丘の上のミュージアム、とっておき10選」の鑑賞、アートカードの使用	参加者数9名
6月9日（金）	本別町立勇足中学校3学年	「丘の上のミュージアム、とっておき10選」の鑑賞、アートカードの使用	参加者数6名
9月21日（木）	北海道中札内高等養護学校幕別分校1学年	特別展「リサ・ラーソン展」の鑑賞	参加者数12名

12月6日(水)	北海道中札内高等養護学校幕別分校3学年	特別展「深堀隆介展」の鑑賞	参加者数10名
2月14日(水)	北海道中札内高等養護学校幕別分校2学年	特別展「坂本直行展」の鑑賞	参加者数4名

2024(令和6)年度

(ア) 道立美術館オンラインアート教室

月日	対象	内容	備考
9月26日(木)、27日(金)	釧路市立北中学校1-3学年	「自然の風景に目をこらす」(当館所蔵のバルビゾン派の作品の鑑賞)	参加者数170名、6回
10月8日(火)	北海道稚内養護学校中学部3年	「美術とコマーシャル」(当館所蔵のミュシャ作品の鑑賞)	参加者数1名
10月9日(水)	せたな町立大成中学校全校生徒	「美術から社会を見ようか!」(当館所蔵の池田緑《Silent Breath サホロの7ヶ月/12ヶ月/21ヶ月/24ヶ月》の鑑賞)	参加者数11名
11月11日(月)	北海道帯広柏葉高等学校(定時制)3-4学年	「自然の風景に目をこらす」(当館所蔵のバルビゾン派の作品の鑑賞)	参加者数19名
12月6日(金)	遠軽町立白滝中学校1-3学年	「自然の風景に目をこらす」(当館所蔵のバルビゾン派の作品の鑑賞)	参加者数8名

(イ) 帯広美術館オンラインアート教室

月日	対象	内容	備考
5月29日(水)、31日(金)	北海道新得高等支援学校1-2学年	特別展「星野道夫展」の鑑賞	参加者数8名
10月31日(木)	北海道紋別養護学校高等部1-3学年	アートカードの使用	参加者数8名
2月19日(水)	北海道新得高等支援学校1学年	当館所蔵作品の鑑賞	参加者数8名

学校教育との連携

中学校や高校の「職場体験学習」などの授業を受け入れ、美術館教育と学校教育との連携を図った。各授業では美術館の施設や活動などについて、当館職員が適宜、説明や指導にあたり、美術館業務やボランティア活動の体験も行った。

2023(令和5)年度

実施日	学校名等	事業名(内容)	人数
6月27日(火)、28日(水)	北海道帯広柏葉高等学校	インターンシップ	2名
10月20日(金)	帯広市立帯広第一中学校	インターンシップ	3名
10月26日(木)、27日(金)	帯広大谷高等学校	インターンシップ	20名
10月31日(火)	帯広市立第二中学校	インターンシップ	4名
11月15日(水)、16日(木)	帯広市立川西中学校	インターンシップ	1名
11月16日(木)、17日(金)	北海道帯広三条高等学校	対話型鑑賞授業(科目:自己表現)	46名(3回実施)

2024(令和6)年度

実施日	学校名等	事業名(内容)	人数
6月27日(金)	北海道帯広柏葉高等学校(定時制)	インターンシップ	3名
11月14日(木)	帯広市立川西中学校	インターンシップ	1名
11月14日(木)	北海道帯広三条高等学校	対話型鑑賞授業	8名
12月-1月	北海道帯広三条高等学校	1年次「総合的な探究の時間」	6名、2回

他団体との連携

帯広美術館ボランティア「しらかばの会」や地元公共機関など他団体が主催する事業に会場提供や講師派遣など協力を行い、美術館活動の普及に努めた。

2023（令和5）年度

月 日	主催団体名	事業名・内容	参加者数
8月25日（金）	帯広道新文化センター	帯広道新文化センター 1日講座 リサ・ラーソン—知られざる創造の世界	8名
10月29日（日）	音更町図書館	音更町図書館 芸術鑑賞講座「リサ・ラーソン：Seen and Unseen」	18名
2月14日（水）	帯広市教育委員会	帯広市民大学講座「帯広美術館の歩みと「坂本直行展」「星野道夫展（予定）」のみどころ」	50名
2月15日（木）	北海道新聞帯広支社	道新十勝政経懇話会 2024年2月例会「日高山脈を愛した画家・直行さんの足あと」	81名

2024（令和6）年度

月 日	主催団体名	事業名・内容	参加者数
4月29日（月） -5月6日（月）	当館、帯広美術館振興会 協力：おびひろ動物園	おびひろ動物園×帯広美術館スタンプラリー	332名
7月10日（水）	池田町遊ゆう大学	講演会「展覧会がやってくる／生活の中にある美術」	82名
7月18日（木）	帯広わかば会	講座「生活の中にある美術の種」	160名
10月11日（日）	音更町図書館	講演会「帯広美術館 パルピゾンコレクションについて」	27名
11月26日（火）-28日（木）	帯広美術館ボランティア「しらかばの会」	帯広美術館バックヤードツアー	78名

その他

2023（令和5）年度

月 日	事業名	内容	関連展覧会	備考
2月10日（土）	番組上映会	「山と原野とスケッチと～日高山脈と生きた画家 坂本直行～」(NHK 帯広放送局制作)	坂本直行展	参加者数 44名 主催：NHK 帯広放送局

2024（令和6）年度

月 日	事業名	内容	関連展覧会	備考
4月20日（土）	星野直子氏サイン会	当館ミュージアム・ショップで購入した星野道夫展関連書籍へのサイン会	星野道夫展	参加者数 40名

美術作品の収集

2023（令和5）年度 作品収集状況

【分野別】

区 分	前年度末 作品点数		本年度収集点数			2023 年度末 所蔵点数		受託作品			保管点数	比 率
			購 入	受 贈	合 計			前年度末	令和5年度	計		
油 彩	91	10.7%				91	10.7%	30		30	121	13.4%
日本画	10	1.2%				10	1.2%	1		1	11	1.2%
水彩・素描	35	4.1%				35	4.1%	12		12	47	5.2%
版 画	389	45.8%		4	4	393	46.1%	1		1	394	43.6%
彫 塑	18	2.1%				18	2.1%	1		1	19	2.1%
工 芸	1	0.1%				1	0.1%				1	0.1%
デザイン	255	30.0%				255	29.9%				255	28.3%
写真・映像	50	5.9%				50	5.9%	5		5	55	6.1%
合 計	849	100.0%		4	4	853	100.0%	50		50	903	100.0%

【方針別】

区 分	前年度末 作品点数		本年度収集点数			所蔵点数	比 率	受託作品			作品総数	
			購 入	受 贈	合 計			前年度末	令和2年度	計		
道東の美術	312	36.7%		4	4	316	37.7%	36		36	352	39.7%
プリントアート	696	82.0%		4	4	700	81.6%	5		5	705	77.4%
西洋の美術	76	9.0%				76	9.2%	6		6	82	9.4%
区分外	12	1.4%				12	1.5%	4		4	16	2.1%

* 複数の収集区分に重複する作品があるため、構成比の合計は100.0%を超える。

受贈

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	寄贈者
2023001	版画	景川 弘道	知床岳と残氷	不詳	板目木版、紙	23.9×33.3	井下 三依 氏
2023002	版画	景川 弘道	春の畑	不詳	板目木版、紙	27.4×39.0	井下 三依 氏
2023003	版画	景川 弘道	ベニス	不詳	板目木版、紙	24.6×34.8	井下 三依 氏
2023004	版画	景川 弘道	居間でくつろぐ	不詳	板目凹版、紙	45.5×30.8	井下 三依 氏

2024（令和6）年度 作品収集状況

【分野別】

区 分	前年度末 作品点数		本年度収集点数			2024 年度末 所蔵点数		受託作品			保管点数	比 率
			購 入	受 贈	合 計			前年度末	令和5年度	計		
油 彩	91	10.7%				91	10.6%	30		30	121	13.3%
日本画	10	1.2%				10	1.2%	1		1	11	1.2%
水彩・素描	35	4.1%				35	4.1%	12		12	47	5.2%
版 画	393	46.1%		8	8	401	46.6%	1		1	402	44.1%
彫 塑	18	2.1%				18	2.1%	1		1	19	2.1%
工 芸	1	0.1%				1	0.1%				1	0.1%
デザイン	255	29.9%				255	29.6%				255	28.3%
写真・映像	50	5.9%				50	5.8%	5		5	55	6.0%
合 計	853	100.0%		8	8	861	100.0%	50		50	911	100.9%

【方針別】

区分	前年度末 作品点数		本年度収集点数			所蔵点数	比率	受託作品			作品総数	
			購入	受贈	合計			前年度末	令和5年度	計		
道東の美術	316	37.0%				316	37.7%	36		36	352	39.7%
プリントアート	700	82.1%		8	8	708	81.6%	5		5	713	77.4%
西洋の美術	76	8.9%				76	9.2%	6		6	82	9.4%
区分外	12	1.4%				12	1.5%	4		4	16	2.1%

* 複数の収集区分に重複する作品があるため、構成比の合計は100.0%を超える。

受贈

作品番号	分野	作者名	作品名	制作年	技法材質	寸法 (cm)	寄贈者
2024001	版画	池田 満寿夫	ブロンズ・ヴィナス	1974	メゾチント・紙	40.6×30.3	佐藤 陽子氏
2024002	版画	池田 満寿夫	孤独	1980	リトグラフ・紙	50.0×65.0	佐藤 陽子氏
2024003	版画	池田 満寿夫	令嬢ジュリー	1983	メゾチント・紙	35.5×29.6	佐藤 陽子氏
2024004	版画	池田 満寿夫	光琳の庭	1986	リトグラフ・紙	60.5×50.5	佐藤 陽子氏
2024005	版画	池田 満寿夫	朝	1989	リトグラフ・紙	65.2×50.2	佐藤 陽子氏
2024006	版画	木村 利三郎	City 195	1974	シルクスクリーン・紙	50.1×65.0	木村 秀夫氏
2024007	版画	木村 利三郎	City 326A	1976	シルクスクリーン・紙	48.8×64.1	木村 秀夫氏
2024008	版画	木村 利三郎	City 434B“Information”	1997 頃	シルクスクリーン・紙	48.8×62.2	木村 秀夫氏

図版目録

凡例

1.この目録には、2023（令和5）年4月1日から2025（令和7）年3月31日までに北海道立帯広美術館に収蔵された作品を収録した。

2.各作品は、材質・形状により、次の分野に分類した。

1.版画

3.作品は分野ごとに作家の姓の50音順に配列した。同一作家の作品が各分野に2点以上ある場合は、制作年順に配列した。

4.各作品のデータ記載事項と順序は、次の通りである。

作家名、作家名欧文、生没年、作品名、作品名欧文、制作年、技法材質、寸法、初出展覧会（開催年／会場／受賞等）、収集年度・収集の経緯、作品番号（収集区分）

5.寸法はセンチメートルを単位とし、平面作品は縦×横、立体作品は幅×奥行×高さを示した。

6.収集区分は、次の3つの収集方針に基づいて分類した。

- 1.道東の美術：十勝・釧路・根室・オホーツクの北海道東部4管内にゆかりの作家・作品と関連する作品
- 2.プリントアート：近現代を主とし国内外の版画やポスターを中心とした作品
- 3.西洋の美術：パルビゾン派をはじめ田園風景・農村風俗を主題とした作品

版 画

池田 満寿夫

IKEDA Masuo

1934 (昭和9) - 1997 (平成9)

ブロンズ・ヴィナス

Bronze Venus

1974 (昭和49)

メゾチント・紙

40.6×30.3

令和6年度・佐藤陽子氏寄贈

20240001 (プリントアート)



池田 満寿夫

IKEDA Masuo

1934 (昭和9) - 1997 (平成9)

孤独

Solitude

1980 (昭和55)

リトグラフ・紙

50.0×65.0

令和6年度・佐藤陽子氏寄贈

20240002 (プリントアート)



池田 満寿夫

IKEDA Masuo

1934 (昭和9) - 1997 (平成9)

令嬢ジュリー

Miss Julie

1983 (昭和58)

メゾチント・紙

35.5×29.6

令和6年度・佐藤陽子氏寄贈

20240003 (プリントアート)



池田 満寿夫

IKEDA Masuo

1934 (昭和9) - 1997 (平成9)

光琳の庭

Garden of Korin

1986 (昭和61)

メゾチント・紙

60.5×50.5

令和6年度・佐藤陽子氏寄贈

20240004 (プリントアート)



池田 満寿夫

IKEDA Masuo

1934 (昭和9) - 1997 (平成9)

朝

In the Morning

1989 (昭和64)

メゾチント・紙

65.2×50.2

令和6年度・佐藤陽子氏寄贈

20240005 (プリントアート)



景川 弘道

KAGEKAWA Hiromichi

1914 (大正3) - 2008 (平成20)

知床岳と残氷

Mount Shiretoko and Remaining Ice

制作年不詳

板目木版・紙

23.9×33.3

令和5年度・井下三依氏寄贈

20230001 (プリントアート)



景川 弘道

KAGEKAWA Hiromichi

1914 (大正 3) - 2008 (平成 20)

春の畑

Spring Field

制作年不詳

板目木版、紙

27.4×39.0

令和 5 年度・井下三依氏寄贈

2023002 (プリントアート)



景川 弘道

KAGEKAWA Hiromichi

1914 (大正 3) - 2008 (平成 20)

ベニス

Venice

制作年不詳

板目木版、紙

24.6×34.8

令和 5 年度・井下三依氏寄贈

20230003 (プリントアート)



景川 弘道

KAGEKAWA Hiromichi

1914 (大正 3) - 2008 (平成 20)

居間でくつろぐ

Relaxing in the Living Room

制作年不詳

板目木版、紙

45.5×30.8

令和 5 年度・井下三依氏寄贈

20230004 (プリントアート)



木村 利三郎

KIMURA Risaburo

1924 (大正 13) - 2014 (平成 26) 1934

City 195

1974 (昭和 49)

シルクスクリーン・紙

50.1×65.0

令和 6 年度・木村秀夫氏寄贈

20240006 (プリントアート)



木村 利三郎

KIMURA Risaburo

1924 (大正 13) - 2014 (平成 26) 1934

City 326A

1976 (昭和 51)

シルクスクリーン・紙

65.2×50.2

令和 6 年度・木村秀夫氏寄贈

20240007 (プリントアート)



木村 利三郎

KIMURA Risaburo

1924 (大正 13) - 2014 (平成 26) 1934

City 434B "Information"

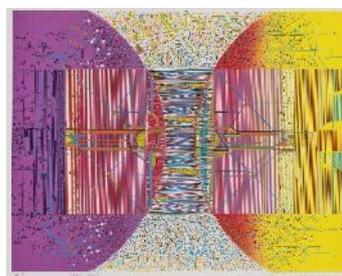
1997 (平成 9) 頃

シルクスクリーン・紙

48.8×62.2

令和 6 年度・木村秀夫氏寄贈

20240008 (プリントアート)



美術作品の貸出

2023（令和5）年度

分野	作家名	作品名	貸出先	貸出期間	出品展覧会
写真	デイヴィッド・ホックニー	グランド・キャニオンの北側を見る 1982年9月			
写真	デイヴィッド・ホックニー	京都 1993年4月24日	北海道立近代美術館、北海道新聞社	2023年4月5日-6月22日	「トリック×イリュージョン！」展 (2023年4月22日-6月11日、北海道立近代美術館にて開催)
写真	森村泰昌	野菜涅槃(若冲)			
写真	森村泰昌	寒雀寒鳩(御舟)			
油彩	能勢真美	樹列 *	神田日勝記念美術館	2023年6月2日-8月30日	
油彩	レオンス・シャブリ	牧場と木々			
油彩	レオン・リッシェ	農婦のいる風景 *			
油彩	ジャン＝フェルディナン・シエニョー	草原の羊飼いの少女と羊の群れ			
油彩	レオンス・シャブリ	羊の群れを連れ帰る羊飼い			
油彩	ギュスターヴ・クールベ	釣り人のいる風景			
油彩	ジュール・デュプレ	ベリー地方の農家			
油彩	アルフレッド・ド・クニフ	春の水辺、ケンペン			
油彩	アレクサンドル・ドゥフォー	農家の中庭	北海道立釧路芸術館	2023年6月24日-9月15日	「田園の夢 帯広美術館名品選 バルビゾン派の世界」展 (2023年7月1日-9月3日、北海道立釧路芸術館にて開催)
油彩	アレクサンドル・ドゥフォー	森の中での休息			
版画	ジャン＝フランソワ・ミレー	耕す人			
版画	ジャン＝フランソワ・ミレー	落穂ひろい			
版画	シャルル＝フランソワ・ドービニー	オーヴェールのりんごの木			
版画	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ヒマラヤ杉			
版画	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	植林された平野			

*は帯広市寄託作品

2024（令和6）年度は該当なし。

特別観覧

2023（令和5）年度

内訳	撮影	複写	熟覧	原版使用	画像データ使用	合計
件数					4	4

2024（令和6）年度

内訳	撮影	複写	熟覧	原版使用	画像データ使用	合計
件数	1				1	2

貸館事業

2023（令和5）年度・2024（令和6）年度ともに該当なし

名簿

北海道立帯広美術館協議会委員名簿

※2025（令和7）年3月31日現在

役職名	氏名	現職
会長	加賀学	池田町教育長・十勝管内教委連教育長部会長
副会長	笹島香織	帯広大谷短期大学特任准教授
委員	今野典之	帯広市立翔陽中学校長
委員	今木由香	帯広美術館ボランティア「しらかばの会」会員
委員	佐藤寛之	帯広商工会議所事務局長
委員	松岡準志	日本放送協会帯広放送局長
委員	持田誠	浦幌町立博物館学芸員
委員	後藤眞美子	元北海道社会教育委員
委員	伊藤美也子	釧路市女性団体連絡協議会会員
委員	野祥子	羅臼町社会教育委員
委員	中村博明	(一般公募)
委員	若林洋	(一般公募)

※委員の任期は2023（令和5）年6月27日から2025（令和7）年6月26日からまで

北海道立帯広美術館職員名簿

役職名	氏名	発令年月日
館長（非常勤）	野崎弘幸	2019（平成31）年4月1日
副館長	友田浩貴	2023（令和5）年6月1日
総務課長	(副館長兼務)	
主査	吉田昌代	2022（令和4）年4月1日
主事	鎌田大遙	2023（令和5）年4月1日
学芸課長	齊藤千鶴子	2022（令和4）年4月1日
学芸員	敷田弘子	2023（令和5）年4月1日
学芸員	耳塚里沙	2020（令和2）年4月1日
主事（非常勤）	高田佳子	2023（令和5）年4月1日
主事（非常勤）	山崎千里	2023（令和5）年4月1日
主事（非常勤）	千葉みりあ	2023（令和5）年4月1日
主事（非常勤）	幡生静	2023（令和5）年4月1日
主事（非常勤）	飯塚真規	2023（令和5）年4月1日
主事（非常勤）	中山沢り	2023（令和5）年4月1日
主事（非常勤）	市岡るり	2023（令和5）年4月1日
主事（非常勤）	雑喉美華	2023（令和5）年4月1日

※2023（令和5）年度（2024（令和6）年3月31日現在）

役職名	氏名	発令年月日
館長（非常勤）	川端雄一	2024（令和6）年4月1日
副館長	友田浩貴	2023（令和5）年6月1日
総務課長	(副館長兼務)	
主査	吉田昌代	2022（令和4）年4月1日
主事	鎌田大遙	2023（令和5）年4月1日
学芸課長	瀬戸厚志	2024（令和6）年4月1日
学芸員	敷田弘子	2023（令和5）年4月1日
学芸員	耳塚里沙	2020（令和2）年4月1日
主事（非常勤）	高田佳子	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	山崎千里	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	千葉みりあ	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	幡生静	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	飯塚真規	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	市岡るり	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	高嶋由起子	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	大和田真美	2024（令和6）年4月1日
主事（非常勤）	藤原ゆり子	2024（令和6）年4月1日

※2024（令和6）年度（2025（令和7）年3月31日現在）

建築概要

●位置	帯広市緑ヶ丘2番地1
●構想設計	アトリエアク（公開設計競技最優秀）
●基本設計	アトリエアク・大洋共同企業体
●実施設計	アク・日本設計・谷津共同企業体
●工事施工者	
建築	宮坂・萩原・曾根・市川・大道共同企業体（1、2期）
電気設備	相互電業(株)（1期）
空調和衛生設備	森設備工業(株)（1期）
電力設備	相互・柴野・誠和・テーエス・長島共同企業体（2期）
通信設備	北口・アサヒ・振興・扶桑・樋口企業共同体（2期）
衛生設備	フジ・梶山・中林 共同企業体（2期）
空調和設備	森・三洋・勝平・道東・浅岡共同企業体（2期）
●総工事費	約13億4千700万円
●工期	起工 1989（平成元）年10月9日 竣工 1991（平成3）年3月25日
●敷地面積	7,000㎡
●建物面積	総面積 2,499.99㎡ 延面積 3,521.60㎡
●構造概要	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
●仕上（外装）	
外壁	大理石（ライムストーン） コンクリート打放し小
叩上	アルミパネル
屋根	アルミ亜鉛メッキ銅板葺
屋上	露出アスファルト防水トップコート仕上
（内装）	
ロビーホール床	テラゾーブロック
主展示室床	フローリング
常設展示室床	タイルカーペット
ロビーホール壁	大理石（ライムストーン）合成樹脂系軽量骨材吹付
展示室壁	石膏ボード、一部ラワン合板下地クロス EP 仕上
ロビーホール天井	合成樹脂系軽量骨材吹付
展示室天井	岩綿吸収板 EP 仕上

設備概要

●電気設備	
受変電設備	受電電圧 6.6KV 変圧器容量 450KVA
非常電源設備	ディーゼル機関 123PS 3,000RPH 発電機 98KVA 3相 200V
動力設備	防災用動力 排煙機 11KW×3 消火ポンプ 5.5KW×3
電灯設備	・主展示室 LED照明（調光式）、ハロゲンランプ ・コレクション・ギャラリー 退色止蛍光灯（調光式）、ハロゲンランプ ・ロビー 間接照明 蛍光灯 ・講堂 LED照明
電話設備	電子ボタン電話
放送設備	防災一般兼用アンプ 160W
テレビ共聴設備	OCTV（帯広ケーブルTV）による共聴
火災報知設備	P1級受信機
視聴覚設備	上降式スクリーン1式 音声・映像ラック1式 映写設備（16mmフィルム、35mmスライド）1式 液晶プロジェクター1式
●機械設備	
空調和設備	
設定温湿度	主展示室、特別展示室、収蔵庫、展示ケース 年間 22℃（20～24℃） 55%（50～60%） *（ ）内は可変調節範囲、設定精度は温度±2℃ 湿度±5%
熱源機器	
空冷チリングユニット	冷却能力 240,000Kcal/H
吸収式冷温水発生器	冷却能力 100USRT 暖房能力 253,000Kcal/H
温水器	暖房能力 500,000Kcal/H
空調和機	
主展示室	2系統
常設展示室、荷解室	1系統
展示ケース	1系統
収蔵庫	1系統
ロビー、ホール	1系統
管理諸室	1系統
衛生設備	
給水設備	市水道使用

排水設備
給湯設備
消火設備

市下水道放流
電気温水器
屋内消火栓設備、ハロン消火設備

沿革

1987（昭和62年）7月	道東地域道立地方美術館設置調査費計上
1988（昭和63年）2月	帯広市への道立地方美術館設置を決定
1988（昭和63年）4月	帯広美術館設置基本構想策定
1988（昭和63年）5月	帯広美術館構想設計競技実施
1988（昭和63年）10月	帯広美術館構想設計競技入選作品決定
1989（平成元年）3月	基本設計完了
1989（平成元年）8月	実施設計完了
1989（平成元年）10月	建設工事着工
1991（平成3年）3月	建設工事竣工
1991（平成3年）4月	北海道立美術館条例の一部改正により、北海道立帯広美術館設置 北海道立帯広美術館職員を発令、組織発足 初代館長室田浩志発令
1991（平成3年）5月	博物館法に基づく博物館登録原簿に登録
1991（平成3年）6月	北海道博物館協会加入承認
1991（平成3年）7月	全国美術館会議加入承認
1991（平成3年）9月	北海道立帯広美術館落成・開館記念式典開催 屋外彫刻除幕、一般公開
1992（平成4年）3月	日本博物館協会加入承認
1992（平成4年）5月	第17回日本建築学会北海道建築賞受賞 受賞者：鈴木敏司、笹栗達夫（㈱アトリエアク）、小林英嗣（北海道大）
1992（平成4年）6月	照明普及賞受賞
1992（平成4年）12月	第9回帯広市都市景観賞（建物）受賞
1994（平成6年）4月	二代館長阿部皎発令
1995（平成7年）12月	第5回公共建築賞受賞
1996（平成8年）6月	入館者50万人達成（6月11日）
1997（平成9年）1月	開館5周年記念式開催
1997（平成9年）4月	三代館長長谷川吉廣発令
1999（平成11年）7月	四代館長上原修平発令
2001（平成13年）4月	五代館長小野寺浩発令
2001（平成13年）10月	開館10周年記念式典開催
2004（平成16年）9月	入館者100万人達成（9月26日）
2007（平成19年）6月	六代館長吉井亮発令
2011（平成23年）11月	開館20周年記念式典開催
2013（平成25年）4月	七代館長石堂普之発令
2013（平成25年）11月	入館者150万人達成（11月30日）
2019（平成31年）4月	八代館長野崎弘幸発令
2020（令和2年）9月	入館者200万人達成（9月30日）
2021（令和3年）10月	開館30周年記念式典開催（10月8日）
2024（令和6年）4月	九代館長川端雄一発令

観覧者数一覧

2023（令和5）年度

展覧会名	会期(開催日数)	観覧者数 A=F+G (1日あたり)	個人				団体/前売/リピーター/相互				優待割引				共通券				有料入館者計 F=B+C +D+E (/A)	無料招待免除 G (/A)	
			一般 (/B)	高大生 (/B)	小中生 (/B)	計B	一般 (/C)	高大生 (/C)	小中生 (/C)	計C	一般 (/D)	高大生 (/D)	小中生 (/D)	計D	一般 (/E)	高大生 (/E)	小中生 (/E)	計E			
コレクション・ギャラリー	4/22-3/10	22,480	1,297	52	13	1,362	241	13	0	254					4,342	191	32	4,565	6,181	16,299	
	(228)	(99)	(95%)	(4%)	(1%)		(95%)	(5%)	0%						(95%)	(4%)	(1%)		(27%)	(73%)	
特別展	丘の上のミュージアム	4/22-6/11	1,919																	0	1,919
		(44)	(44)																	0%	(100%)
	見えない音を描く	6/24-8/20	2,468	391	20	0	411	151	52	197	400	183	8	0	191	619	54	0	673	1,675	793
		(50)	(49)	(95%)	(5%)	0%		(38%)	(13%)	(49%)		(96%)	(4%)	0%		(92%)	(8%)	(0%)		(68%)	(32%)
	リサーチ・ソーン展	9/9-11/19	13,302	3,972	175	59	4,206	1,730	28	14	1,772	1,455	57	16	1,528	1,070	48	11	1,129	8,635	4,667
		(63)	(211)	(94%)	(4%)	(2%)		(97%)	(2%)	(1%)		(95%)	(4%)	(1%)		(95%)	(4%)	(1%)		(65%)	(35%)
	深堀介展	12/2-1/28	18,582	6,563	339	273	7,175	2,646	55	53	2,754	1,758	68	55	1,881	1,113	68	0	1,181	12,991	5,591
		(45)	(413)	(91%)	(5%)	(4%)		(96%)	(2%)	(2%)		(93%)	(4%)	(3%)		(94%)	(6%)	(0%)		(70%)	(30%)
	坂本直行展	2/10-3/10	4,739	1,278	20	0	1,298	470	34	130	634	737	11	0	748	406	25	0	431	3,111	1,628
		(26)	(182)	(98%)	(2%)	0%		(74%)	(5%)	(21%)		(99%)	(1%)	0%		(94%)	(6%)	(0%)		(66%)	(34%)
	計	4/22-3/10	58,751	12,204	554	332	13,090	4,997	169	394	5,560	4,133	144	71	4,348	3,208	195	11	3,414	26,412	32,339
		(228)	(258)	(93%)	(4%)	(3%)		(90%)	(3%)	(7%)		(95%)	(3%)	(2%)		(94%)	(6%)	(0%)		(45%)	(55%)
	合計		63,490	13,501	606	345	14,452	5,238	182	394	5,814	4,133	144	71	4,348	7,550	386	43	7,979	32,593	30,897
			(278)	(93%)	(4%)	(3%)		(90%)	(3%)	(7%)		(95%)	(3%)	(2%)		(94%)	(5%)	(1%)		(51%)	(49%)

2024（令和6）年度

展覧会名	会期 (開催日数)	観覧者数 A=F+G (1日あたり)	個人				団体/前売/リピーター/相互/親子等				優待割引				共通券				有料入館者計 F=B+C +D+E (/A)	無料入館者計 G (/A)	
			一般 (/B)	高大生 (/B)	小中生 (/B)	計 B	一般 (/C)	高大生 (/C)	小中生 (/C)	計 C	一般 (/D)	高大生 (/D)	小中生 (/D)	計 D	一般 (/E)	高大生 (/E)	小中生 (/E)	計 E			
コレクション・ギャラリー	4/20-3/16	13,780	422	24	7	453	468	27	0	495					3,003	168	0	3,171	4,119	9,661	
	(180)	(77)	(93%)	(5%)	(2%)		(95%)	(5%)	(0%)						(95%)	(5%)	(0%)		(30%)	(70%)	
特別展	星道展 野夫	4/20-6/30	20,226	6,434	51	2	6,487	4,445	293	136	4,874	1,712	10	0	1,722	1,535	69	0	1,604	14,687	5,539
		(72)	(281)	(99%)	(1%)	0%		(91%)	(6%)	(3%)		(99%)	(1%)	(0%)		(96%)	(4%)	(0%)		(73%)	(27%)
	帯美 コレクション 選I	11/1-12/22	2,491	247	14	0	261	186	19	0	205	83	4	0	87	490	28	2	520	1,073	1,418
		(52)	(48)	(95%)	(5%)	(0%)		(91%)	(9%)	(0%)		(95%)	(5%)	(0%)		(94%)	(5%)	(0%)		(43%)	(57%)
	帯美 コレクション 選III	1/11-3/16	2,368	98	8	0	106	111	29	0	140	113	0	0	113	708	50	0	758	1,117	1,251
		(56)	(42)	(92%)	(8%)	0%		(79%)	(21%)	(0%)		(100%)	0%	(0%)		(93%)	(7%)	(0%)		(47%)	(53%)
計	4/22-3/10	25,085	6,779	73	2	6,854	4,742	341	136	5,219	1,908	14	0	1,922	2,733	147	2	2,882	16,877	8,208	
	(180)	(139)	(99%)	(1%)	(0%)		(91%)	(7%)	(3%)		(99%)	(1%)	(0%)		(95%)	(5%)	(0%)		(67%)	(33%)	
合計		38,865	7,201	97	9	7,307	5,210	368	136	5,714	1,908	14	0	1,922	5,736	315	2	6,053	20,996	17,869	
		(216)	(99%)	(1%)	(0%)		(91%)	(6%)	(2%)		(99%)	(1%)	(0%)		(95%)	(5%)	(0%)		(54%)	(46%)	

2023（令和5）年－2024（令和6）年度
北海道立帯広美術館年報
発行日 2026（令和8）年2月27日
発行者 北海道立帯広美術館
〒080-0846
帯広市緑ヶ丘2番地
Tel. (0155) 22-6963
© Hokkaido Obihiro Museum of Art 2026